

テレパシー
コール UFO観測会特集

UFO

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティー

contactee

AUTUMN
1991

日本GAP<sup>テレパシー
コール</sup> UFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景

114



奇跡を起こす想念の力
私は巨大な円盤を見た!
タパヌイの謎の大爆発
アダムスキーの主張は正しかった

〈巻頭言〉日本GAP創立30周年	1
日本GAP全国ネットテレビパシコールUFO観測会、大成功	2
北海道上空の物凄い光景	松村 芳之 12
〈写真〉金星の水路	16
尽さぬ宇宙へのロマン	高 樹 澤 17
奇跡を起こす想念の力	遠 藤 昭 則 18
私は巨大な円盤を見た／	松 浦 義 教 23
タバノイの謎の大爆発	ジャン・バジャク博士 25
GAP短信	28
東京月例会、9月より会場を変更	29
科学——SCIENCE	30
第12回山形・仙台合同支部大会	36
〈予告〉1991年度日本GAP総会	37
アダムスキーの主張は正しかった	ダニエル・ロス 38
〈投稿欄〉ユーコン広場	47
本誌/バックナンバー掲載記事目録	48
編集後記	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
日本GAP全国月例研究会案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2層の図形の内、左側は宇宙の父性原理（陽）、右側は母性原理（陰）を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真

1973年6月、カナダ・オンタリオ地方のある人が友人とともに自宅の裏庭にいたとき、1個の不思議な物体が空中に出現した。本人はすぐに家の中へ入り、カメラを持ち出して連続7枚の写真を撮影した。これはそのうちの1枚。撮影者の氏名は伏せてあるが、この写真は本物のUFOであると専門家から確認されている。

日本GAPは本年九月をもって創立三〇周年を迎える。アダムスキーの要請により編者が日本GAPを設立して機関誌第一号を出したのは昭和三十六年の九月であった。現在のようにワープロという便利な機械やコピー機などのない時代なので、ガリ版の粗末な印刷物を約二〇部手刷りで作成して知り合いの十数名の人に無料で配布したので昨日のように思い出される。

以来三〇年、多大の困難や障壁を乗り越えながら苦闘を続け、本号で一一

〈巻頭言〉 日本GAP 創立30周年



四号となった。これもひとえに多数の会員の方々のご支援の賜物であり感謝に堪えない。自費めいて恐縮だが個人発行の長年月刊行機関誌として他に多くの類例はないだろう。しかも一円たりとも借金をしたことはなく、超堅実な運営を遂行したと自負している。

多くの同人誌が数号で消滅するのは主宰者が自腹を切らないからである。執筆、翻訳、編集、版下製作に至るあらゆる仕事を主宰者自身でやるかまたは資金を提供する心構えが基本的に必要で、それをやらずに専門家や印刷所へ依頼していれば資金繰りに窮してす

ぐに潰れてしまう。資金が不足するのなら主宰者がプロ編集者としての技術を身につけて編集し、それだけの費用を浮かすといひのだ。

本誌の場合は編者がほとんど単独で編集してきたが、加えて多数の会員の方々の有形無形の御援助が幸いしており、特に資金面では特別維持会員の御支援が燦然たる光芒を放っている。

長い啓蒙活動において最重要な要素

は何であったかと言うと、回答は二つ。資金と英語である。いずれも不可欠の武器であるが、UFO問題については大体に海外から大量の資料が流入するし、また常に海外の研究団体や個人研究家と情報交換や交流を保つ必要がある

ので、英語力が絶対に必要である。それも辞書を片手に何とか曲がりなりに訳せるという程度ではだめで、日本語の新聞雑誌を読むのと同程度のスピードで読めねばならない。また文献を

読むだけでは不十分で、達者に英文が書けること、流暢に喋れること等、パランスのとれた語学力が要求される。結局、日英のバイリンガルにならねば到底国際的な活躍は出来ない。編者はその力がなかったから（今でもないが）四苦八苦したのである。むかし若い頃、文学、音楽、美術、写真に没頭して膨大な時間をつぶし、悔いを千載に残す結果になった。

そこで重要なレッスンが与えられる。自分にとって必要な何かの能力を開発

するには、まず断固たる決意を持つことと、そのためには一定のプログラムを立てて、それを徹底的に遂行するのである。例えば、英語をマスターするには毎日例文を五個ずつ確実に暗記してゆく。その場合文語体の文章よりは会話体の例文がよい。外国語の習得は暗記以外の何物でもないから、この応用例文の徹底暗記を一年間続ければ、素晴らしい英語力が身につけて驚喜するだろう。ただし英米人による録音テープを聴きながら正確な発音を身につけることが大切である。テープを絶えず聞くのがよい。

ここでファーコン氏の言葉が浮かんでくる。「ずっと昔、私達は信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ちとることができます」（『第二惑星からの地球訪問者』二九七頁）

この部分は、怠惰になりがちな地球人に偉大な勇氣と信念を与える言葉としてGAP会員間で有名になっており、これを実践している人も少なくない。

アダムスキーが伝えた異星人の哲学は、地球の宗教のごとく、自分の外部（哲学用語では外界という）に何かの絶対者を設定して、それにすぎないのでなく、自己の内部に絶対的、宇宙的なものが存在することを人間が自覚して、それとマインド（心）との合一を図ることを教えている点にある。

したがって人間に必要なのは外界の

偶像や教祖ではなく、人間内部に存在する超偉大な絶対者を自覚し、それを基盤にした生き方をすることにある。ただし既成の宗教や哲学を捨てる必要はなく、その中の宝石だけを取り出せばよいだろう。

アダムスキー哲学の実践は容易ではないけれども、実行してみる価値は確にある。それは人間の視野を大きく開かせて宇宙的な方向へ前進させる要素を帯びているのである。恐怖を与えるだけのUFO事件に関する記事が巷間に氾濫するけれども、そのような底のない情報とは大きく一線を画するアダムスキー問題の研究実践集団である日本GAPが、ともかくも三〇年間存続できたことは慶事である。

日本GAPは、宇宙の真実と法則を学び理解する人々が互いに交流し激励し合う場として毎年東京で総会を開催している。

今年はアダムスキー生誕一〇〇年になる。そこで九月の日本GAP総会ではまずこれを記念し、日本GAP創立三〇周年と新アダムスキー全集全一〇巻完結を祝して盛大な集會が開催されたい。詳細は本号37頁の予告を参照されたい。全集の第一〇巻のみは今年八月一〇日に刊行される予定である。多数の方々のご来場を期待致したい。

「継続は力なり」という。今後も大いなる信念をもって前進を続けるつもりである。

1991年度

日本GAP

全国ネット
トワーク

テレパシーコール

UFO観測会、大成功

かねてから予告していた日本GAP全国支部ネットワークによるUFO観測会を去る五月二五日に東京本部をはじめ全国一七支部が一斉に実施した。その結果、素晴らしい成果を収めたグループが続出。テレパシーによるUFO呼び出しが真実の現象として立証された。

(1)東京本部観測、大成功!

本部役員 安藤澄雄

東京本部の観測は都内に適当な場所がないことから神奈川県秦野市^{はつね}柗窪の小高い丘の上で実施された。ここは市内の西方、標高一〇〇メートルの丘陵地帯の一角で広い草原地帯。上等な舗装道路に隣接した便利な場所。

前日の天気予報で関東地方はこの日「曇り、ときどき雨」というイヤな放送があつたにもかかわらず、なんと当日は一点の曇もない快晴。おまけに東名高速道は工事のためうるさい車の流れがなく、絶好の観測日和となつて何から何まで幸運だった。

この日の観測は夜の九時から一二時までと全国支部に通知してあつたが、東京本部のみは場所が遠方のため、時間を繰り上げて七時から一〇時までとした。明るいうちに関東方面から車で

続々と現地に集合。道路際には沢山の車が並ぶ。

六時半より参加者を集めて日本GAP会長・久保田先生が挨拶し指示を与える。UFO観測の大ベテランである先生がユルモラスに説明して七時より全員で一斉に観測態勢にはいる。

観測ではよく輪になつて手をつなぐ方法が採用されるが、これはむしろ緊張して疲れやすいという会長の意見により、各自自由な姿勢でリラックスしながら夜空を見上げる。

といっても、「UFOよ、出てこい出てこい」という横柄な呼びかけではないので、そこはGAP流に丁寧な言葉による想念波動を送るようにと先生が説明する。その言葉は次のとおり。「偉大な惑星からいらつしやいました宇宙の兄弟の皆様方。いま日本GAP

の私たちがお迎えにまいりました。なにとぞ出現されまして、私たちをご指導下さいませ」

この言葉を口に出すのではなく、心の中で念じて上空に放射するのである。

先生によると、この言葉は昔から先生が観測時に用いる決まり文句であるという。そして想像を絶する物凄い光景を何度か目撃したと話す。

七時過ぎより次第に暗くなつて夜空に星々がちらつき始める。

そのうち何度が弱い光体の飛翔を見たという人がぼつぼつ出てきた。

七時四四分、突如あちこちから叫び声が上がった。「UFOだ!」

見ると、天頂付近を急スピードで南から北へ飛行するオレンジ色の物体が見える。「出たぞウ!」

一同が歓声をあげるなかを飛行物体は北斗七星のはずれで消えて行く。出現した時間は約二〇秒ぐらいいか。

これに気をよくしたのか次第に雑談が広がつて少し騒がしくなってきた。

先生が大喝一声、「静かにして上空へテレパシーを送れ」と注意したので、今度はシーンとした静寂さに包まれて雰囲気好転した。

八時六分、突然歓声が起こる。また

もUFO出現!

見ると、今度はさっきとは逆に北の方から南へむかつて強烈に光るオレンジ色の物体が天頂付近をなんとジグザグに飛ぶではないか!

オーツ、凄いい! キャーッ!

一同の騒ぎをよそに光体は急スピードで南の方向に飛び去つて消えてしまった。この目撃時間も約二〇秒ほどだろう。

そのあとは数度弱い光体が飛ぶのを何人かの人が目撃したけれども、UFOかどうかは不明。

結局八時六分の光体が今夜のハイライトとなつて一〇時に先生の挨拶とともに大成功裡に終了した。

昨年の観測会は大雨にたたられてむなしい結果に終わっただけに、今年の成功にはひとしお嬉しさを隠しきれない。本部役員一同は秦野駅前のホテルに宿泊して、万年山で楽しく祝杯をあがった。

日本GAP会長 久保田八郎

今年の観測会は何もかもがうまくいった。なんといっても快晴になったこと。付近の東名高速が通行止めになつて車のライトの流れが消えたこと、当



▲六時半より夜更の機織り注意事項。



▲おっ、川口だー



▲竣工後の全職無給。機織り注意事項。

日夜の気温が摂氏二一度という快適な温度でほとんど無風であったこと、観測地の地主の方がここよく場所を提供して下さったことなど、ツキにツイていた。こんな夜にUFOが出ないというテはない。ひよつとすればこの草原地帯に円盤が着陸するのではないかと思つたが、そこまではゆかなかつたにしても、あれほど強烈に光るUFOが出現すれば大成功である。八四名のほぼ全員が目撃したのであるから否定のしようがない。あのように明確に見えるUFOの出現は、そうざらにあるものではない。あれだけ見えれば上々である。

昨年の観測会では大雨にたたられて残念な結果に終わったので、今年は挽回しようと思ひ込んでいた。特に精神的に高次元なレベルを保とうと私は想念観察に励み、事前からスペースビープルに想念を送っていた。そのせいか当日になると、今夜は絶対に出現するという予感があつた。また出現したイメージも描き続けていた。そしてそのとおりになった。有難い！

今年は全国の支部が分散してそれぞれの地元で観測会を実施するという方法を採用した。これはどこかの支部が悪天候でも他の支部が晴れて目撃できれば、一応成功と言えるからである。この方法は良かったと思う。

私が見るところ、テレパシーコールによる観測に慣れない人が多いようだ

が、今回の体験で要領が把握できたと思うので、今後は個人または小グループで観測を続けて頂きたい。そして成果があればGAP本部へ報告して頂きたい。UFOを見ることは大いなる自信をつける上で重要なことである。深遠なアダムスキー哲学も結局は別な惑星から来る宇宙船やそれに乗っている人々と密接な関連があるのであるから、UFO目撃などとはどうでもよい、哲学さえやっておればよいというようなエクスセントリックな考えでなしに、哲学と観測の両方にわたるバランスのとれた研究態度が望ましい。

遠方から参加された多数の方々に感謝したい。

今日の目撃を待っていた！

埼玉県 西澤緯星
午後六時頃、久保田会長一行到着。ミーティングの後、観測地点を設置していいよUFO観測にはいる。

七時四四分、突然、誰か手を差し上げてUFOの発見を知らせる。全員が目が指さした方向に向かう。まばらにまたたく星々のあいだを縫つて一個の光体が南の中空から一直線に北の方向に進んで行く。光体のスピードは相当に速い。ジェット機の速さの数倍はあろうか。アツというまに私たちの頭の真上を通り越して北の方へ消えた。

再び沈黙がおとずれる。待つこと数十分。時計は午後八時六分頃だった。

誰かが声とともに手で指す。みな一斉に立ち上がった。

今度はかなり光量のある光体が北の空から北斗七星を左にして頭上にやって来る。南の方向をやや東寄りに進んで、ちょうど頭上あたりでいったん停止したのか位置を変えたかの動作があつて再び直進する。私たちの目から約三〇度くらい上方の位置で消えた。時間にして二〇秒か。一斉にわきおこる拍手喝采！

今日の目を、今の時を何日も待つていた。GAPと久保田会長を信頼して、絶対にこの目でUFOを確認できるのだと集まってきた今日の参加者の皆さんはまことにハッピーであつた。

成功したUFO撮影

横浜市 谷本英雄

先日のUFO観測会は大変有意義で大成功でした。会長様をはじめ役員の方々のおかげで私はよい勉強をさせて頂きました。撮影しました写真及び撮影の状況を記録したものを添付します。で、よろしくお願いいたします。次の機会にもぜひ参加させて頂きたいと思ひます。以下はレポートです。

観測状況

南には月が出ていたので北の方をおもに観測していた。八時五十六分頃だったろうか、北のかなり高緯度の位置に動く物体をキャッチした。明るさは

一等星ぐらい。色はやや赤みを帯び、北北東から南南西に向けてゆっくり移動している。「見えた！ あそこだ！」と何人かが叫ぶ。

三脚上のカメラを動かして視野にとらせ、シャッターを切る。シャッターはバルブにセットし、一回で二〜三秒から五〜六秒の露出で七コマ撮影した。

左頁の写真二点は天頂に近い位置にある明るい星（うしかい座のα星、アルクトウルスか？）の西側を通過したときにシャッターを切ったものである。露出は五〜六秒。写真の上が北。下は南。右側の長い光のスジがUFO。いずれも南方へ直線上に進行している。

カメラニコンF3。レンズ180ミリ F2.8開放。フィルムフジクロームP1600。3200で増感現像。

編者注 谷本氏は六〇歳。写真のプロ級ベテラン。あの短時間に画角の狭い180ミリ望遠レンズを駆使してこのような見事なバルブ露出の写真を手動巻き上げて七コマも撮影された腕前には感嘆のほかない。

写真二点の内、上の写真は連続七コマ撮影の最初のもの。これについて、物体の航跡が波を打ったようになってるのは、円盤自体が回転（自転）しながら進行したためにこのような波型に写つたのであると思われる。

これはUFO写真にときたま見られ

る現象で、つまり「私たちは飛行機や流星や火の玉ではありませんよ。正真正銘のUFOで別な惑星から来た宇宙船なのですよ」とスペース・ピープルが意思表示し、そのことを明確に証拠づけるために回転しながら飛ぶのである。またジグザグに飛ぶ光景もよく見られるが、これも地球の確認飛行体と区

別するためである。その他、UFOの特徴は急スピードで直角にターンしたり、上昇しながらUターンして地上の方向へ落下するように見せかけながら突然消滅したり、いろいろとアクロバティックな飛び方を示すことがある。

ジグザグに飛ぶ光体

東京 磯目三鶴

神奈川県秦野市のふもとで、出現三回のうち二度目の目撃。観測場所である草むらの平地よりも少し高い所からテレビシークールを行う。

「偉大な惑星からいらっしゃいました

宇宙の兄弟の皆様方。いま日本GAPの仲間たちがお迎えにまいりました。なにとぞ出現されてまして私たちをご指導ください」

これを唱え続けていた午後八時六分頃、私から見たほぼ真上の星と星とのあいだをジグザグに縫うかのように、星の光と一味違った輝きで月の方へ通

撮影／谷本英雄

●秦野市上空のUFO

過して行く光体があった。その動きを見ながら、確実に想念波動がくついついいるのを感じた。私は一五秒間ぐらい見ることができたと思う。久保田先生、本部役員の皆さん、宇宙の兄弟の皆様、有難うございました。

初めて見るUFOに感動

神奈川県 藤井 亮

先日の全国UFOネットワークUFO観測会ではいろいろとご指導を頂きまして有難うございました。お蔭さまで生まれて初めて肉眼でUFOを見ることができました。ここに報告書を送らせて頂きます。新アダムスキー全集は電車の往復で必ず読んでおりますが、なかなかむづかしく、月例会での久保田先生のご講義を心待ちにしております。

一九九一年五月二五日午後八時七分、自分の目ではつきりとUFOを確認しました。五〇歳四カ月目にして初体験、意外に冷静でした。

実はこの観測会の約一カ月前の四月二七日に富士山へ観測に行ったのですが、残念ながら見えませんでした。このような経緯がありましたので、この日の観測会には冷静な気持で参加することができました。

六時三〇分から会長の挨拶。それに引き続いて観測開始。まだ空は明るい。暗くなるまで待とうといった気持。そして冒頭の八時七分、「真上に見え

る」という声。まわりがざわめく。ついに私も見た！ 木星ぐらいの明るさの物体が北から南へ飛んで行く。最初はまつすぐに、そして左右にジグザグに、光度を落として飛び、止まったかに見えて、消えた。

先に冷静だったと書きましたが、それは見る前とあとのことで、見ているあいだは心臓の鼓動は相当地早かったと思います。

その前にも二度見えたらしいが、老眼鏡を使うようになってからは遠くの物もかすんで見えにくくなっているの、そこらは確認できませんでした。

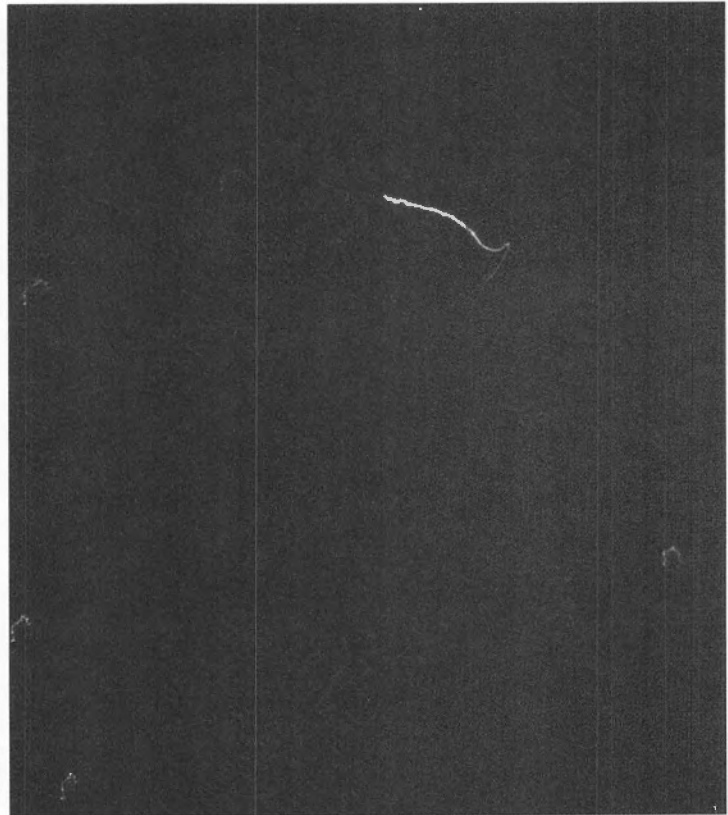
この次はもっと間近で見られるようにアダムスキー哲学を学び、実践できるように研鑽したいと思えます。天候、気温とも今日の日を祝福してくれるかのように絶好の観測日和でした。

スペースビープルとの交流を

東京 井口昌彦

五月二五日午後七時四四分、南から北の方向へ二〇秒間ぐらい一等星ぐらいの明るさの白光体を目撃、撮影しました。写真を見ますと、左端の下の方に星が数個写っており、手ブレを起こしているのが分かります。この星のブレ具合と上方のUFOの航跡は全然違うことが分かりますから、UFOは独自な動きをしていたことが確認できて、これで上方の白光体の動きが星とは別なものであることが識別できます。

▶午後七時四四分に出現したUFO。



撮影／井口昌彦

今回の観測会は成功でした。しかし、もっと形が明瞭に見えるほど接近してほしかったと思います。そしてスペースビープルへの協力を致したいと思っています。

強烈な光体を目撃

千葉県 堀江健一

観測会当日は雨で中止になるかと前日に思われたが、おだやかに晴れて幸

先のよいスタートだった。まだ五月なのに首都高速から都内のビルの屋上にある温度表示を見ると摂氏二九度と出していた。たしかに車の中は暑く、冷房をかける必要があるぐらいたが、夜になればちようどよいぐらいたろうと思

った。
東名高速に入り、海老名のパークイングで休息した。ここでUFOの出現する時間を感じてみたが、前日の感じと

同じで、「観測を始めて早いうちに、まだ明るいうちに出る」という感じが続いている。車に同乗している友人三人にもこの感じを話した。

私はUFO観測をするときに決まったキーワードがあり、今回もそれを行なっている。それは観測前日ぐらいかは異星人や宇宙船に自分をロックする。またはロックしたと言いつけるテクニクだ。こうすると日常の思考で暴れている心が静まり、寒さや空腹など肉体の日常の反応も気にならなくなり、印象を非常に受けやすくなる。パーキングでさらにこのロックを強くした。

観測場所に着いた。この場所は草木のある丘陵地帯で、このような地形は心をなごませるものがあり、とても良い雰囲気である。

午後六時三〇分、久保田先生からのお話と注意事項があり、観測開始。しばらくして車にもどるために観測場から道路に出たとき、そこにいた篠氏と話をしたところ、この道路の上に行く大山が見えるということで、二人で行ってみることにした。

途中、何年にも前になるが、篠氏と丹沢を登山したなどを話しながら五〇メートルほど歩くと丹沢の山々が現れてきた。すると篠氏が「あつ」と言つて東の方角を指すので、見ると強烈に光る発光体が私から見るとほぼ水平に、平地からの高度約一〇〇メートルの空で輝いていて、北の方向にゆっ

くり移動していた。時間は午後七時。距離は二〜三キロだろうか。この光体は光りを弱めながら一〇秒ほどで完全に消えた。UFOだ。

最初、この光体を、たまに旅客機がつける強力なサーチライトに似ていると思ったが、近くに丹沢の山々があるのに、旅客機がこんなに低い高度で飛ぶはずはないし、七時といつてもまだ明るいのでサーチライトをつける必要もない。それに発光体との距離からみてサーチライトよりも強い光のようだった。その後、飛行機が飛ぶのと同じ位置から見たが、はるかに高い高度を飛んでいた。篠氏もUFOに間違いないと確信されていた。

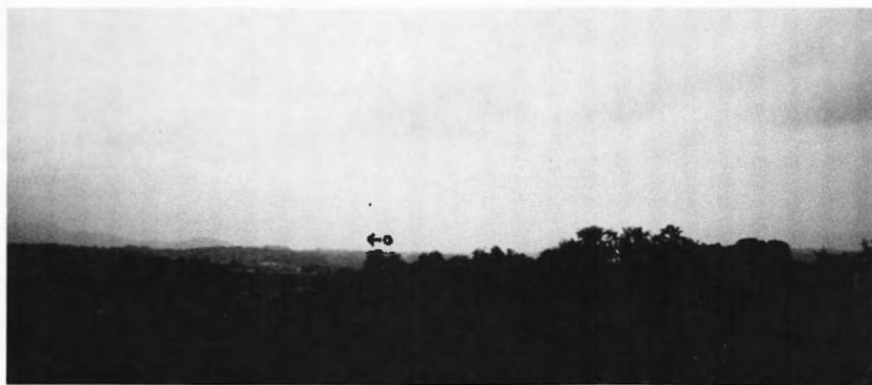
観測場所に戻り、再度印象を感じてみることにした。すると印象が違っていて、「大きいのが八時に出る。あとは出ない」という感じを強く受けた。次に出現する方向を感じてみることにしたが分からないう。いままでの観測でもUFOの出現する方向が事前に予知できたことは残念ながらない。どうも時間より方向を予知するほうが難しいようだ。

とにかく午後八時に重点をおいて観測を続けることにした。そして宇宙船に乗っている別な惑星の方々にテレパシーをさらに強く送った。

七時四十分、上空を南から北へ飛行するUFOをほぼ全員が確認したようだった。光が弱い肉眼でなんとか確

認できる。最初私にはこの光体が何度も見ている人工衛星のようにも見えたが、久保田先生はこのあと「あれはUFOだった」とはつきり言われたので、昔、陸軍航空隊にいた先生の識別力の素晴らしさにあらためて感心した。

◀堀江氏が篠氏と目撃した強烈に輝く光体を写真中に描き込んだもの。



(编者注) 眼視観測において、見かけ上、人工衛星があの様な急スピードの進行状態で見えることはあり得ない。一方、流星にしては航跡があまりにも長く明確であつたし、飛行機にしてはライトの点滅が全くなかった。火の玉などは論外である)

七時四十八分、上空をまたUFOが飛び、多くの方が確認しようだったが、視力が悪いせいとか、残念ながら私には見えなかった。

八時。印象を感じた時間である。来るぞ、来るぞと心が高鳴り、落ち着かない。

八時五分、またも上空にUFOが現れた。今度は一等星ほどに強く光る光体が北から南に飛行している。双眼鏡を使用した私の目撃時間は約九〇秒。実際のスピードは航空機よりずっと速いだろう。高度はかなり高い。素晴らしい光景だ。

以上の報告中のUFO目撃時刻は、正確に時刻を合わせたビデオカメラを観測開始から常に回していて、録音された音声と時刻表示をあとで調べたもので正確だと思う。

今回の観測は精神的に不安定で、充分観測に集中できなかったため、上空からの印象の感受という面でうまくゆかなかつたことも多々あったが、その分勉強になった。このような企画をして頂いた久保田先生や本部役員の方々に厚くお礼を申し上げます。

歓声と拍手

神奈川県 山口義益

観測地に到着したのは六時二〇分。

係員の丁寧な指示に従い、所定の場所へスタンバイ。六時三〇分、久保田会長より挨拶と注意事項がユーモアを交えながら漏れなく行なわれた。そのときはまだ明るくて参加者は五七名いたのを確認した。その後も何名か増えたようであった。月が明るい。

七時三〇分、北東方向で緑と赤にきらめく光体を発見。UFOかと思われたが、その後も光体に変化がなかった。

七時五三分頃、天頂付近より北の方へ移動して行く光体(約一・五等星程度)を発見、約二〇秒後、角度四五度付近で急に暗くなり消えてしまった。

当初は人工衛星かという声があったが久保田会長より「UFOである」との説明があったため、納得できた。

八時六分頃、天頂に角度で約二五度程度のからす座(ほぼ南)の方向に一つの強烈に明るい光体が、ものすごいスピードで月の左約一〇度方向に飛行するのが見えた。双眼鏡で見るとジグザグ飛行で、周波数は約一〇ヘルズ/秒であった。この光体は四五度ぐらいの角度になったときに徐々に暗くなり消えてしまったが、多くの人の歓声と拍手がわき起こった。今後も毎年観測会を実施して頂きたい。

(2)大阪支部にも不思議な光の帯

大阪支部代表 平塚和義

大阪支部は五月二五日夜、大阪府池田市の中央部から北に広がる丘陵地帯の一角をなす五月山公園で観測会を実施した。当日の天候は曇と晴。参加者は大阪支部会員のうち一九名。

阪急宝塚線「池田駅」で集合して、ザックを背負った会員たちがそろって出発する。先発隊と無線機で連絡をとりながら山道へ入る。樹木の間から見える阪神一帯はまさに百万ドルの夜景。山頂の五月山公園は暖かい安らかな雰囲気満ちて心が落ち着く。

定刻の九時に私が挨拶していると、まわりは夜の公園をあてこんで来たのか、若いカップルが大勢いて、私たちを妙な目で見ています。

そんなことにはお構いなしに私たちは堂々と観測を続ける。しかしどうも今夜は、土曜日のせいかアベックが多い。彼らが全部いなくなればだめだなと思っていたら、一二時を少し過ぎた頃にそのとおりになって、われわれだけになった。当然、呼びかけにも熱がこもる。

しばらく沈黙が続いた後、「出た!」と大声でみんなに知らせる。

前方の山腹に赤黄色の光体がゆっくり動いているのが肉眼でもはっきり分

かる。スキヤニングデイスクか? それとも車のライトの誤認か、とっさの判断はできない。日頃から内部のフィリングで感じることの重要さはいやというほど分かっているつもりなのに、どうもまだ修行が足りない自分が悔やまれる。今夜だけでこの同じ場所で三回も光体を確認したのだが、UFOかどうかは分からない。

観測を開始してからすでに四時間が経過したが、その間、山腹を巻くドライブウエーの車の灯火を誤認したり、雲が星の間を動いているのを誤認するなどの一幕もあったが、こちらの方は以前、特殊な訓練を受けているので、まもなくこの騒ぎは収まった。

先程から上空からの波動がピンピン来ている。皆テレパシクにそれを感じ取っている。

きわめつけは次のような光景だった。皆が何かを感じる方向を注視していると、突然、前方の山々が連なる鞍部の上空に、脈動しながら高速で移動する光の帯が見えるのだ! 「よく来てくれましたね」というような感じで飛行するこの光景を見ると、言葉で表せない幸福感がわいてくる。実に感動的な光景だ。

以前にもこの上空の雲の中に隠れ

た円盤が出てきたことがあった。

この素晴らしい感動的な光景を全員で目撃したかったが、七名にとどまった。この後も少し時間をおいて同じ上空に同じような光景が展開し、またも感激の連続である。ほっとした気分ではしばらく休憩し、熱いコーヒーをすすりながらの歓談。

やはりわれわれの呼びかけに応じて下さったのだと、何とも言えぬ充実感でリラックスする。観測を開始してからこれ六時間は経過しているだろうか。特別にしつらえたベッドに入り、しばらく仮眠する。

東の空が明るくなつて空は晴。山々は緑鮮やかで、美しい。思わず「有難うございました」と心中で叫んだ。

以下は支部で用意した観測記録用紙に報告された各自のレポート。

兵庫県 宇野秀樹

二六日朝一時三〇分頃。山の稜線の上空をタバコ一本分ぐらいの太さと長さの透明に近いビーム状の光が走った。

大阪市 築瀬和孝

西から北西の空へ淡いフラッシュライトのような光が二度出現したのを目撃。明らかに意志を感じさせる光で、雷光ではなかった。仰角四五度。

大阪市 中村 亨
〇時一五分頃、パチンコ玉ぐらいの

黄色の光が山脈中に見えた。二回大きく光ったが、よく分からなかった。光は動かなかった。

岡山市 山崎真由美

○時一五分頃、黄色の濃いパチンコ玉のような光がメラメラと光るような感じで山脈中に見えた。三名で約三秒間見た。始めは小さく、次に大きくなって、再び小さくなって消えた。

泉南市 福本賢一

九時四五分頃、星と同じぐらいの大きさの光体が北から南へ仰角八〇度で一直線に飛ぶのを約八秒間、二名の人と目撃した。速さはジェット機の数倍以上あった。雲に隠れた。

大阪市 福井貴子

二六日午前一時三〇分 北側の山脈上空約一五度の空に、無色のレーザ光線(?)、とうしや機使用のときに見る光のスジのような感じで、北より西へ向かってやや斜め下向きにサツと走るように光り、消える。

大阪市 田辺健司

五月二六日午前一時三〇分頃、ビー玉の半円状ぐらいの大きさの光の帯が山脈のすぐ上の空に西から北へ約二〜三秒移動するのが見えた。目撃者は他に二名いる。

岐阜市 木多見昌弘

二六日午前〇時一五分、山脈中、西から東へサーチライトのような光点が約一〇秒間飛ぶのを他の三名とともに見た。色はオレンジだった。

(3)新潟支部、UFOを目撃

新潟支部代表 星 富治夫

五月二五日夜一二時すぎと二六日午前一時すぎの二回、UFOの出現があった。一回目の出現は確認できなかったが、二回目の出現では頭上で天頂付近に複数の光体が移動していた。

観測方法は参加者が輪になって全天観測できるようにしながらテレパシーコールを行なった。

呼びかけの言葉は久保田会長からの指示どおりに、「偉大な惑星からいらつしやいました宇宙の兄弟の皆様方。いま日本GAPの兄弟達がお迎えにまいりました。なにとぞ出現されまして私達をご指導下さい」と統一した。

これを交互に繰り返す方法を取り、参加者の疲れが軽減されるように工夫した。途中まとまった休憩時間を取り、暖かい飲み物などを自由に飲めるようにした。

天候は曇り空。予報では降水確立一〇パーセント。一時、小雨がぱらついた程度。ほとんど無風状態。参加者は皆熱意ある人ばかりだったので、GA

編者注Ⅱ大阪支部は非常に真剣な態度で綿密な計画のもとに立派な案内書を作成して全員に配布し、万全の態勢で観測会を実施した。観測時間は翌日の早朝三時まで計六時間に及んだ。

P独特のよい雰囲気ができ、真剣かつリラックスした和やかな雰囲気のなかで一時三〇分すぎに観測会を終えて散会した。参加者は六名。

今回の観測会ではUFOのはなばなしい出現はなかったけれども、天候が曇り空であったこと、初めての観測会であったことを考え合わせると、スペースビープルの側でもあれで精一杯の出現ではなかったかと思う。次回の観測会に期待をつなぎたい。

新潟県 佐藤 隆

曇り、ときどき小雨ぱらつく。二六日午前一時五分頃、発光体を見る。星の色に類似していた。それほど速く動いたようには見えなかったが、距離を

考えれば速いかもしれない。一つなのか複数なのかよく分からないが、東天から西に移動したり、西天から東に移動したのが見えた。スイススイと滑るように動いた。参加者が円陣を組み、外側を向いて全天が観測できるようにした。互いに手をつないで輪を作り、想念を集中した。物体の大きさは星と変わらない。

新潟県 宮山京子

天候は雲がいつぱいで、パラパラと雨があたっているような夜です。私の見た限りでは、あのような空の下では星が肉眼で見えなかったと思います。ときどき風のせいでしょうか、チラッと星が見えたこともありましたが、一番最初に発見した物体は、見かけ上、星と類似してはいましたが、動いて移動しておりました。『見たい』という思いがそうだったので、と言われてみると、はつきり答えられません。スピードはかなり速かったと思います。白っぽい丸い物体です。小さいです。観測方法は一定の時間を決め、サークルになって想念を送りました。

(4)長野支部にも素晴らしいUFO出現

長野支部代表 博田文喜

長野支部の観測会は長野市松代町の皆神山山頂の駐車場で五月二五日に実

施した。参加者は一七名。うち子供さんが三名。七時から予定していたが、集合時間に遅れた人や、観測前の諸注



▲上は円陣を組んでテレビシーで呼びかける。下は参加者。



(5) 光体を見た横浜支部

横浜支部代表、清水 正

五月二五日夜、天候、場所の印象、集まった人たちのなごやかな雰囲気など、すべてが良い状況のもと、一三名の参加者で観測会が行なわれました。

六時三〇分から自己紹介やUFO目撃談などを話し合い、七時一五分から観測を開始しました。南郷山公園は神奈川県葉山町の整備がゆきとどいた、しかもあまり知られていない美しい公園です。なにしろこれだけの公園でありながら人があまり訪れないので、もったいないほどです。首都圏で知れ渡ったら都心からの交通も便利ですから大勢の人が来るでしょう。

さてUFOの目撃ですが、七時三〇分頃から真北の山々から放射状の雲が長く伸びていることに気づきました。それからしばらくして参加者たちが、「あつ、真上」と言います。よく見ると、白い光体が雲の動きと同じ真北に向かって流れて行きました。

そのとたん、「あつ、光」という声が回りからして、三度か四度、フラッシュライトのように流れていた光体の下で光ったとのことです。私は目撃していませんが、その光体はかなりハッキリと目撃されたようです。

話をまとめると、その物体からの印

象はなにか不思議なもののように、飛行機などとは違うとのことでした。その目撃時間は七時四五分頃です。放射状の雲の真真中で目撃したようです。

その後、雲が多くなり、星も見えなくなりしましたが、再び九時二〇分頃から晴れ間が見えて、九時三〇分頃には晴れ渡り、美しい星々を眺めることができるようになりました。一〇時過ぎに全員の記念写真を撮って観測会は無事終了しました。

横浜市 脇坂美紀

UFOらしきものは見ることでできませんでしたが、今後は、UFOをよく見るといふ橋本さんがおっしゃっていたように明け方までとか長時間の観測をしたいと思います。それも横たわって見ていると見やすいと思いました。

千葉市 氏家明美

目撃は、はつきりしたものはない。緑がとても良くて気分が良く、体がリラックスできて最高でした。

神奈川県 外野浩司

午後七時四五分頃、橋本さんが「光っている」と言ったので、その方向を見たとこ、二〜三秒間隔で北方向上

意、記念撮影などで一時間遅れて八時より始めた。

午後八時六分前後、オレンジ色に輝く物体を一個、全員が目撃。初めは付近の星と変わらないように見えたが、動き出したように見えてからは光を増し、ジグザグ飛行の後、雲に消えた。

その間約二〇秒。方角は南々東か南東。

山梨県から参加された清水南氏がビデオカメラで見事に成功（ただし手持ち撮影。観測が始まってからすぐのことであったため、カメラを固定していなかった）。スタイル写真の撮影者はいなかった。

この結果、東京本部が神奈川県秦野市で実施した観測会の二回目の目撃と長野支部で観測された一回目の目撃があまりに酷似しているのも非常に驚いた。東京本部の観測会の模様は久保田会長個人発行のエッセイ『意識の声』第11号の記事で知った。

今回長野支部観測会に参加された支部会員諸氏は、日頃から非常に熱心にGAP活動を行なっている方々ばかりなので、素晴らしい雰囲気のおかげで観測できて非常に良い体験になった。この観測会を機に、よりいっそう活動を活発に行ないたいと思っている。

空にシグナルのような感じで三回発光体を目撃した。何かが反射して光った感じではなく、それ自身から光を発したようなフィリングを受けた。その後、その光体は消えたので星ではないと思う。この発光体は四人で確認した。

東京 山本益巳

観測地の北側のさほど高くない空から、ストロボ状の発光をみることでできました。UFOからのサインと思われる。スペースビープルのイメージやUFOのイメージを描いたりして呼びかけましたが、自分自身の想念の状態の見直しにも役立ったようで、参加してよかったと思います。

神奈川県 井川博文

山の向こうからスジ雲が出るのを発見した後、光体が目撃された。何かのサインではないかと思う。UFO目撃には必ず何かの意味があるはずなので、それが見当たらない場合、現れてくれないのだろうか。

神奈川県 大沼潤一

公園は三六〇度見渡せる場所にあり、周辺の丘や森にさざぎられることなく観測できた。葉山付近の地図を参考に、観測場所のイメージとスペースビープルへの呼びかけを続けた。主に東向きに想念を送り、光体の移動を捜

したが、飛行機と考えられる光体のみ観測できた。

東京 藤村雅夫

私は公園へ七時一〇分着。飛行機は数度目撃。七時四〇分頃、頭上を見上げると光る物体が北極星の方向へ動いて行く。皆さんと一緒に見ていた。光はまっすぐ、ゆっくりと消えて行った。そのあと八時三分頃、消えて行った方向の右に一瞬、光る光体をみんなで見した。

横浜市 元井武士

観測地点より北側の山から放射状に上空に伸びていた雲が印象的で、少し不思議な感覚を覚えた。

今回の観測場所は広くて部外者もいたため、絶好の観測地点であったと思う。また観測者の皆様もリラックスして真剣に取り組まれたと思います。

横浜市 元井鮎子

北の空で七時四五分頃に、発光現象を連続二回見ました。

横浜市 石井寿子

バスの中で男の人の顔のイメージが次々に三人現れては消えました。それが何を意味するのか分かりませんが、今でも不思議で仕方がありません。

UFO観測場所の広場のまわりは山で囲まれ、素晴らしい場所でした。U



▲上は南郷山公園。下は横浜支部の観測会参加者。

F0は見られませんでした。星の輝

きとともに感激した夜でした。

(6) 旭川支部も明滅する光体を見る

旭川市 伊藤重信

観測は五月二六日夜八時五分より九時四〇分まで。場所は旭川競馬場南側駐車場。参加者は四名。晴のち曇。

当日観測を始める頃には東方の空が曇っているだけで、全体としては晴れ間の多い状態であった。

しかし午後九時頃には上空まで雲が広がって、西方の空のみが晴れて、観測は西方の空に限られることになった。

午後九時四分頃、伊藤が正面(西方)の山の稜線の上に輝く木星のすぐ横を上から下(東から西?)に移動する光体(一等星ぐらい)を発見するが、二秒ぐらいで消えてしまい、他に目撃者はいなかった。

その後、同方向を観測していると、

先の光体が消えた地点よりやや下方でパッと光るものがあつたので、他の人に知らせたが目撃していなかった。続いて全員がその方向に注意を向けていると、同じ場所で明滅する光を目撃、全員が確認し、さらに観測を続けていくと、少し下にくだった地点で同様に明滅する光体を確認。この後、西方にも雲が広がり始めたので、九時四〇分をもって終了した。8ミリビデオを準備したが、撮影できなかった。

(掲載)

(編者注) 右以上の支部報告は次号に

A Tremendous Phenomenon Over Hokkaido
by Yoshitoki Matsumura

北海道上空の物凄い光景

●松村芳之

〈一九九一年五月一二日、東京月例会での講演〉

ただいまご紹介いただきました松村でございます。今日は、この様なお席で、お話しをさせて頂けることになりまして、久保田先生を始め皆様方に感謝申し上げます。

私はいつも、この月例研究会の設営などをさせていただいております。今年の1月からGAPグッズで仲間入りしましたGAPキーホルダーがありますが、写植の仕事をしておりますので、これなどの元の版を作ったり、キーホルダーを作ってくれる記章屋さんへいって見積りを出してもらったりして製作を発注するようなこととか、裏方の仕事本来は性に合っておりまして、今日のような講演は話し下手の私からすれば、出来れば避けられたのですが、順番がまわってきましたので、今日、私がここに立っているわけなんです。

お聞き苦しい点が多々あると思いますが、最後まで、おつき合いのほど、よろしく願いたいと思います。

まずは、私が日本GAPに入会したあたりから、話を始めたいと思います。高校3年の秋だったんです。高校の体育祭でサッカーの試合をやっている、ケガをしてしまっていて、一週間ほど入院したわけなんです。入院しましたので、クラスの仲間が気づきに見舞に来てくれたんです。クラスの仲間うちでは、いろいろあだながありまして、当然あだなで呼びあうんです。UFO（ユーホー）と呼ばれている友達がいまして。ちなみに私はユーホーではなくて、松虫と呼ばれていたんですが、そのユーホーは松浦っていうんですが、彼が見舞だといって持ってきたのが「UFOと宇宙」だったんです。

当時これは久保田先生がユニバース出版社を経営されていてまして、そこから隔月刊で出ていたんです。それまで何故か私は、「UFOと宇宙」を読んでいるなくて、存在は知っていたんですが、なぜだか分からないんです。

普通、日本GAPに入会する場合、

アダムスキー関連の書物を読んでから入会する方がほとんどだと思いますが、私の場合は逆だったんです。そして入院していた間中ずっと「UFOと宇宙」を、すみからすみまで読んでしまっていて、自分は絶対UFOの研究をしないではいけないうと固い決心をしたんです。

それからいろいろUFO関連の書物を読みあさり、また、これはどこかの研究グループに入らないのではと思いついて、日本GAPに入会したんです。入会したのは、病院から退院して二カ月もたつていなかったんです。当時の「宇宙からの訪問者」をひっくり返しますと、一二月二〇日に本が届いて会員番号は三一三三とあります。ですから入会のほうが先だったんです。

高校三年も残りわずかになり、進路は専門学校と決めてはいたんですが、UFO研究の道に進みたいと思ひこんでいたものですから、公的機関で研究しているところは自衛隊ではないかと思ひ、結局、海上自衛隊の曹候補生というコースに進んだんです。

海上自衛隊に入隊しまして、自分が考えていたイメージとかかけ離れてしまったので、失望してしまいましたが、すぐにやめるわけにもいきませんから、初期の教育期間の六カ月はがまんすることにして、どうにかやっていたんです。

そして、この当時、「自分の趣味はUFO研究です」と堂々と宣言していたので、教官とか仲間から「UFO少年、松村君」と呼ばれていたんです。もうこのころはGAP関連の書物かなり読んでいたもので、いつかは久保田先生のそばでGAP活動がしたいと、毎日イメージしていたんです。いわゆる久保田先生が提唱されているミラクルイメージ法ですね。結局三年後には実現してしまいました。

GAP活動のために職を次々と

話は飛びますが、久保田先生の手伝いをさせていただくようになってからは、当然GAP活動が中心の生活になってきたわけなんです。

勤め先もGAPの仕事をややすい環境ということで、おもに就業時間、休日などを主体に選んでいましたので結構職が変わりまして、いろいろな仕事を経験することができました。具体的にいいますと、新聞の営業、警備員、ゴルフ店の店員、カメラ店の店員、出版社、広告代理店、現在の写真植字の仕事などです。このそれぞれの職場では入社してまもなくから、機会があれば「実は私はUFOの研究をしています、日本GAPという会に所属しているんです。よろしかったらアダムスキーの本を読んでみませんか」とやっていたんです。ですから、私の最初の印象は「UFOの松村」になってしまっていた



▲筆者・松岡芳之 撮影／安藤豊雄

んです。すると仕事は一生懸命していても、ちよつと失敗したりしますとUFOばかり追っかけてるから失敗するんだと言われてしまうわけです。これは、最初は何も言わないでバリバリ仕事をこなすようになって日数がたつてから、この時初めて「実は……」と始めればよかったんだと思います。

このように職場を変えてみますと、ふと気付くことがあるんです。それは、どこの職場でも同じような、会社に対する不満とか上司に対する不満や、悩み、また社員数が多い所では、派閥が出来ていたりで、社員同士のいがみ合いますと、自分の会社だけ、どうしてこう問題が山積みなのだろうか悩んでしまうんですが、基本的には人間と人

間のぶつかり合いなんです。結局は自分自身がしつかりとした確固たるものを持てば、そこから道が開けてくると思うんです。

初めてUFOを見る

UFOの目撃ですが、私の田舎は岩手県でして、岩手でも県庁所在地がある盛岡よりは北の、南部富士と呼ばれる岩手山の裾野にひろがった町でしたので、富士山の裾野にある富士市の様な感じですが。ただ富士市は立派な都市ですが、私の育ったところはとてもへんぴな田舎町でした。まわりは自然がいっぱいでしたので、夜は満天の星空になるわけなんです。そして物心ついた頃からUFO、というよりは円盤を見たかと思いつながら夜空を眺めておりました。

結局、高校を卒業してこちらに出てくるまでは、これといった目撃はなかったんです。しかし、これはもう絶対に円盤以外に考えられないという目撃があつたのは今から一年ほど前になるんですが、その当時、私は何をやっていたかと言いますと、新聞配達をしながら写真の専門学校に通っていたんです。学校は御茶ノ水にありまして、新聞の販売所は足立区の竹ノ塚というところで、隣の駅が埼玉というところでした。住み込みで新聞配達をしていたわけなんです。毎日新聞とサンケイ新聞を、配達のエリアが広がったので

五〇ccのバイクで朝刊と夕刊を配達しておりました。

目撃した日も学校から帰ってきまして、夕刊をバイクにつんで配達をしていました。このころも、空を見上げては「円盤は現れないかな」と常に考えていたんです。時間はもう夕暮れ時でした。バイクで走りながら「ふと」空を見たらオレンジ色の光体が瞬間的に現れまして、急にガクンと落ちて、また少し上がってパツと消えたんです。ものの二、三秒でしたが、びっくりしました。けれどこれは絶対に「円盤だった」と思えるんです。とても印象的で忘れることは出来ません。

そしてこの当時、住み込みをしていたところの奥さんが、こんなことを言っていました。「まっちゃんが出てから、ビー玉ぐらいの大きさの光るものが目の前を飛んだり、一階から二階の階段を昇ったりするようになったのよ!」と聞いていました。これは、自分では一度も見たことはなかったんです。今思うと、超小型円盤のスクラングディスクだったのかもしれない。

この世のものとも思えない物凄い光景

次にこれは、というのを目撃しましたのは、今から九年前の一九八二年六月、旭川・札幌合同支部大会があつたときです。

この大会に久保田先生と二人で行つ

た際の出来事です。いつも久保田先生は地方の支部大会があるときは、大会の前日に行くことになっているんですが、このときばかりは何故か前日ではなくて前々日に行つたんです。六月二〇日が大会でしたので二日前の六月一八日でした。この日は夕方、飛行機で旭川について、当時、旭川支部代表をやっていた石川公一さんと阿部堯さんが迎えに来られていまして、四人で夕食をしたんです。その後、久保田先生と石川さんは「打ち合わせがあるから」か「ちよつと出かけるところがある」ということだったと思いますが、「松村君は、ホテルに帰ってゆっくりしていいから」ということで、私は阿部さんと二人になったわけなんです。夜はまだ始まったばかりだったので、若い男がひとりホテルに閉じこもっていてもつまりませんから、阿部さんと二人でドライブすることになりました。ドライブをしているうちに「円盤」の観測が出来そうな所へ行こうということになり、阿部さんが勤めていた「大雪ダム」の方面へ向かったんです。「大雪ダム」という所は、旭川市内から直線距離で七〇キロ程離れているんです。かなり夜も深まってきました。道路も山道のようなところを進んでいまして、夜の一時を過ぎたころだったと思います。たたくなく、また、この夜はキレイな星空だったんです。ある所で車から降り

て観測を始めました。

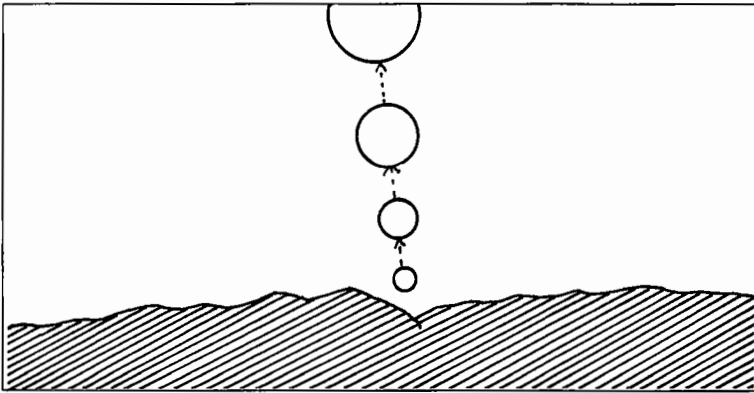
すると、山と山の間からまっ白い月が見えてきたんです。この月がおかしなことに、どんどん大きくなるんです。二倍、三倍、五倍、一〇倍、もつと、もつと大きくなったんです。しまいに、自分が目で正視して見える視野がありますけれども、この視野からはみ出てしまったんです。首をふらないと全体が見えないんです。それが、今度は一番大きくなったのが、それまで、まっ白だったものからだんだん薄くなってきまして、星がすけて見えてきて徐々に全体が消えていったんです。始まって終わるまで、時間は三〇分ぐらいだったように思います。物凄い光景なんです。おびえきつた犬の遠吠えが、あたりに聞こえてきますし、怖くなったりして、とてもこの世のものとは思えないぐらいなんです。結局この夜は遅くなつてしまいホテルには帰れず、阿部さんの自宅が近かったので泊めてもらいました。

翌日、ホテルに戻らなかった事のお詫びと目撃談を先生に話しましたところ、目撃談には先生のコメントはなかったんです。コメントがありませんでしたので久保田先生も違った場所で見撃されたんだと感じまして、ただおおよけではあまり発表しないほうがいいのではと思いました。

高空で光が応答

そして実は翌日にまた「円盤」を目撃したというか存在を感じる出来事があったんです。二〇日の支部大会が盛況のうちに終了しまして、夕食会が終わって、数名で観測にゆくことになりまして、人里離れた所に行きまして、

◀丸い白い物がふくらみながら上昇。



車からおりて星空を眺めていたんです。私はカメラとストロボを持って行っていましたので、ストロボを空に向けて数発、発光させてみたんです。そうしましたら数秒して星空の空間でピカッと光ったんです。またストロボをたいてみたんです。するとまた光ってくれてまして、またやってみますと、ふたたび返事があり、合計三回ありました。これは近くの木の葉っぱに反射したものでなく、空間の霧状になったものに反射したのでもありませんでした。なぜなら周りには木もありませんでしたし、ぐずついた天候でもない澄み切った夜空だったんです。それとこの三回のほかはストロボを光らしても、返ってくる光はありませんでした。それはまさしく「円盤」以外に考えられないんです。このときは今日来ていらつしやる清水正さんも目撃していらつしやるんです。

また先程の月のような物がどんどん大きくなっていった現象ですが、数年してから、ほとんど同じような物を目撃した人がいたということが分かったんです。

北海道と同じ現象がアフリカにも

旭川支部の代表だった石川公一さんは、当時、歌手を目指して勉強していたんです。そして、自分が作った曲をいれたデモテープを音楽家とかに送ったりしていたんです。

あるとき石川さんが東京に出てきまして、ミュージシャンにデモテープを送ったら会えることになったから一緒に行かないかと誘われまして、一緒に行ったんです。このミュージシャンというのが当時、結構売れていたグループで「ゴダイゴ」のリーダーだったミツキー吉野さんだったんです。神奈川県逗子にある自宅にお邪魔したんです。

一通り音楽の話が終わった後でUFOの話題になりまして、いろいろ話している中で、アフリカに行ったときにスタッフと一緒にだったか、ミツキーさん一人だったのか、あの旭川での白い月のような物がどんどん大きくなっていったのと同じ内容のものを見たことがあると言っています。「ああこれは、もしかすると同じ現象を円盤側が意図的に世界各地で見せているのかなあ」と思った次第です。でもこの目撃に関してはUFOの存在を信じている人にも説明しにくいですね。(後略)

久保田注

右の記事のうち、松村君が一九八二年六月、旭川郊外で見た物凄い光景は、実は私が観測に行つて上空にテレビパシィで呼びかけた結果、出現したもので、それを松村君が近くの別な地域で同時に目撃したのである。ここであらためて詳細を伝えたい。

この年の六月二〇日(日)に旭川市

の三愛会館で開催される第二回目の旭川・札幌合同支部大会に出席するため前々日の一八日に助手の松村君と飛行機で旭川入りした私は、その夜、当時の旭川支部代表であった石川君と夜間に観測に出かける手はずがととのえてあった。

夕食後、石川君が運転する車でUFO観測に二人で出かけたのは九時頃である。松村君はホテルに残っているものとばかり私は思っていた。

しばらく南方へ車で走ってから一度山間部へ入ったけれども、暗黒の山中は気持が悪いので、平野へ逆戻りして田園地帯へ入ったのは一〇時頃である。場所はたしか上富良野の東方だったと思う。広い田んぼの畦道のような所へ車で入り込んで、道端に立ったまま、空中を見上げながら、私はテレパシーで送信し続けた。

「偉大な惑星からいらつしやいました宇宙の兄弟の皆様方。いま日本GAPの久保田八郎がお迎えにまいりました。なにとぞ出現されて私達をご指導下さい」

そしてこのときだけは次の文句を付け加えた。「今夜どんなに凄異光景を見せられましても内緒にしておきますので——」

見ると、約三〇〇メートル彼方に農家らしい建物が一軒あり、その二階から灯火が洩れているので、あの灯火が消えないことには空中にUFOは出現

しないだろうという予感めいたものがあつた。

一時になったとき、その灯火が消えた。「さあ、UFOが出るぞ」と私は期待感が高まって、しきりに空中を眺め渡した。六月なのになんて寒くて、私は用意してきた防寒服で身を固めたけれども、平服のままの石川君はぶるぶる震えている。

一時を少し過ぎた頃、突然石川君が「あつ、あれは何ですか？」と指さす。見ると遠い彼方の見かけ上低く見える山脈の少し上のほうの空中に真っ白い月のような物がボカリと浮かんている。磁石がないので方位はよく分からぬが、大体に北東方面のようだ。

おや、あんなところに白い月などが出るはずはないのにも思いながら凝視していると、なんとその丸い物体が、みるみるうちにふくらんで大きくなるではないか！ しかも、そのふくらみ具合はまるでコンパスで描いたように完全な円形なのだ。

その円形物体はふくらみながら次第に天頂の方へ移動してきた。そして私達が立っている場所を中心にして、ますますふくらみを続けてゆく！

啞然としている二人の上空に完全な円形の物は巨大な白い円となって、ほとんど空を覆うばかりに拡大してきた。驚いたことに、円形物の周囲には太い白銀色の輪がはまったような状態になり、それが凄まじい輝度でもって目

が向けられないほど強烈にギラギラと輝くのだ。

「うわーっ、こりゃ一体何じゃ！」

あまりの凄まじい光景に動悸が激しく高鳴り、恐怖心をもたぬつもりのもさすがに居ても立ってもいられぬほどの圧迫感が起こってくる。上空の巨大な「物」が今にも降下してくるのではないかと思えるのだ。この世のものとは思えぬ光景である！

それでも何とかして見つめているうちに、やがて白い円形の物は次第に崩れて薄らいでくる。ほっとして安堵しながら見てみると、薄くなったガス状の物のあいだから星々がチラチラ見えきて、やがて雲散霧消したのだが、その前に中心部からオレンジ色の光体が点滅しながら上空へ垂直に上昇するのが見えた。「今日はこれでおしまいです。さようなら。おやすみなさい」という想念が送られてきたような気がする。

目撃は一時間も続いたような気がしたが、実際には三〇分ぐらいたと松村君は言う。

翌日、松村君が別な場所でも同時刻に同じ光景を見ていたことを知って意外に思ったけれども、その件については何も言わず、ホテルを無断で離れてはだめじゃないかと注意したが、後になつて考えると、同君が目撃していたのは重要な意味をもつことが分かった。そしてこの件はスペーススปีプルへの

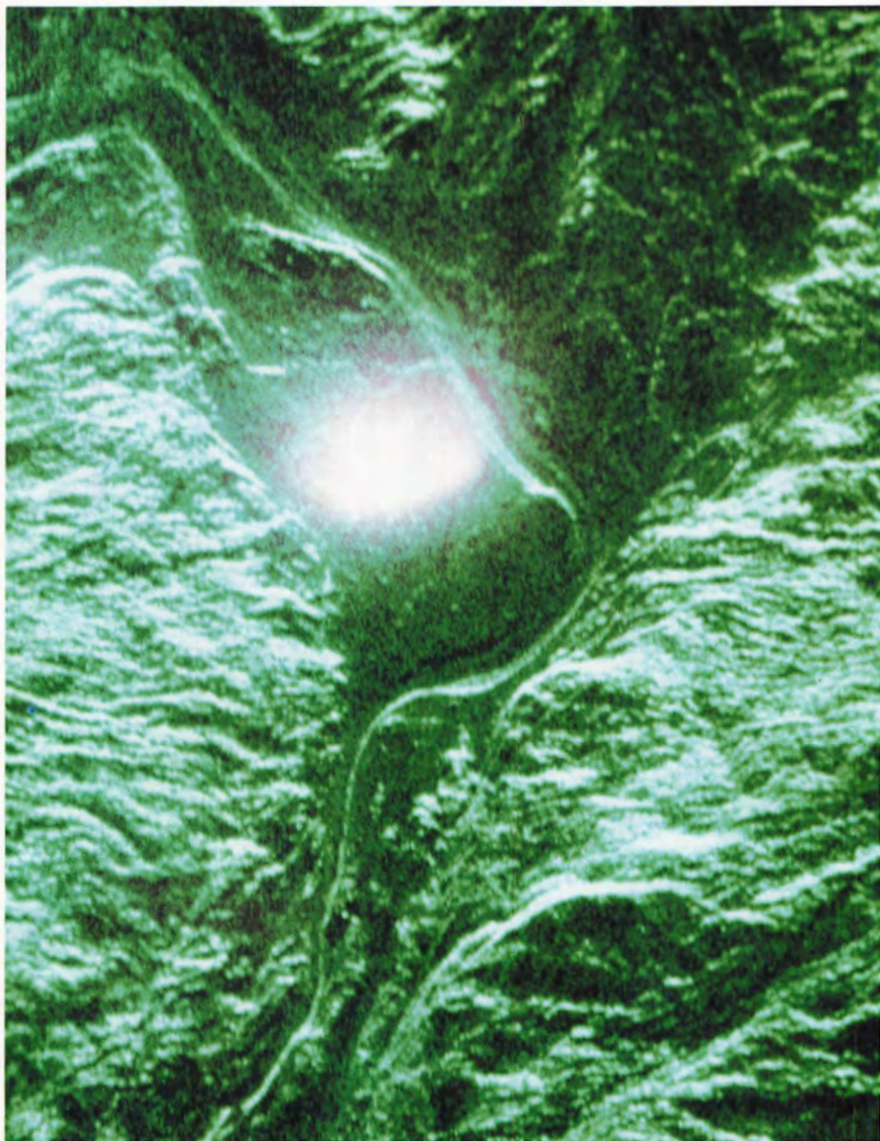
約束どおり、今まで公開しなかった。

だが今年五月の東京月例会で同君が講演をするにあたり、あの日の体験を話してよいかと私に相談したので、すでに一〇年近く経過しているからいいだろうと答えた。そして私も月例会で松村君に続いて体験を発表したのである。

私と一緒に見た石川君、松村君と同行した阿部君二人はすでにGAPから去った。たぶんこのことを予知していたスペーススปีプルが当夜別な場所へ松村君を引き寄せて、有力な証人になるように目撃させたのかもしれない。

翌日と翌々日の新聞にこの物凄い現象の記事が載るか期待していたが、何も出なかった。ということは私達四名以外に見た人はいなかったのだろう。後に聞いたところによると、スペーススปีプルのスカウトシッブは特殊な物質を用いて空中に巨大な女神像やその他の「芸術作品」を造り出す技術を持っており、それによつて地球人を驚かせることがあるという。私が目撃した物もその一種だということである。

世間の裏面では信じがたいような驚異的な出来事が展開しているのだが、それらが一般に知られないのは、知ろうという意欲をもつ人が少ないからで、それだけのことにすぎない。しかしUFOは世界中に出現し続けているし、まだまだ物凄い事件が多数発生しているのである。



●金星の水路

—A Long Channel on the Planet Venus—

惑星探査機マゼランが撮影したこの写真は、横幅77キロ、天地が85キロの範囲を示している。中央に見える水路は金星の北緯76.5度、経度335度のデニツァ地域のフレイヤ山脈の北約100キロの位置にあるヴィレス・アッカ大峡谷に曲がりくねっている。写真中に見える水路の長さだけで120キロを越える。水路といっても水があるのかどうかは分からないが英文キャプションでは「channel」となっている。写真中央上の白いモヤはコンピューターのスクリーンを撮影した際のカメラのフラッシュ。

写真提供／植木淳一

UFOs Give Me a Romantic Impression
by Mio Takagi [actress]

尽きぬ宇宙へのロマン

女優 高樹 澪 さん



▲「幽霊は怖いけどUFOは好きなの」と話す高樹澪さん＝東京・河田町のフジテレビで

UFOを初めて見たのは、八つの時です。遅刻して泣きながら学校近くまで来たとき、銀色の万年筆のような物体が空に浮かんでたんです。「何だろう」って思った瞬間に「あのね」って、こっち側にボンと入ってきたんですよ。「人間は戦争で殺し合ってるけど、間違ってると思わないか。みんなが信じるべきことは、ただ一つじゃないかな」って。子供心に何となく分かったような気になったんだけど、何年かたって「あれはラブ（愛）」ってことだったのかも」と思うようになりました。それからしょっちゅう、空を眺めてるって状態です。

今までに百回は目撃してますね。

一週間続けて見たこともあるし、つ

いこの前マニラにロケに行った時も二機見ました。形は、クッキーのようなのとかがまちなんですが、共通しているのは音が全くしないこと。周りの音を全部、吸収してる感じで静止してるんです。

ボーッとしているときによく見るんです。最近気が付いて不思議なんだけど、新しい友達に出会って深く知ろうとするときに「バーン」って出てくるんですよ。

高校生のときに現れたUFOは、登校中ずっと私の右側に居るんです。試



験の朝で、全然勉強しなかったのに勘が異常にさえちゃって、学年で一番になった、なんてこともありました。いや応なくUFOを見てからは宇宙飛行士になりたかったの。宇宙に思いをはせると、ちっぽけな悩みが吹き飛んじゃうんです。UFOの観察って、夢を見られる得な趣味だと思いますよ。お金やモノと違って、自分の心の中の感覚でとらえられるかどうかでことですから。

最近、星を眺めるのが好きで、UFOも見えたらもうけもの、という感じなんです。でも、それでもちよこちよこ見ます。

こんなに頻繁に来るってことには、意味があると思うんですよ。昔は見られたら単純に感動してましたけど、今は「その意味は何だろう」って考えますね。

広い宇宙には、人の心を読めるほどの力を持ったいろんな人たちが居るってことを、理解してもらおうとして少しずつ姿を見せてるんじゃないかしら。それを素直に認めることができたなら、もう一歩先に達う世界が広がるんじゃないかって思うんですよ。

（共同通信より配信、山梨日日新聞一月二七日付掲載。転載許可済）

The Power of Man's Thought
Produces Miracles
by Akinori Endo

奇跡を起こす想念の力

遠藤昭則

★二人の少女が積極的建設的な想念により奇跡発生に成功した感動の手記。

られた者のように、その男は宇宙船の前に立ちすくみ、放射線を浴びてしまった。

これは「宇宙への選択」(Beyond the Stars)という映画の始めである。

このあと、放射線を浴びた宇宙飛行士は地球に戻り、一人の青年に出会う。彼は宇宙飛行士を目指す高校三年生である。戻ってきた宇宙飛行士に月の様子を聞くのだが、どういうわけか答えられない。そして月の石から作ったというペンダントを青年に渡して死んでしまう。

原因は白血病だった。やがて手紙が発見され、そこには彼が月からこっそり持ち帰った石があるということが書いてあった。

青年は石を見つけ、それが金属であることに驚く。

「これは他の惑星の生命によって人工的に作られたものだ」と私は思う。君たちはこれから宇宙に出る必要がある。そして他の惑星の生命と出会うことだろう。そのときには君たちは彼らと仲よくしていかなければならないのだ」手紙にはそう書いてあった。

何ゆえに「宇宙」の信念を

他の惑星の生命と仲よくするために、これまで何回もどの国でも言われてきたように、まず地球に住んでいる私たちが仲よくならなくてはいけない。その「仲よくなる」ということを

別な言い方をすれば「平和」「愛」「調和」ということになるだろう。

そしてそれらを生み出す源は、私たちの中に眠っている「勇気と信念」ではないだろうか。

「必ず出来る!」という、本人の内部に宿る生命力に支えられたビジョンのある信念と勇気だ。

一人の人間が放つ想念は、水面でアメンボウが踊るように。さざなみの輪となつて遠方へメッセージを伝えていく。

一人のメッセージは他の人の生命力に伝わり、伝えられた人に先ほどのような勇気と信念があるならば、その輪はさらに広がってゆく。

ここに登場するのは千葉県に住む、まだ二〇歳になつていない二人の少女の実話である。

ある人の生き方を見てそれに共鳴し、よし私も頑張ろうと自分を改善し始める時、私たちは周囲の人々とうまくゆき始めるし、奇跡が生じることがある。それは不思議なことではなくて、あのアメンボウの起こす水の輪の原理なのだ。それと本人の起こす勇気と信念が組み合わされば大きな力となるのである。

二人の登場人物は特殊な能力を持つ人々ではない。しかし自分が今生で生まれてきた目的を果たそうと、まず自分自身を、そして周囲の人々との関係を整えようとしているように思えるの

だ。

そうだ、目的も持たずに生まれてくる人などはないのだ。各人のなかには必ずその目的がある。しかし私たちはそれが何なのか分からずに、この地球でさ迷い歩く。内部で叫ぶ真実の声など無視して、感情にまかせて行動するのだ。だから他の惑星の人々は私たちの住むこの地球を薔薇の枝の刺であらわすのだろう。

もっと心を静かにして内部の声を聞くことだ。そうすれば温かく湧き起こってくるその声を聞くことができるだろう。

テレパシー現象が発生

(1) N・Uさん(高校二年生、一七歳、習志野市)

「七歳のときです。人と話をしていた、ふと自分は一体誰なのだろうと思うことがよくありました。自分が自分の体を見ているようなことがときどきあったのです。」

この見ている自分は誰なのだろうと思うと、自分で自分が分からなくなってしまうんです」

眠っているときにこのような体験をする人はいるが、日常体験する人は珍しい。それはけつして心靈に関係のあることではなくて、本人の全身を生かしている「宇宙の意識」が見えていることなのだ。なぜなら「宇宙の意識」は肉体に制約されないのだから。

「おい、あと七分後に太陽からの放射線が来るぞ!」

クレーターのふちで男が叫んだ。「ちよつと待ってくれ。もう少しなんだ」

クレーターの底にある固くて大きな岩の穴に手をつき込みながら、もう一人の男が答える。

「時間がない。走れ!」

地球からの指令が雷のように宇宙服のヘルメットに響く。

ふちにいた男は走りながら振り返る。「何をやってるんだ、早くしろ!」

ようやく腰を上げた男も走り出した。しかし獐犢なオオカミの群れに魅入

彼女は小さい頃から内部にある「宇宙の意識」に対して無意識に焦点を合わせることでときどきあったのだろう。

また「宇宙の意識」には距離がないので、本人の意識から他の人への意識へと想念は常にやって来ているはずである。そこで必然的に彼女はテレパシーに関することに興味を持つようになった。彼女は次のように言っている。「念じたり、イメージを描くことができるんだと分かったのは中学二年生のときです。」

あるとき隣に座っている友人に心の中で呼びかけてみたことがありました。すると友人は「はいっ、えっ?」と言ってキョロキョロしているのです。

私はテレパシーが通じたので怖くなくなってしまいました。

またこういうこともありました。一度帰途についた友人のことを思って、「あつ、呼ばなくてはいけないんだ」と窓の外を見ていたのです。

すると五分ぐらいしてその人は戻って来ました。困ったなと思ひながら、知らないふりをしていました。

『戻って来たの?』
と言ったら、

『うん、でも何の目的もないのに』と相手が言うのです。私は困ってしまいました。

これは人から人へ伝わるテレパシーだが、あらゆる物を形成する原子の中にも『宇宙の意識』があるのだから、

人から物体への働きかけも可能である。「小学校の高学年のときです。超能力な人とかいいう本に、トランプのカードを組み立てていって、それを念じて倒す練習というのがありました。」

一〇分続けれられなくては根性がないと思つて続けました。そして三回行なつてやつと倒れたのです。でもそのときは、あれっ、と思つただけでした。」

このように何かできるのではないかという本人の内部からの声に動かされるようにして彼女は取り組んできた。その後はどうなったのだろうか。

昭和六三年一月六日

「友人が頭痛のとき、ちようど自分の手から青い気体のふわふわしたものを感じたので、前に『青いオーラは浄化作用がある』と聞いたことがあったので友人の頭に手を近づけました。」

しばらくすると『治った!』と友人が叫んだのです。

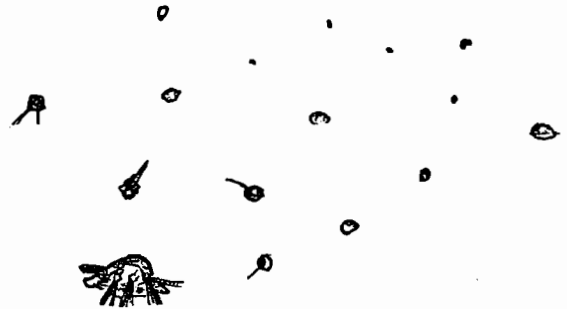
左手は使わなかったのですが、ハンカチを握っていました。あとでハンカチを見ると、親指と人差し指のあとが焦げていました。」

多数のUFOがついて来る

昭和六三年秋。

「はじめてUFOを見ました。夜空にオレンジ色に光るものが不思議な曲線や直線を描いていました。夜の八時三〇分頃のことです。」

平成元年八月一三日。



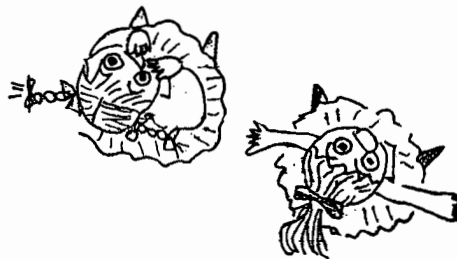
「習志野自衛隊で盆踊りがあったので、友人と自転車で出かけました。」

途中からUFOがついて来たので、振り返るたびに私たちは

『こっち、こっち』

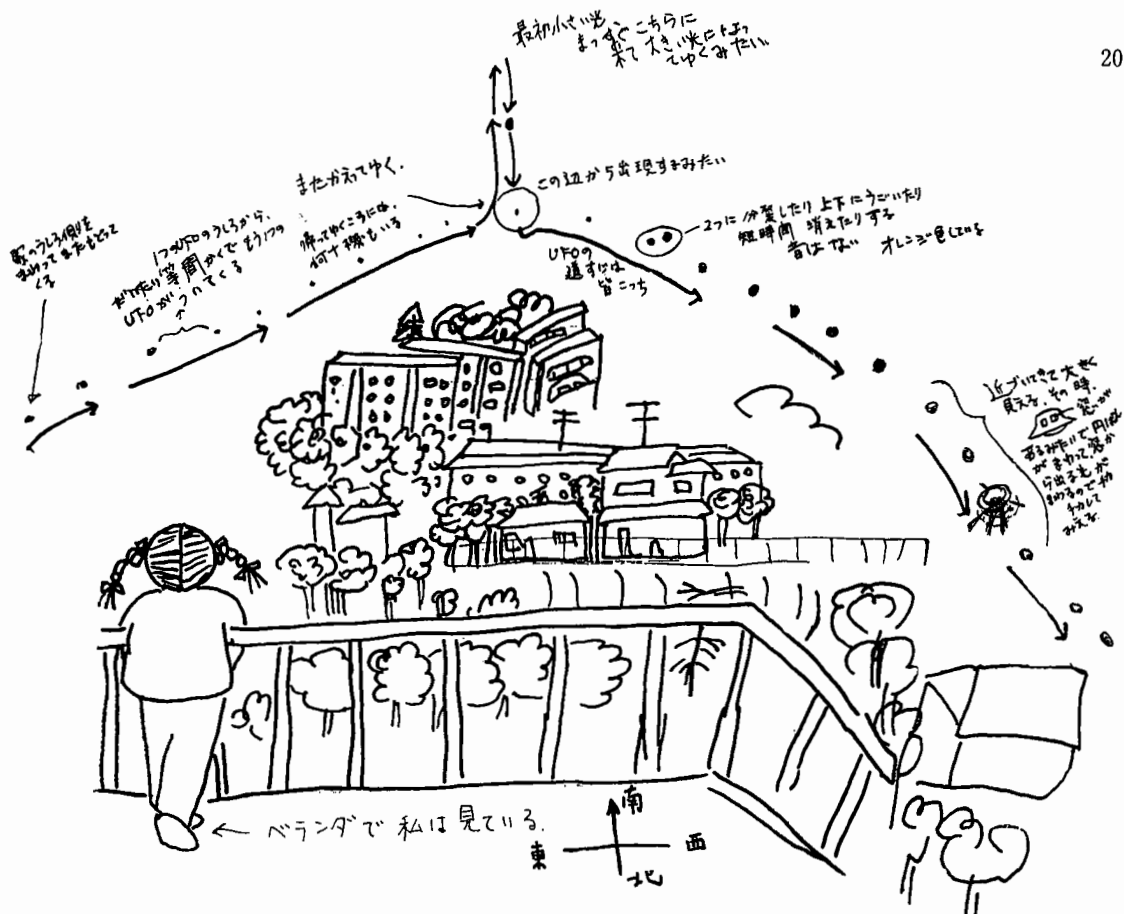
と言つて手を振ったりしました。

会場について、裏側の道(多少にぎやかだが暗い道)を通つて行こうとしたら気付かないうちに頭上には一〇数機のUFOで一杯になっていたのです。



家で見るとようなUFOの飛び方ではなくて、それぞれ勝手に飛んでいました。一つになったり二つに分裂したりしています。私たちは嬉しくてはしゃいでしまいました。

しばらくして、そのうちの二機がジワーツと近づいて大きくなってきました。私たちが見ていると、近づくにつれてその光がアルミニウムのようなネズミ色になってきます。なんとなく形



が見えるほどの近さでした。それはしばらくして消えてゆきました。私たちが歩き始めたら他のUFOはついて来ませんでした」

平成元年九月二三日。

「だいたい八時三〇分頃、私が雨戸をしめようとして二階に上がって来ると、暗い窓の向こうにオレンジ色の光る物があった、踊っているようにさまざまな動きをしていました。手を振ってみると、ずつとついていた光が急にパツパツと消えたりするのです。」

そんなとき、分かったのかなあと、ものすごく嬉しくなつて、ブンブン手を振ったりしました。でもそう何度も変化してくれるわけでもありません。窓をあけてベランダに出て、いろいろと考えていると、どんどん次から次へとUFOが出てきて、家のまわりを南―西―北―東―南へと、等間隔を保ちながらキラキラと回って飛んでくれるのです。父、母、弟などを呼んで見ていると、いくらかでもUFOが出てくれます。

私が三〇分ぐらい見て、あまり沢山出てくるので、UFOは一生懸命に出てきてくれるのかなあと、気の毒に思い、家に入って見ていると、急に数が減ってきました。

一、二分してそっと空を見ると、最後の一機が小さくなって帰って行くところだったのです。そのときは思いつきりその光体に向かって

『ありがたい！』と念じました。そしてその日はもう出てきませんでした。

私が思うには、私の家のある地域だけかもしれないが、午後八時三〇分頃という時間に見ることがほとんどなので、この時間を気にしています。

父は以前、絶対にUFOなど信じない人だったのですが、今は信じるようになりました。

最近、学校の帰りに友達と別れて一人で歩いていると、空に真ん丸に見えるアルミの固そうなボールのような小さなものがフワフワと浮いていました。私はとつさに眼鏡を取り出して見ましたが、そのときにはもつと小さくなって、南の方へと動いて行き、全く小さくなって見えなくなってしまういました」

親切さと同情心がテレパシーの基礎

習志野自衛隊の近くにはUFOがよく出現している。私もこの近くで生まれ育ったせいかな、子供の頃からときどきUFOを見ていた。

土地の特長もあるのかもしれない。雑然とした街や住宅が近くにあり、昔は交通事務所があったし、さらに昔は習志野原という原っぱがあり、騎兵連隊があった所で、西郷隆盛もこの地に来ている。

そういった所でありながら、この地に来ると力が与えられるようであり、なぜか上空が気になってしまふのだ。



土地の持つある種の波動が上空に放たれているのかもしれない。

彼女は現在、習志野高校の二年生で、生命現象に興味を持ち、生物部で活躍している、明るくて、人と話をするこの好きな女性である。また中学校のときには生徒会の副会長をしていたほどの実力もある。

また彼女は人を助け、奉仕することに興味があり、手話を習っていた時期

もある。自分の能力に関してあれこれと机上の空論にふけている人たちよりもはるかに未来の世界を良くしてゆける一人になるだろう。

「人に親切に、そして愛情をもって」

これは UFO や超能力を研究している人たちにとって苦手なことかもしれない。

自分の能力を磨こうとして一人山中に籠もり、目だけきれいに輝かせて帰ってくる——。これでは何にもならないのだ。そんなことよりも自分が人にどれだけ奉仕ができるかが重要である。この方が愛と平和に満ちた世界を築いてゆくのに必要ではないだろうか。

『宇宙の意識』は私たちを生かす方向に印象という声なき声で導こうとしている。お互いに生かし合う奉仕。これは難しいものかもしれないが、それが可能となるならば、内部の意識から印象はこれまで以上にはっきりとしたものになるだろう。

「祈り」とは想念の力の応用

世界には無数の宗教があるが、これらは互いに争っている。それは各人の想念のパターンが異なるために、各人が信仰して安心できる何かが異なってくるからである。簡単に言えば、自分の好きな異性がみな違うのと同じである。だから多くの宗教を統一しようとするのは、好きな異性を同じにするようなものだから、必ず摩擦が生じる。

しかし各宗教には共通したものがあ。それは「祈り」である。「祈り」とは「想念の力の応用」なのである。そしてレベルが高い宗教ほど、互いに生き生きと生活できるような親切さを有している。

祈りである想念の力が必要になるのは、正しい意味での親切さが生まれてくるかどうかのきっかけになるからである。自分の体の調子を良くする祈り、人々が幸せになるように願う祈り、それらは私たちの内部にある「宇宙の意識」と一体になろうとすることであり、そこから生みだされるパワーも大きなものになるからだ。

げんに正しい意味での祈りを行なっている人のオーラは広くて濃い。そして本人の顔には希望が満ち溢れている。祈り、すなわち想念の力が重要だということがお分かり頂けただろうか。いま登場した高校生はそれをうまく活用している。だからスペースビープルも注目し始めたのだろう。

斜視を想念の力で治す

次に登場する人物は、自分の生まれながらの身体上の欠陥を「想念の力」すなわち「思念力」によって克服した人である。

これはよく言われるように、過去世と関係があるのではなく、今生での身体上の問題なのだ。

過去世論者は、人間に何かの疾患が

あると、それは過去世で良くない事をしたからだと言いたがる。

しかし過去世での体験が、そんなに今生での疾患を生じさせるものなのだろうか。アダムスキー氏は、転生するときに怒りの感情をいだいて前の生涯を終えた人は、転生してきたときにそのフィードバックを持ち越して来ると言っている。持ち越して来るのはフィードバックなのだ。けっして病気などではない。今生で同じような怒りのフィードバックを増長させるなら、やがて病気になるだろうが、それに気をつけていれば別に恐れることではないのだ。

だから次の話は過去世ということを抜きにして読んで頂きたい。そして本人の持つ宇宙的なバランス感覚に気付いてほしい。

(2) Y・T さん (中学三年生、一五歳、習志野市)

「生後三カ月の頃、内斜視に気付いて慶応病院で診察してもらい、なるべく早く治療しないと弱視になると言われ、一歳二カ月のときに手術をしました。

結果、完治せず、外斜視気味になっ

てしまいました。

その後、半年ごとの検診が一〇歳まで続いて、その頃手術を考えなければ、不安や心配もあったため、大人になつてからでも——ということ、一時中止にしました。

はつきり言えば自分自身が意識しすぎのかもしれませんが、人に斜視だ

と言われるのは仕方ないかもしれないけれど、やっぱり悲しかったんです。

今となつては、病院での検診の結果は変わることもないよう、自分自身いつまで悩んでも仕方がないし、一人の人間なのだから何事もなく完全な健康体だとは限らないので――。

そのように考えているうちに自分でも何か割り切れたような気がします。これから生きてゆくうえで外斜視であることを自分の欠点であるという考えを持つてはいけないと思います。

私は欠点という考えと、他人とは違う部分があると思うことから、外斜視に負けていたと思います。

人間は自分を信じるしかないのだから、自分で自分を助けることが一番の治療法ではないでしょうか！

彼女も同じように生徒会の副会長を務めたことがある。中学二年生のはじめの頃には随分と悩んでいたようだった。しかし現在では右の手記にあるように、明るい考え方に変わっている。そして、驚くべきことは、彼女の目の様子が一年と少しのあいだに、格段の相違で良くなってきたということである。「自分で自分を助けることが一番の治療法ではないか」と彼女は答えている。

彼女が覚えていのかどうかは分からないが、二年生のときに私は秋山眞人氏の話を聞かせたことがあった。氏は少年時代に自分の斜視を自分の力

で治したという。氏はわが国のトップクラス超能力者である。

なぜか彼女には治す力があるということ、私は信じた。だから手術はしなくてもいいのではないかと話したりしていた。それが良かったかどうかは分からないが、彼女は何かをつかんだようである。

彼女の手記の中には病気に對する心の持ち方の大切な要素がいくつか書いてある。それらを抜き出してみよう。

- ①いつまでも悩まない。
 - ②斜視を自分の欠点と見ない。
 - ③他人と違つてもよい。
 - ④おびえてはいけない。
 - ⑤自分を信じる。
 - ⑥自分で自分を助けることができる。
- 右の各項目を見ると、素晴らしい言葉だらけである。

まず①は自分を信ずることと同じほどこに大切である。なぜなら治してゆくとする自分の意志によつて動き出した体内が悩みによつて阻害されるからだ。だから大丈夫、大丈夫。自分の中にある生命力に大の字になつて任せることだ。

②については、人間は何かあると欠点として身を隠そうとすることがよくある。しかし欠点などはないのだ。欠点があるのは良くないなどと創造主は一言も言っていないのだ。

③は②と同じ内容になるだろう。誰もが宇宙の意識、すなわち創造主によつ

日本GAPへはいりませんか

★UFOと宇宙哲学研究世界トップクラス大集団★

●日本GAPは1961年にUFO研究者・久保田八郎がジョージ・アダムスキーの要請によつて設立した世界屈指の研究集団。会員数は現在約1500名。中学生以上なら入会可能。

●専門誌「UFO contactee」を年4回発行（1、4、7、10各月）会員に直送。UFO出現事件、宇宙科学、宇宙哲学等多岐に渡る記事と珍しいカラー写真満載。隔月本位を返して読者に大いなる希望と勇気とビジョンを向かせる刺激的な内容。

●東京本部と17箇所の地方支部が毎月月例研究会を開催。これは会員による研究発表、会長の「超能力開発法」解説講義、テレビ・シー開発練習、質疑、その他のプログラムにより奥深くでも非常に和やかな雰囲気のもとに過ごす充実の日。

●本部と各支部は独自の計画によりUFO観測会を開催し、多大の成果を挙げており、これらは本誌に逐一掲載される。

●毎春秋に東京で総会を開催。海外より有力なUFO研究家を招待して講義、スライド映写等によりUFO問題の研究報告を行ない、夜はホテルで大宴会を開き、旧交を温める。

●各地方支部も毎年一社、大会を開催し、会長の講義によるセミナーを実施。その地支部独自の各種の行事を行なう。

●毎年8月に古代の謎の遺跡を探る海外研修旅行を実施。

●会費は年4回発行の機関誌代として年会費¥4200（送料共）。6回分¥6100、8回分¥8000、10回分¥9900。入会金不要。

●入会案内書入用の方はハガキで下記へお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP

て造られたのだから。

④のおびえることは恐怖心を持つこと、これは光のパワー、生命力のパワーを暗くしてしまう。身体の中に「も

っと光が上空からやってくるように」というイメージを描くのもよいだろう。

⑤自分を信じるということは自分を支えている生命力を信じるということでもある。

⑥は最も重要である。

ここに登場した彼女も他人に対して自主的に奉仕的に活動しているし、人と人とのあいだの感情のバランスをとることもうまい。

親切さ、同情心、そして自分を良くしてゆこうとする気持ち、それらがあいまって人間を進歩向上させるものとなるのだろう。

I Saw A Giant Flying Saucer!
by Yoshinori Matsura

私は巨大な円盤を見た!

★松浦義教 宮崎市・松浦空調代表取締役

初めて空飛ぶ円盤を見てドギモを抜かれた空調・ダクト設備工事社長の手記

今年三月一日(金) 午前一二時三〇分頃、私は宮崎市の平和ヶ丘団地付近を自分で運転しながら車で走行していた。

ふと見ると、西空の少し北方三五度ないし四五度あたりの上空に、きわめて明るく輝く星があったが、その左下方に小さい星があるのを発見した。

その星と見えた物がだんだん大きくなり、赤い光に見えて飛行機らしい物体となる。時計を見たら一二時三〇分、飛行機が飛ぶ時間にはおかしい。物体は左斜め下方に移動した。

それはますます大きくなり、山の上と星の間ぐらいの所で丸くて輪の形に見えた。これはいわゆる空飛ぶ円盤ではないかとはつきり気がついた私は自分の目を疑った。

県道蓮ヶ池、郡司分線と小松く富吉農道の交差点の西側に車を停めて見直した。間違いなく円盤である!

約二分間ぐらい見ていた。

円盤は左横方向に少し下降しながら

移動していたが、私も再び車に乗って移動し、物体の行く方向へ車を進めた。

三〇メートルぐらいの所の私の工場の裏にある小さい山の上空で円盤は一時停止したかと思ったら、下降して裏山に隠れて見えなくなつた。そのとき私は円盤の形状をすべて見たが、音は全くなかった。

山の裏は国道一〇号線ぞいに小学校

▲写真は円盤が左下方へ下降した状況と小学校を示す。写真中に筆者が書き込んだもの。



があるので、すぐ車をとばして谷口潰け物工場横の小道を西方へ行くと、そのつきあたりには国道一〇号線が通っている。道路ぞいにはカラオケ店があり、明かりがついていた。その前方左方の小高い丘に生目小学校があり、学校の校舎と体育館上空に黒っぽい煙りと水蒸気のような雲が一面にただよっている。そして学校の校舎の一階の灯火があかあかとついていた。三階の校舎の中央付近の教室が一つだけ明るくついていた。

そのとき一〇号線左方から(宮崎市内方面)アルミ箱型をした運送トラックが、学校の上り坂の入口に急停車して停まった。運転手が降りたのは確認

している。この深夜に学校に電灯がついているのを不思議に思った。約一分間そこにいてから帰った。

夜が明けてからMRT放送局と宮日新聞に電話で知らせた上、生目小学校の校長にも電話をかけて深夜の電灯のことを聞いてみたが、そんなことは絶対にある得ないはずだと校長が言う。その後、MRTのラジオ番組で目撃者が別にいたら連絡してほしいと放送してもらったが、まだ連絡はない。



▲松浦義教氏

H3.3.15日

- ① 3/15日 08:20 所 軒下
- ② 3/15 0.30分 西の空 大野川相生橋手前
- ③ 相生橋を越えり 跡江橋前 ②の地点より3kmほど ない物体に見えた

④ 跡江 甲非若工の近く 車に乗って見ると2分以内に

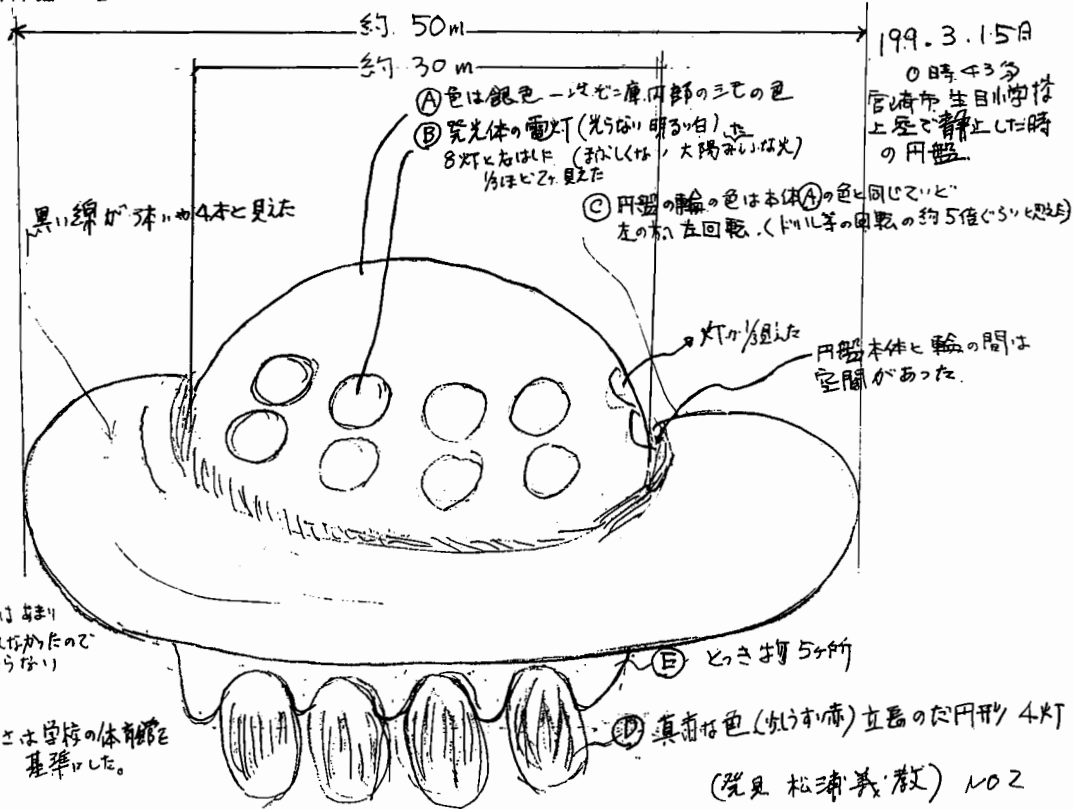


？ 何となく2分？

100.59

星の角度は約 25度〜20度くらい 35度〜40度

3月書いた



タパヌイの謎の大爆発

ジャン・パジャク博士——巨大異星船の爆発か!?——

坂本貢一訳

読者の多くは、中央シベリア高原のストーニー・ツングースカ川近くで1908年に発生した巨大な爆発に関する知識を、すでに充分にお持ちのことと思う。しかし、それと良く似た、しかもはるかに巨大な爆発が、1178年にニュージーランドの南島で発生していた事実について知る読者は、極めて少数であろう。

ツングースカ大爆発

一九〇八年六月三〇日午前七時一七分、一個の円筒形の物体が中央シベリアの雲一つない空を西に向かって一直線に飛行して行くところを、数多くの人々が目撃した。

そしてその物体は、小さな交易センターのあるバノバラという町の北一一三キロメートル地点における、地上から約五キロメートルの空中で爆発し、付近のタイガ（常緑針葉樹林）を五〇〇平方キロメートル以上に渡って破壊した。なぎ倒された樹木群のうちで最も外側に位置していたものは、爆発の中心部から七五キロメートルも離れていた。

倒された樹木群はそれぞれが交差することなく、すべてがその根を爆発の中心に向けて横たわっていた。爆発によって破壊されたその地域は全体が独特の三角形を成し、その三角形の頂点は磁気南（マグネティック・サウス）を指し示していた。

このツングースカ地域の上空で起こった爆発が何によるもののかを示す明確な証拠となるものは発見されなかった。あとに残ったものは、爆発によって広範囲に渡ってなぎ倒された樹木群、小さな球状物質群から成る「トリニタイト（trinitite）」、付近に住む人々

に発生した奇妙な病気、そして、数多くの目撃者たちのみだった。この爆発によるクレイターは形成されていない。パジャク博士は、一九四六年ポーランド（Wesewilk）生まれ。同国プロツワフ工業大学機械工学部に学び、一九七〇年、機械工学の修士号を取得している。その後彼は同大学において講師を務めるかわら、一九七四年、コンピュータ・アシステッド・デザイン

の研究により、工学博士号を取得している。やがて一九八二年にはニュージーランドに渡り、一九八五年、同国の市民権を獲得するに至っている。ニュージーランドに渡った彼は、クライストチャーチのカンタベリー大学における研究活動ののち、インバーカギルのサウスランド・カレッジにおいてコンピュータ・プログラミングの講師を勤めた。そして一九八八年、ダニディンのオタゴ大学において筆頭講師の地位を提供され、現在に至っている。

ツングースカで発生した大爆発は、当初は大気圏外から突入して来た巨大な隕石によるものと解釈されていた。しかしながら、それを証明するいかなるものも発見されず、目撃者たちの証言も隕石による現象を見たものとは明らかに異なるものばかりだった。

そのあと、彗星説から、反物質（反核子と陽電子から成るとされている仮

想の物質）の塊説、ブラックホール説に至るまで、様々な説が乱れ飛んだが、一九六一年、ソ連の科学者アレクサンデル・カザンツェフとそのグループは、ツングースカ隕石落下事件として処理されていたその爆発を、「巨大な宇宙船が何らかの機械的な故障が原因で爆発したものだと思われる」と結論付けた(1)。

タパヌイ大爆発

つい最近まで、ツングースカ大爆発が、この惑星上で発生したその種の爆発の唯一のものであると考えられてきたが、一九八七年、筆者は、現在「タパヌイ・クレイター」として知られている巨大なクレイターに関する詳細な調査の結果、ツングースカ大爆発がその種の爆発の唯一のものではないことを強く確信するに至った。

タパヌイ・クレイターという名前は、近くの小さな町の名前（ニージーランド・オタゴ州タパヌイ）をそのまま引用して名付けられたものである。

このクレイターは、そのサイズが九〇〇×六〇〇×一三〇メートル（縦×横×深さ）という巨大なもので、その回りには、ツングースカ地方で見られたのと全く同じような、三角形を成す広大な被破壊域が広がっている。そしてそれは、八一〇年後の現在において

も充分にその痕跡をとどめている。

このタパヌイ大爆発は、ツングースカ大爆発の持つ特徴群をすべて備えている。主として次のような特徴群である。

- 爆発が起こったと推定される地点を中心として、森林の樹木群が、根を中心に向けて放射状に根こそぎなぎ倒されている。
- その被破壊域は全体が三角形を成し、その三角形の頂点が磁気南を指し示している。
- トリニタイト群が発見されている。
- 「タパヌイ感染症」として知られる奇妙な病気が発生している。
- 多くの人々が目撃し、それらは口伝に現在まで伝承されている。

ツングースカ大爆発と類似した以上の特徴群に加えて、この爆発は、さらにその他の興味ある特徴群を数多く備えている。

例えば、それはかなり低空における爆発であったために、巨大クレーターを残した——その付近全域が異常な磁気を帯びている——宇宙船の残骸だとみられる数多くの破片群が発見されている——爆発の瞬間に取り込まれたと見られる新鮮な有機物群を内包した、いわゆる「チャイナ・ストーン」群が数多く発見されている、といったものである。

ニュージーランドの土着民であるマオリ人たちの間では、このタパヌイ・クレーターにまつわる数々の伝説が延々と語り継がれてきているが、それらはどれも、このクレーターが地球外宇宙船の爆発によって形成されたことを強く示唆している。

にもかかわらず、現代科学は彼らの伝説を一方的に否定し、それを単なる「地滑り」によって形成されたものだと結論付けてきた。よって筆者は、タパヌイ・クレーターの成因に関してマオリ人たちと一致した主張を展開した最初の科学者であるということができよう。

一般の科学者達とは色合いを異にした筆者の主張は、筆者がタパヌイ・クレーター存在の事実を知るかなり以前から行なっていた、ある理論的な研究がそのベースとなっている。

マグノクラフト

一九七二年以来、筆者は、磁気、推進力として飛行する乗物に関して徹底した研究を行なってきた。筆者はその乗物を、「マグノクラフト」と名付けている(2)。

様々な観点からなされたその研究の中には、もしマグノクラフトが爆発したときにはどんな状況になるだろうか、ということに関するものも含まれてい

る。そして筆者は、その研究を通じて、もし「マグノクラフト」が爆発したならば、極めてユニークな破壊パターンを示すはずであることを確信するに至った。つまり、もしそれが地表付近で発生したならば、地球上で自然になされる地形変化(例えば火山の爆発によるもの、浸食によるもの、隕石の衝突によるもの等)とは明確に異なった地形変化をもたらすはずであることを確信したのである。

そして、マグノクラフトの爆発による影響を理論的に煮詰めた筆者は、次に、地球外文明によって建造されたその種の乗物群が地球上で実際に爆発を起こした形跡を探すべく徹底した調査に乗り出したが、その調査の過程で、ニュージーランドのマオリ人たちの多くの部族間で語り伝えられているある伝説に遭遇したのである。それは、太古に地球のものでない宇宙船が爆発し、その破壊的な影響は、南島のほぼ全土に及んだ、というものであった。

そして、彼らが語り継いで来た複数の伝説を詳しく分析した結果、ついに筆者はタパヌイ・クレーターにたどり着いたのである。当然のごとく、筆者はそのクレーターの徹底した調査を行なった。そしてその結果判明した事実をもとに書き上げられたものが、以前に紹介した科学論文『タパヌイ・カタクリズム』である。

その調査によって判明した事実の概

略は、次の通りである。図1および図2を随時参照されたい。

宇宙船の大爆発か

1 タパヌイ近郊に存在する巨大なクレーターの地形的特質は、地表付近で発生した極めて強力な爆発によるものであると断定出来る。

このタパヌイ・クレーターは、タパヌイ、ワイパイ、マタウラの三つの町を結んで形成される三角形のちょうど西側に位置しているが、ちなみに、これらの町の名はマオリ語では、順に「大爆発」「激しく火の燃える場所」「燃え上がる宇宙船」という意味になる。

このクレーターの地理的な位置は、南緯四六度〇四分、東経一六九度〇九分である。衝撃波が最初到達したと思われるクレーター内の一部分は、先端角が約一〇〇度の三角形を成しているが、クレーター全体としては、ほぼ楕円形を呈している。

そしてその楕円の長軸は、地理的には北から西に三七度傾斜しているが、それはまさに、一一七八年当時の磁気南と磁気北を指し示している。

この巨大なクレーターは、その地方では「ケルアウ」と呼ばれているのだらから小さな岡の西側斜面にその姿を横たえているが、それはマオリ語で

(32頁へ続く)

下のテープの中から、お好みのテープを

1本無料進呈!!

●無料で効果を試せるチャンス!!
あなたはどうまで変われるか?

日本全国で話題になっている「α波音楽に耳に聴こえないメッセージを同調させた」『サブミナルテープ®』その人気シリーズのベーシックテープを、下記のシステムにて無料でお届けします。

今すぐお電話・おハガキでお申込み下さい。



BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブミナルテープ、耳に聴こえないのは、うつとするような美しいメロディーの心がゆたたりとくつろいでくる静かな音楽だからです。(日本の曲でいえば、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。)しかし、実はこの音楽に、ハルパーン博士を始めとする専門家の手によつ

て高度な最新テクノロジーを駆使して、ある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえない周波数に変換されて入っているのです。潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を溶け込ませ、受けつけてしまう。

「本を読んだり趣味に熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで夢がかなってしまふ」このアメリカの奇男子の科学的プログラムの効果を、実際に自分自身の手でお試し下さい。

■無料でお届けするサブミナル・ベーシックテープのタイトル■ (下記のシリーズの中から1つお選び下さい。)

シリーズ名	ベーシックテープのテーマ・タイトル
① 恋愛成功(BM)シリーズ	女性への緊張感の除去
② 積極的性格(PC)シリーズ	本来の自分を取り戻す
③ 魅力的性格(AS)シリーズ	自分自身への自信
④ 脳力開発(AD)シリーズ	自分の能力への自信の強化

第1回目以降にお届けするテープのテーマ名は次の通りです。

① **これで女性も思いのまま**
恋愛成功シリーズ(BM)シリーズ
BMシリーズのお届けする各テープの内容は、●個性の魅力を高める●女性と理想の関係を持つ●理想的パートナーを得る●女性への絶対的自信●積極的思考の習慣●失敗への恐れを完全克服●達成能力の獲得●他人を無条件で好きになれる●性エネルギーの強化●思い即行動●自分への絶対的自信●あふれるばかりのエネルギー

② **内気な素直な社交的人間**
積極的性格シリーズ(PC)シリーズ
PCシリーズのお届けする各テープの内容は、●積極的自己イメージの確立●コンプレックスの除去●自尊心の抑制●人見知りの克服●ストレートな感情表現●異性への積極性の獲得●社交性への自信●積極的な自己主張の習慣●ダイナミックな行動力の強化●陽気な笑顔の習慣●強烈なエネルギーを放つ●積極的性格の実現

③ **誰かにも好かれる人気者**
魅力的性格シリーズ(AS)シリーズ
ASシリーズのお届けする各テープの内容は、●自分らしさを発揮●自分の魅力の自覚●魅力的のパーソナリティの開発●秘められた能力の発露●自分だけの魅力・個性を磨く●魅力的な感情表現●精神的抑圧からの解放●感情の自由な制御●他人への執着からの解放●性格のゆがみの矯正●いつも魅力的にふるまう習慣●誰かにも好かれるキャラクターの獲得

④ **記憶力潜在的知能を開発**
脳力開発シリーズ(AD)シリーズ
ADシリーズのお届けする各テープの内容は、●記憶力を高める●IQ(総合的知能)の開発●独創的な創造力を身に付ける●仕事・試験で高成績を上げる●ヒラメキ・直観力の開発●論理的・数学的才能を高める●問題処理能力の強化●頭の回転をキレを磨く●文章表現力・語学的才能の開発●洞察力・高度な思考を身につける●理想的脳波(アルファ波)の強化●独自の才能の発揮

サブミナルテープ・ベーシックテープ申込み要項

サブミナルテープ頒布会各シリーズのベーシックテープを、次のようなシステムにて無料でお届けします。以下の要項を良くお読みになり、ご希望のテープをお申込み下さい。

●ベーシックテープは、各シリーズの第0回目の頒布テープとしてお送りいたします。

●お届けするベーシックテープは、お申込みになったシリーズの、第1回目以降のテープを1購入の有無にかかわらず、無条件で無料です。

●ベーシックテープをお申込みいただきましたと、そのシリーズの頒布会員に自動的に登録され、キャンセルの通知がない場合は、翌日よりシリーズ第1回目以降のテープを毎月自動的にお送りいたします。

●第1回目以降は一年間の会費制の頒布会方式でお届けします。毎月各テーマ別のテープを一巻ずつ(テープ本)だけですが、複数のベーシックテープのお申込みに関しましては、以下の条件で申し受けます。

●お申込みいただいた複数の内、1本につきましては、第1回目以降の頒布テープ1購入の有無に関係なく無料。他の何本かは、同じシリーズの第1回目・第3回目までの頒布テープを1購入になった場合のみ無料。ご購入いただかなかった場合は、2本目以降のベーシックテープ1本につき、3,000円(送料込)を申し受けます。

●申込みの上限は3種類(3本)まで。

＜申込方法＞
左記(○)シリーズのベーシックテープ「申込」を、電話かハガキでお申込み下さい。通常のサブミナルテープ頒布会申込みとの混乱を避けるため、必ず「ベーシックテープ申込」とハッキリ(明記ください)。
〒100 東京都千代田区南 1-26-4
アメリカン・インテリジェンス社
電話 03-5561-4000
(受付24時間 日・祝日も受付中)

GAP短信

GAP NEWS

■UFO観測会、大成功

去る五月二五日に東京本部と全国支部が一斉に実施したUFO観測会は成功裡に終了した。詳細記事は本号2頁より掲載されている。

■山形・仙台合同支部大会

五月四日、第一回山形・仙台合同支部大会が山形県天童市において天童市中央公民館で開催され、四二名の出席者があり盛況であった。詳細は本号36頁に掲載されている。

■大阪支部特別月例会

大阪支部は六月一六日の月例会に久保田会長を招待し、講演、質疑等を行ない有意義に過ごした。これは準支部大会ともいふべき性格の集会で、三〇名弱が出席。前夜の夕食会から当日の夕食会に至るまで久保田会長より有益な秘話をたつぷりと聞いた。詳細報告は次号に掲載。

■旭川・札幌合同支部大会

続いて六月二三日には北海道旭川市において、第八回旭川・札幌合同支部大会が開催され、これも盛況であった。翌日の観光では雄大な美瑛の田園地帯を満喫した。この件の報告も次号に掲載の予定。

■新アダムスキー全集第一〇巻

新アダムスキー全集は八月に第一〇巻『超人ジョージ・アダムスキー』の刊行をもって完結する（中央アート出版社刊）。この巻は翻訳ではなく久保田会長の書き下ろし原稿をまとめたもの

で、アダムスキーの宇宙的体験と哲学の概要を紹介し、アダムスキーの人間像を克明に描写。さらに日本GAPの多年に渡る活動状況にも触れて、わが国におけるアダムスキー問題の先駆的な啓蒙運動の発展状況を興味深く伝えている。GAP会員必読の書。

■UFO—宇宙からの完全な証拠

かねて本誌に長く連載したダニエル・ロスの名著『UFO—宇宙からの完全な証拠』も中央アート出版社から単行本化されて七月上旬に出版された。これは新アダムスキー全集の別冊となるもので、アダムスキーの体験を著者が科学的に検証した高次元な内容を有している。これでもって新アダムスキー全集は実質的に一巻となる。

■本年度海外研修旅行

予告どおり日本GAPは八月七日より二日間、第一三回目の海外研修旅行として『アメリカ東部西部・メキシコ宇宙ロードの旅』を実施する。今回は湾岸戦争の影響もあって参加者が減少気味だが、本号が出た時点ではまだ間に合うので、参加希望者は至急にワイルドセプトラベル社の田中正氏宛申し込まれたい。電話は〇三—三九九九—二四六—。夜間は〇四七五—八九九—二〇三九の田中正氏宅へ。第二回目の旅行説明会は七月二八日（日）に都内渋谷駅前の渋谷タクギンビル六階で午後一時より開催される。詳細は参加申込者に通知される。

■新潟UFO写真展

新潟支部は来たる八月中旬に第六回UFO写真展を左記の要領で開催する。会期〇八月一日より一五日まで五日間。毎日午前一〇時より午後八時まで。但し最終日のみは午後五時まで。

会場〇新潟県新発田市「ジャスコ新発田店」三階。JR新発田駅より駅前通りを徒歩二分。駐車場付き。

内容はUFO写真パネル七〇点展示の他、ビデオ『これがUFOだ！』上映、スライド映写による解説、関係書籍販売等。

■今年度日本GAP総会

今年度の総会は九月二日（二日連休の初日）に東京都中央区銀座七丁目の銀座ガスホールで盛大に開催される。今年はアダムスキー生誕一〇〇年記念、日本GAP創立三〇周年記念、新アダムスキー全集刊行記念と銘打って、デンマークGAP創立者ハンス・ピーターセン氏を招待し、講演を行なう他、同氏が持参する珍しいUFO関係ビデオとスライド映写を行ない、アメリカから来日するダニエル・ロス氏が挨拶するという豪華版。大盛況が予想されるので出席希望者は37頁の予告を参照の上、早目に申し込まれたい。

■東京月例会、会場を変更

東京月例会は約二〇年間、上野公園の東京文化会館で開催されてきたが、

事情により今年九月から港区芝公園の『機械振興会館』に変更する。

新会場は東京タワーのすぐそばで、同館地下三階の第二研修室で毎月第一日曜日に午後一時より五時まで開催する。ここは定員一〇名なので席が不足することはなく、外部の騒音が遮断された静かな場所。交通の便利もよく、多数の出席者が見込まれる。詳細は左頁の案内を参照。九月は第一日曜日の一日に開催の予定。九月より新会場移動を期して月例会の方式も変更し、新風を吹き込む。

なお七月の東京月例会は都合により第三日曜日の二二日とし、八月は第一日曜日の四日にいずれも東京文化会館で開催する。この八月終了をもって文化会館から離れることになる。

■地方支部の月例会関係変更事項

各支部に変更事項あり、巻末の月例会案内を参照して確認されたい。

■おめでた

GAP会員同士のカップルがまたも今秋誕生する。東京本部役員で多年久保田会長の助手をつとめた松村芳之氏（東京）と高野昌子さん（山形県村山市）が一〇月一〇日、山形県天童市鎌田本町一—一三〇「滝の湯ホテル」で午前一時より盛大に華燭の典を挙行する。祝電は右のホテルへどうぞ。

■本誌次号は総会特集とするほか、UFO写真その他パンチのきいた記事満載するので期待されたい。

日本GAP東京月例会 9月より会場を変更！

東京月例会は約20年間、上野公園の東京文化会館で開催されてきましたが、今年9月1日の月例会より東京タワーそばへ会場を変更し、内容に新風を吹き込むことにしました。これにより新鮮な雰囲気が生じて一段と宇宙的波動も高まるものと確信します。多数ご出席のほどをお待ちしています。目印は東京タワー！

★新会場＝東京都港区芝公園3丁目5-8 「機械振興会館」地下3階 第2研修室。機械振興会館は東京タワー正面の道路を隔てた向かい側。タワーを目当てに行けばOK。日曜日は会館玄関は閉鎖されているので、玄関に向かって右手へ行き、ビルの角を回って奥へ斜面通路を降りると東出入口がある。そこからビルへ入るとそこは地下1階。すぐエレベーターがあるので地下3階で降りて、すぐ右手に廊下に面した同じタイプの研修室が2部屋並ぶ。その奥の方が第2研修室。日曜日は☎03-3434-8213。

★交通＝JR山の手線「浜松町」駅下車。駅に隣接する「貿易センタービル」(超高層ビル)の正面玄関前のバス乗場から東京タワー行きバス(始発)で約8分。料金¥160。バスは12時台に11分、25分、37分、50分の4本がある。タクシー約5分。料金¥620。浜松町駅から徒歩約20分。地下鉄日比谷線「神谷町」駅下車徒歩約7分。〈注意〉東京駅方面より山の手線「浜松町」駅で下車してバスに乗る方は、降りたホームの階段を昇らずに(昇るとモノレール駅の方へ出る)ホームを東京駅寄りの端まで行くと下へ降りる階段があるから、そこを降りると同駅の北口へ出る。改札を出てから道路を50m行くと貿易センタービル正面玄関前のバス乗場へ出る。

★開催日＝毎月第1日曜日。午後1時より5時まで。
(今年度は9月1日、10月6日、11月3日、12月1日)

★駐車場＝会館付属の駐車場は日曜日は閉鎖されるので、すぐ前のタワー専用駐車場を利用されると便利。午前8:30より午後8:00まで。最初の1時間は¥460、以後30分ごとに¥230。

★その他＝月例会のプログラムについては本誌巻末の月例研究会案内を参照のこと。機械振興会館内にはレストラン、喫茶店、売店等があるが、日曜日はすべて閉鎖されるので、食事の必要ある方はタワービル内に多数あるレストランのご利用が便利。月例会終了後は浜松町駅に隣接する貿易センタービル地下1階の食堂「マイアミ」で夕食会を開催。地方の方は前日夕方上京し、タワー付近のホテルに一泊、翌日午前中タワーに登って都内を遠望、午後月例会に出席すると一泊二日の東京ツアーが楽しめる。ホテルに関しては日本GAPへご照会ください。

▶矢印が機械振興会館。



▶会館正面から右へ回る。



▶地下3階見取図。





美神の大アバタ

米航空宇宙局（NASA）のジェット推進研究所（JPL）は五日、金星探査機「マゼラン」がレーダー観測で、表面の火山活動や断層などをはっきりとらえた画像を発表した。

金星の南半球の「アルファ地域」と呼ばれる高地のほずれにある火山は、直径三五キロもある巨大なカルデラ状の火口のくぼみの中央に、直径五・四キロの噴火口があり、そこから西方向に溶岩流の跡が流れて外輪山を越えているのが写っていた。これに似た火山は、六か所以上見つけた。

こうした観測結果から、専門家は「金星の火山活動は、数億年前から現在に至るまで活発に続いているようだ」と、推測している（3・6説）。

ハレー彗星が突然一〇〇〇〇倍の明るさに

一九八六年に地球に近づいて大きな話題になったハレー彗星が、地球から二〇億キロも離れた太陽系の「はずれ」で、突然千倍以上も明るくなる異常な活動を起こしていることを、ハワイ大天文研究所

の研究者が発見した。

同研究所のカレン・ミーチ博士によると、この二月一五日、ハワイ島マウナ・ケア山にある同大学の口径二・二メートルの望遠鏡でハレー彗星を観測したところ、予想の二一・五・四等級の明るさより、千倍以上明るい一七・二〇等級の明るさでハレー彗星が写っていた。また、彗星の核を取り囲むコマと呼ばれるガスの部分は直径三〇万キロ以上にも大きくなっていた。彗星は、太陽に近づくとき熱や太陽風によって明るさを増し、長い尾を伸ばすことが知られているが、太陽から遠く離れたところで、これほど明るくなる例はこれまで知られていない。

ミーチ博士は「彗星の核で凍っていた二酸化炭素や一酸化炭素が蒸発して大きなコマを作ったか、隕石が彗星にぶつかったのかも知れないが、何とも不思議な現象だ」と、頭をひねっている。

ハレー彗星は七十六年の周期で太陽を周回。現在は土星よりも遠くにあつて、さらに遠ざかっている（3・6説）。

ひからびた細胞も生き返らせる

トレハロースの不思議

生命を復活させる働きをする物質「トレハロース」が研究者の関心を集めている。糖が二つ結合した二糖類の一種で、もともと、キノコや海藻などにたくさん含まれている。生命に不可欠な水の代わりに、細胞の形態を保つ働きがあるらしく、食品や医薬品の新しい保存剤などとしての応用も始まっている。

トレハロースの不思議な作用を発見したのは、英国ケンブリッジ大学の移植免疫学者ブルース・ローザ博士。水中にすむ小さな袋状生物ワムシや、酵母、砂

漠植物イワヒバなどは、カラカラに乾燥

して何年も死んだ状態にあつても、水をかけると再び生き返ることが昔から知られていた。このなぞに挑戦したローザ博士は一九八五年、その原因が既知の糖トレハロースであることを突き止めた。

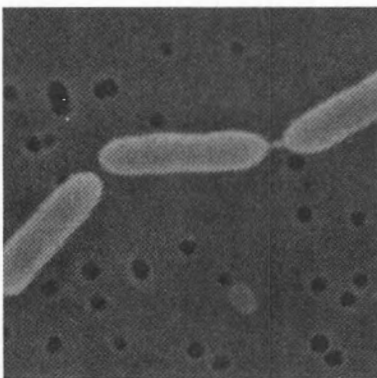
琉球大学理学部物理学科の沢崎英正・助教からは、ローザ博士の研究協力者であるケンブリッジ大学病院の平沢計介博士を通じて、この物質を入手した。精製したトレハロースは、砂糖のような白いサラサラした粉末で、少し甘みがある。沢崎さんと研究生の比嘉正英さんは、サケの精子から取ったDNAに水と、伸び縮みを増幅する「架橋剤」を加えて元の体積の二割以下に乾燥させた後、再び水をかける実験をした。乾燥前にトレハロースを加えておくと元に戻るが、トレハロースがないとDNAゲルは体積の三割ほどしか戻らなかつた。沢崎さんらはこの結果を、昨年一月の応用物理学会九州地方会で報告した。

トレハロースは水の分子が重なった構造をしており、細胞が乾燥すると、速やかに水分子のあとに入りこみ、細胞の構造を守るらしい。

トレハロースはまた、細胞の凍結保護物質としても注目されている。昨年二月の米科学誌「サイエンス」で、アメリカンで、カナダのカルトン大学のK・ストレー教授らは、体が凍結しても死なないカエルなどの動物が、細胞内に凍結保護物質として多量のトレハロースを含むことを指摘した。

「学問的な興味がつきないこの物質が食品や医薬品の保存剤として、実用的なことも確実です」と沢崎さん。卵、豆腐

などにトレハロースを加えて、乾燥させておく。必要な時に水で戻せば食べられるそうだ。



などにトレハロースを加えて、乾燥させておく。必要な時に水で戻せば食べられるそうだ。

応用第一号が血液型測定キット。試薬にトレハロースを加えて乾燥し、板につけておく。いつまでも保存でき、血液を加えると初めて反応が起こる。水のない砂漠でも使える便利なキットは昨年、ローザ博士らのグループが開発した（4・13朝）。

ウラン食べる細菌

米地質調査所のデレク・ラブリー博士らは、水中のウランを除去する細菌「写真、ロイター」を見つけ、英科学誌「ネイチャー」に発表した。ウランだけでなく、プルトニウムなど他の放射性物質も除去する性質があるため、放射性廃棄物の処理に使える可能性が高い、という。

ラブリー博士らによると、この細菌はGS15と呼ばれる鉄還元細菌。鉄だけでなく、水溶性のウランを摂取して急速に増殖し、その数は二四時間で百万個から二千万個に増えた。

ウランを直接処理する細菌が見つかった

たのは初めて。これまでも、ウランを代謝する細菌は知られていたが、その仕組みは間接的と考えられていた。

今回の発見は、ウラン鉱石の形成に細菌が関与している可能性を示しているという(4・9朝)。

ウナギのホルモンに血圧下げる効果

北里大学医学部生理化学研究室(佐藤登志郎主任教授)の竹井祥郎講師(西)「動物学専攻」はウナギの心臓から、血圧を下げたり、高血圧を起こす血中のナトリウムを排出する新しいホルモン「心室性ナトリウム利尿ペプチド(VNP)」を発見、八月に東京都八王子市で開かれる第三回国際比較生理生化学会議で発表する。この新ホルモンの特性が明らかになれば高血圧、心筋こうそく、心不全などの難病の治療、予防薬として期待されそうだ。

竹井講師によると、高血圧の原因は、昇圧作用をもつ食塩中のナトリウムの取り過ぎと、血管の硬化で血液の流れが妨げられて血圧を高くする二つがある。竹井講師が約二五〇〇匹のウナギの心臓から取り出した新ホルモン(VNP)を使ってラットによる動物実験を行ったところ血中ナトリウムの排出量で従来の心房性ナトリウム利尿ペプチド(NP)と比べると九倍以上の量を排出。血圧の下降状態ではNPが一八%の下げに対し、新しいホルモンのVNPは二九%の血圧を下げるという数値が出た(5・28毎)。

がん、動脈硬化に活性酸素が関与

「老化のフリーラジカル説」の提唱者、デンハム・ハーマン米ネブラスカ大教授(西)が日本薬学会の招きで来日、特別講演した。

フリーラジカルは電子が不足して不安定な状態の元素や分子で、電子を奪う反応性に富んでいる。中心は酸素原子が絡んだフリーラジカル(活性酸素)で、細胞を直接、あるいは間接的に過酸化脂質などを作って傷つける。ハーマン教授は一九五六年、細胞内のフリーラジカル反応の蓄積が老化につながるという新説を発表した。

三五億年前の生命誕生からフリーラジカルは生命活動について回っているとする教授は「老化についてはまだ意見が分かれるが、がんや動脈硬化などの病気にこれが関与していることは確実だ」という。

最近のトピックスは、細胞質などにあつて活性酸素を抑える酵素SOD(スーパーオキシドデヒスムターゼ)で、SODを含む健康食品なども出回っている。ハーマン教授は「SODを食べてもすぐ消化されてしまうだろうが、リボソーム(脂肪球)などに包んで体内に入ればよいかも知れない」と話していた(4・22朝)。

犯罪捜査に「DNA鑑定」

個人識別法として注目されている「DNA(デオキシリボ核酸)鑑定」について警察庁は二二日、鑑定方法などを統一したうえで制度として犯罪捜査に導入することを決めた。

DNA鑑定は、DNAを構成する四種の塩基(分子)の配列順序で個人差を読み取る方法。微量のDNAを大量にコピーする方法(PCR)合成酵素連鎖反応(法)の開発によって、鑑定試料が少ない犯罪現場への応用が可能になった。現在では、一ミリの血痕があれば鑑定で

きるといふ。このDNA鑑定制度は今後、指紋制度と並んで日本の犯罪捜査の主な柱となる。

DNAによる個人識別は一九八五年に英国の科学雑誌で最初に発表され、大学の研究室などで親子鑑定などに利用されている。しかし、試料が古く、微量のことが多い犯罪現場には応用が難しく、警察庁科学警察研究所が犯罪捜査への導入のための研究を進めてきた。その結果、条件の悪い試料からもDNAを採取する方法を開発、昨年一月以降実用化段階に入った(5・23毎)。

たばこが原因 毎年三〇〇万人が死亡

世界禁煙デーの三日を前に、世界保健機関(WHO)本部・ジュネーブ)は三〇日、たばこの煙が非喫煙者に与える健康被害が深刻化、肺がん患者の二〇・三%が非喫煙者で占められていると明らかにした。一九九〇年代にはたばこが原因で毎年三〇〇万人が死亡すると予測している。

WHOによると、世界の喫煙者は先進諸国では男性は三〇・四%、女性は若い世代を中心に二〇・四%を占めるが、途上国では男性の四〇・七%、女性の二一・〇%を占めている。

九〇年代に推定されるたばこが原因の死亡者数は、先進国で毎年二〇〇万人、途上国で毎年一〇〇万人とされている(5・31毎)。

発明王の中松さん、11年連続グランプリ

第一四回世界発明コンテストの授賞発表式が四日、ニューヨークで開かれ、会社社長、中松義郎さん(六三)が一連連続で最優秀グランプリを獲得した。受賞対象になったのは「ドクター中松・ノスト

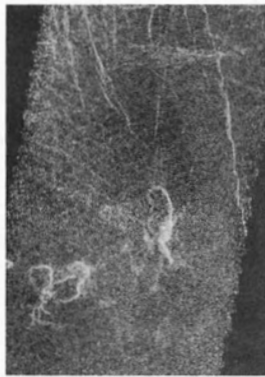
ラダムス・エンジンII」で、中松氏は、宇宙に存在する放射線エネルギーを集めて動力とする無公害エンジンと説明している(6・5毎)。

三三六キロ また出た「国内最高速」

来年夏開業する「山形ミニ新幹線」の改造車両を使ったJR東日本の高速試験が二六日未明、上越新幹線の越後湯沢―浦佐間で行なわれ、鉄道では国内最高速の時速三三六キロを記録した。JR東海の新幹線「スーパーひかり」が先月二八日に出した時速三二五・七キロを一〇・三キロ上回る新記録。両社では、試験で得た高速データをもとに営業時速三〇〇キロの新車開発を急ぐ方針で、新幹線三〇〇キロ時代」が目前に迫った(3・26読)。

金星 光る火山

米航空宇宙局(NASA)の金星探査機「マゼラン」のレーダーが、幅三キロ、長さ約五キロにわたる金星表面のフェーベ地域一帯をとらえた。画像中心部の不規則な形状をしたくぼみは、火山活動でできたカルデラとみられる。隕石の衝突で形成されたクレイターとは違って、火山のカルデラは円形をしているとは限らない。光って見えるのは、カルデラの壁が光を反射しているからだ。(H2・9・13読)。



(26頁より)

は、「大地を揺るがした岡」という意味である。この岡は、粘土とシリコン砂から成るものである。クレイターの底は岩盤までは達していない。

このクレイターの規模からして、その形成に要したエネルギーは、少なくとも見積もってもTNT(トリニトロトルエン)六〇メガトン分に匹敵する。よって、空中を移動した物体などによる摩擦によつてはその形成が全く不可能であつたことは火を見るより明らかである。

クレイターの楕円形構造は、「累積的爆発」によつて発生する衝撃波の存在を示唆している。それが自然に発生することはあり得ない。

ほとんど完全に閉ざされた外周を持つことから、このクレイターが浸食(あるいは地滑り)によつて形成されたことも考えられない。

このクレイターの長軸は、一一七八年当時の地球の磁気南と磁気北を指し示しているが、それは、磁気を推進力とする葉巻型の宇宙船の通常の傾斜方向と見事に一致する。そしてそれは、隕石の落下方向とは全く一致しない。

このクレイターの底は、焼けた樹木群の残骸で覆われている。

このクレイターの東側外部の土壤は、もともとはクレイターの底にあつたと思われるシリコン砂の厚い層で覆われているが、それは、激しい爆発によつ

て大量の砂が岡の上に吹き上げられたことを強く示唆している。

このクレイターの内部構造は、それが四つの連続した爆発によつて形成されたことを如実に物語っている(図2参照)。

このクレイターは、隕石の激突につきものの「盛り上がり」を持った、隕石のかけらとおぼしきものも何一つ発見されていない。

我々は、これまでに数々の核爆発実験を通じて、強力な空中爆発による地形変化の様相を学んでいるが、このクレイターの構造は、それと完璧にマッチするものである。

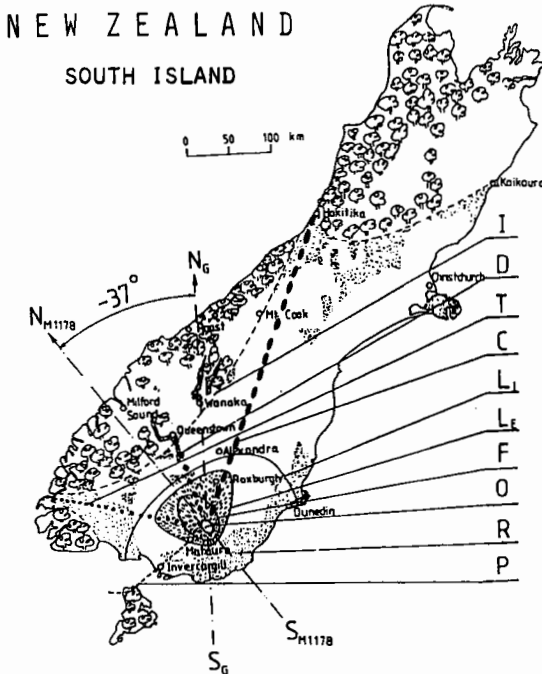
図1解説

タパヌイ大爆発による被害のタイプと範囲を明示したニュージランド南島全図。三角形を成す被破壊域に注目されたし。

各符号の意味は以下の如く。

- I…赤く燃えるチャイナ・ストーン群により着火して発生した山火事が、最初の爆風の吹き戻しの強風により燃え広がった地域。
- D…正体不明の金属片群(宇宙船の残骸?)が発見されたライン。
- T…硝子様の「トリニタイト」群が特に多く発見されたライン。
- C…大型のチャイナ・ストーン群が特に多く発見されたライン。

図1 ニュージランド南島



LI…吹き戻しの強風により倒された樹木群が横たわっている地域。全ての樹木がその「頭部」をクレイターに向けて倒れている。

LE…最初の爆風により倒された樹木群が横たわっている地域。全ての樹木がその「下部(根)」をクレイターに向けて倒れている。

F…爆発の火の玉群によつて直接着火

して山火事となった地域。

O…爆心(タパヌイ・クレイター)。

R…十九世紀に白人たちが初めて移住して来る以前に再生した森林。

P…爆発を起こした「乗物」が飛行して来た道筋(マオリ伝説による)。

SG…地理上の南、北。

SM…磁気南、北。付記の数字1

178は、一一七八年当時のもので

あることの意味。楕円形クレターの長軸は、まさにこの南北に沿ったものである。

図2解説

タパヌイ・クレター断面図。磁気上の南北に延びた長軸に沿ってカットしたもの。四つのクレター群によって構成されており、連続的な四つの爆発が起こったことを強く示唆している。

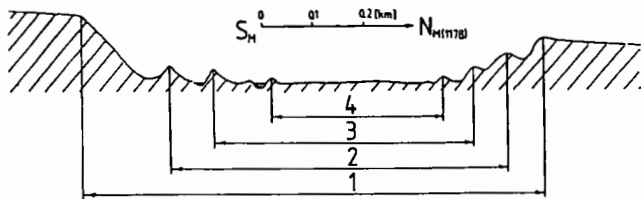


図2 断面図

南島で大火災があった？

2 植物群の成長を十分に促す気候的環境にありながら、南島のタパヌイ・クレター周辺の広範囲な地域においては、長年に渡って森林が全く形勢されていがないが、その地域全体に散在する樹木群の残骸に対する放射性炭素年代測定法の結果は、一様に、一一七八年前後に、何らかの原因によって、南島の半分以上の地域が火に包まれたことを示している。

一一七八年頃に南島の広大な地域が火に包まれたということは、ニュージーランドの植物学者、人類学者、動物学者、地質学者たちの間でも明らかな事実として定着している。しかし彼らは、その山火事がなぜ起きたかに関しては、当時その地域に移動して来たマオリ人たちが自身が火を付けたものだろうという説に、ただひたすら終始している。

しかしながら、その説には極めて大きな疑問が内在している。マオリ人たちがはたして、自分たちの多くの仲間を殺し、さらには彼らの主要な食料源であったモア鳥のほとんどを殺すことになった、差し渡し最大七〇〇キロメートルにも及び、巨大な川さえも越えて燃え広がった山火事を発生させたりすることなどあり得たであろうか。

さらにその説では、クレターの周辺地域において、樹木群がクレターを中心にして放射状をなして倒れているという事実を、何ら説明出来ない。

3 タパヌイ・クレターの周辺には樹木群が放射状をなして倒れている地域が広がっているが、その地域はさらに二つの異なった地域に分けられる。

まず一つは、爆発による直接の衝撃で倒れた樹木群が全体として三角形を成して横たわる地域であり、そこでは樹木群がごとくその根の部分をクレターに向けて倒れている。この地域の範囲は、クレターからの距離にして四〇〜七〇キロメートルに及ぶ。

そしてもう一つは、一つ目の地域を取り囲むようにして横たわる地域で、最初の爆風の吹き戻しによって倒された樹木群が横たわる地域である。ここでは樹木群が幹の頭頂部をクレターに向けて倒れていて、その範囲は、クレターからの距離にして約一〇〇キロメートルに及んでいる。

4 この地方においてモア鳥の死骸が大量に発見されているが、調査の結果、死亡時期は一一七八年前後、死因は焼死であることが判明している。

5 クレター付近の土壌および岩石群に、極めて異常な磁気が認められる。クレター内全域が、極めて混乱した

不規則な磁気を帯びている。

6 その地域（訳注「クレター」内であるのか、あるいはその周辺地域も含めたものであるのかは、原文からは不明）では、セレンウム、モリブデン、カルシウムといった、敏感に反応しやすい微量元素群の欠如が著しい。

異常なセラミック・ストーン群

7 タパヌイ・クレターから放出されたと思われる異常なセラミック・ストーン群、つまり、「チャイナ・ストーン」群、および、極めて稀な鉱物である「トリニタイト」群が、あちこちで見えられている。

「チャイナ・ストーン」群は、クレター形勢以前にそこに存在していたであろう土、粘土、岩その他の様々な物質群によって構成されている。それらの構成物質群が爆発とともに空中に放出され、空気力学的な力が働いたり、強熱（あるいは火）によって加熱されることなどの影響で飛行中にひと固まりになるとともに表面が光沢を帯び、地上に落下したものと思われる。

タパヌイ地方に見られるチャイナ・ストーン群の著しい特徴は、それらが、クレターを中心として放射状に延びたいくつものラインに沿って散在していることである。そして、それらが地

との関連を彷彿とさせている。

マオリ語が決め手

上に激突した場所には、小さいながらも明確なクレーターが残っているが、その形状から、それらがタパヌイ・クレーター方面から飛んで来てそこに激突したものであることが明確に見取れる。さらに、クレーターから離れるに従い、その形状、および組成は、若干ではあるが徐々に異なったものへと変化している。ただし、クレーターから大分離れたところにおいても、なお新鮮な有機物を含有するものや、光沢のある表面に煙が焼き付けられているもの、さらには、強い磁気を帯びたものなどがいくつも発見されている。

「トリニタイト」は、硝子様のケイ酸塩の小球体群によって構成されたある種の鉱物であるが、自然界には存在し得ないとされているものである。この鉱物はこれまで、二つのケースを除いては、核実験の跡地のみでしか発見されていない。そしてその二つのケースとは、勿論、ツングースカおよびタパヌイの大爆発である。

日 オタゴ地方は、地表付近で金が発掘されることで知られている。一説によると、地表での巨大な爆発には、地下の深いところにあるものを表面近くに上昇させる力があるという。ニュージーランド南島における地表付近の金鉱群分布図を見ると、それらがタパヌイ・クレーターを中心とした同心円内に集中しており、タパヌイ大爆発

9 タパヌイ・クレーター付近の地名群を注意深く吟味すると、その多くが、マオリ語で極めて興味深い意味を持つものであることが判明する。「爆発」「火の嵐」「炎」「宇宙の実体（あるいは宇宙船）」「角」「降下（あるいは落下）」「月」といったものをはじめ、興味深い意味を持つ地名が数多くあるのである。そういった意味を持つ地名は、同じニュージーランド内でも、他の地方においてはほとんど見られない。そして、それらの名前の持つ意味の一つひとつが、かつての大爆発の素晴らしい記録となっており、マオリ伝説と見事に符合している。

さらに面白いのは、それぞれの地名とその地理的な位置とを対比させてみると、それぞれの地名が、それぞれの場所からその大爆発がどのように目撃出来たかを如実に物語っていることである。例えばタパヌイ・クレーターに近い地域では、「爆発」「激しい炎」「火柱」といった種類の意味を持つ地名が多く、少し離れた地域では、「赤く熱い地域」「落下する熱い石群」といったもの、そしてさらに遠くなると、「光り輝く空」「炎の夜」といった意味合いの地名が多くなる。

核心を伝えるマオリ伝説

10 数あるマオリ伝説群の中には、タパヌイ大爆発を起こした宇宙船の目撃描写が数多く見られる。マタウラ近郊に住むあるマオリ人部族に伝わる伝説では、

「月のような顔を持つ角の形をした光る物体が、スチュアート島の上空から現れ、東の方向に向かって降下しつつ飛行して来た。そしてそれはマタウラの上空を過ぎてタパヌイ付近に至ったあたりで爆発した」という極めて具体的な描写がなされている。（ここで、宇宙船は西から東へ飛行したと語られているが、その飛行軌道と南北に延びているクレーターの長軸とが一致していないことに留意されたい）

その他にも、マオリ人たちの間では、「月のように輝く角の形をした空を飛ぶ乗物がタパヌイ付近で破裂して、とてつもない火事、惨事を引き起こし、モア鳥をことごとく死滅させた」といった伝説群が数限りなく存在している。

さらに、先程の「スチュアート島」にしても、実はマオリ人たちはその島を「ラキ・ウラ」と呼んでいるのだが、それには「光り輝く空」という意味がある。この名前もまた、島の住民たち

が、上空を降下しつつ通り過ぎた光る宇宙船がタパヌイ付近で大爆発を起こしたのを目撃したあとで名付けたのであろう。

カンタベリー大聖堂の記録

11 このタパヌイ大爆発に関しては、実は歴史的な記録が残っている。それは、一七八八年六月一日（ユリウス暦、イングランドのカンタベリー大聖堂の年代記編者であったブラザー・ガーベースによって記録されたものである。その記録には、カンタベリー大聖堂の複数の修道士たちが目撃した月の異常な様相変化が記されている。

「この年、洗者聖ヨハネの祝日の前の日曜日、陽が沈み月が姿を現して間もないころ、腰掛けて月を見ていた五、六人の修道士たちは、そこに現れた驚くべき現象を目撃した。

最初それは、角のように尖った両端を持ち、東に傾いていつもと変わらずに美しく輝く新月直後の三日月だったところが、突然、その上方の尖った端が真っ二つに裂け、次の瞬間には、その裂け目から激しい炎がかなりの高さまで吹き上がった。

それと同時に、月全体が、まるで苦悶からその身をくねらせているかのような様相を呈し始めた。実際に目撃し

て私にそのことを伝えた者の言葉をそのまま引用するならば、そのときの月は、まるで傷ついたヘビが苦痛で身を震わしているかのようにあつたという。すぐにその現象はおさまったが、間もなく同じ現象が再び現れた。そしてそれが一二回あるいはそれ以上も繰り返された。上方の端からの炎は、その都度ねじれたような形を呈し、常に不規則な動きをしていたという。

そしてやがて、その現象が完全におさまると、今度はその月全体（端から端まで）が、黒みを帯びた色彩を呈し始めた。

私はこの記録を次のように解釈する。まずタバマイで起こった最初の乗物の爆発によって発生した閃光が月に届き、それがそこで反射されて地球に戻って来たものを、修道士たちが目撃した。つまり、月が鏡の役割を果たしたことになる。同時に、その爆発の衝撃波（電磁波と音波）が地球の大気層に広がり、月が身をくねらしているような現象を作り出した。その現象は、水面下にある停止したコインが、実際には全く動いていないのに、水の動きによってまるで動いているかのように見えることと何ら変わるものではない。

その最初の爆発に続いて、葉巻型の乗物の中にあつた別の乗物群が次々と爆発を繰り返した。そしてそれらの閃光と衝撃波が、その都度先と全く同じ

現象を作り出した。

そしてさらに、それらの爆発によって巻き上げられたホコリの雲が、徐々に大気層に広がり、月の色を黒っぽく変化させたのである。

シベリアのツングースカで大爆発が起きたときにも、その爆発の最中に衝撃波が地球を三周したことが伝えられている。さらに、その爆発によって大気層に舞い上がったホコリの雲の影響で、極めて異常な気象が様々な国において発生したことも伝えられているのである。

ここで、公平を期すために、ブラザー・ガーベースが残した記録に対する異なった解釈も紹介しておきたい。

それは、ニューヨーク州立大学のジャック・B・ハータング博士によってなされたもので、『ジャーナル・オブ・サイエンス』誌の一九七八年二月号掲載の記事として世に出たものである。

その記事の中で彼は、修道士たちが目撃したものは、月の暗い側（訳注Ⅱ裏側の意味かもしれない）に隕石が衝突したことで出現した現象であると説明している。そして彼は、その衝突の際に出来たクレーターが、アポロ計画中に発見されたジョルダン・ブルーノ・クレーターである、とさえ述べている。

しかし彼の解釈には、数々の疑問点が存在し、結果的にはそれが私の宇宙船爆発説の信憑性をより高めること

となっている。

例えば、修道士たちは、「そのときの月はまるでその身をくねらしているかのようにだった」と主張しているのだが、地球からの肉眼で、月全体がそのように見えるほどの現象を起こし得る隕石の落下などまず考えられない。

また、ハータング博士によれば、その隕石は月の暗い側（あるいは裏側）に衝突したということであるが、もしそうだとすれば、地球側にいた修道士たちがその衝突で発生した炎を見ることなど到底不可能だったはずである。

さらに、一つの隕石の落下によって、修道士たちが明らかに目撃した六つあるいはそれ以上の爆発が起こり得ることなどとても信じ難いし、複数の隕石群が次々と落下して、「一つの」クレーターを残した可能性などは考慮にも値しない（訳注Ⅱ最初に「クレーターの内部構造は『四つ』の連続した爆発を示唆している」とし、次に「同じ現象が『一二回あるいはそれ以上』繰り返された」とするガーベースの記録を紹介したあとで、ここでは「修道士たちが目撃した『六つあるいはそれ以上』の爆発……」と述べているが、この数字的な不一致が論理的なものであるのか、あるいは単なる記述ミスによるものなのかは不明）。

ツングースカおよびタバマイ大爆発に関する様々な事実から、私たちはそ

れらが地球外宇宙船群の爆発であつたこととともに、それらの宇宙船群も決して完璧なものではないということを学んだ。ということは、もしかしたら、他にもこの地球上で私たちによる発見を待っている宇宙船の爆発現場が、まだたくさん存在しているかもしれないのである。意欲的にそれらの調査に臨もうとする人々が注目すべき地域を、次にまとめてみた。

- (1) 「火の鳥」などによってもたらされた大炎伝説の伝わっている地域。
- (2) 森林の成育を十分に促す環境にあるにもかかわらず、大きな樹木が成育していない草原様地域。
- (3) チャイナ・ストーンやトリニタイトといった珍しい石が放射状に散在している地域。
- (4) 磁気の変調と関連があると思われる異常な大気現象の出現する地域。
- (5) 金その他の重金属鉱石群が地表付近で発見される地域。
- (6) 子午線（地球の両極と任意の一転を結ぶ大円）と一致する長軸と多重構造を持つ巨大なクレーター。

もしこれらの地域を見つけ出し、そこで地球外宇宙船爆発の事実を突き止めんとする人々にとって、まず最初に必要なことは、圧倒的多数の伝統的無関心派の攻撃に負けない精神力である。

盛況、第12回山形・仙台合同支部大会

五月四日、天童市の中央公民館で第二回目的の山形・仙台合同支部大会が開催された。

当日は天候に恵まれ快晴で四二名もの出席者があり大会始まって以来の人数で遠方から来られた方々もいた。

午後一時より深遠な雰囲気の中で大会が開催され、両支部代表の挨拶の後、いよいよ久保田会長の「アダムスキーの真実性と宇宙哲学の生かし方」と題する講演が始まった。

転生の問題で、今生は宇宙的な旅の一部分であり、「(1)他人を助けるような生き方をする(2)万物と万人を祝福すること(3)人間個人がそれぞれ大宇宙であることを自覚すること」が重要で、特に(1)を実行すれば恐怖心がなくなってくる事などを話された。又、例えば、恐れることなく笑いながらこの世を去ることや、何がこようと恐れないような心境になること等……貴重な例をあげて話された。

次に東京本部役員で超能力者である遠藤昭則氏による超能力開発指導が行なわれ、自分が金色の海につかっているイメージを描くことや、超能力に人格形成をとまったものが本当である話や、オーラ透視練習も行なわれた。休憩後、質疑応答では、各種の質問が出されアダムスキー問題に関する話や、

超能力とカルマとの関係についての興味深い話があり会場は盛り上がった。今回はかつてない程の有意義な素晴らしい支部大会であった。

大会終了後、滝の湯ホテル内にて夕食会が開催された。秋田支部の佐藤春雄氏による素晴らしい民謡や福引もあり、楽しい雰囲気での時間の経過も忘れた。

翌日五日の観光は天候に恵まれ、鳴子狭を通り鬼頭の「かんけつ泉」と、「地獄谷」を散策した。熱湯の噴き出す泉、鳥の鳴き声、新緑萌える谷間等の大自然を満喫した。

御指導頂いた久保田会長、遠藤昭則氏、そして御出席下さった皆様に心よりお礼を申し上げたい。(柴田光明)

天童市での合同支部大会はこれが三度目であるが、いつ来ても穏和な落ち着いた町並みに一種の安堵感を覚える。温泉町にありがちな喧噪や猥雑さが全くないのは不思議なくらい。近代的でスマートな建物がかなり増えている。

全く素晴らしい大会であった。会場の雰囲気はきわめて宇宙的で、誰もが高次元な昇華を目指していることは明確にわかる。私と遠藤君の両方に浴びせられる質問も高度なものばかりで、全員の真摯な態度は一級である。滝の

湯ホテルにおける豪華な夕食会も東京の一流ホテルに劣らぬほどに洗練された楽しいものであった。

翌日の観光は絶好の快晴に恵まれて、こよなき愉悅感に満ちる。新緑萌える山形平野の彼方に白銀の月山と旭連峰が夢のように碧空に浮かぶ。風に揺れる樹々が生きた人間のように見えて仕方がない。遅咲きの桜が美しい。国道一三号線を北上し、鳴子ダム、間欠泉、地獄谷等を巡り、無事終了した。

UFOは見られなかったが、今回の合同支部大会で痛感したのは、人間の「誠実さ」である。これを極端に高めて「宇宙の意識」にたいする謝恩としての誠実な生き方を実践することの重要さを考えさせられた。(久保田八郎)



▶全員記念写真
▲天童駅にて 撮影/田村恒雄



アダムスキー生誕100年記念 日本GAP創立30周年記念 新アダムスキー全集刊行完結記念



1991年度

日本GAP総会

またも総会の季節になりました。今年はアダムスキー生誕100年、日本GAP創立30周年、新アダムスキー全集完結という記念すべき年にあたりますので、日本GAPは総力をあげて盛大な総会を開催致します。テンマークGAP創立者ハンス・ピーターセン氏が来日して大講演を行ないますが、さらに同氏はビデオとスライド多数を持参して珍しいUFO写真を多数公開します。めったにない機会ですから多数ご来場下さい。(非会員の方も入場できます)

日本GAP役員代表 篠 芳 史

日本GAP総会

★日時＝9月22日(日/連休初日) 午後1:00→5:30(開場12:00)

★会場＝銀座ガスホール

東京都中央区銀座7丁目 ☎(03)3573-1871

JR有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き、西武デパートと阪急デパート(通称マリオン)の間の通路を通り抜けて有楽町の大通りへ出て左方の銀座中央通りまで徒歩約6分。三越デパート前の交差点から右折し、銀座中央通り(いわゆる銀座通り)を8丁目の方向へ約250m歩くと左側に銀座ガスホールがあります(ヤマハの左隣)。入口の所にシンボルマークを持った係員がいるのでよく分かります。ビル内の奥へ行き、エレベーターで6階へ上がって下さい。有楽町駅より徒歩約10分。当日、銀座中央通りは歩行者天国となり、自動車は通行禁止になります。が、「東京ホテル浦島」方面の晴海通りは走行可能です。

★会費＝¥4,800。中高生は¥2,500。小学生以下は無料。

(この会費はすべて会場とピーターセン氏に対する経費にあてられます)

★プログラム

- 1:00 司会者挨拶
祝辞 平塚和義(大阪支部代表)
〃 吉開狭手臣(中央アート出版社社長)
- 1:10 挨拶 久保田八郎(日本GAP会長)
- 1:15 講演 ハンス・ピーターセン「アダムスキーとUFO問題の真相」
(通訳・久保田八郎)
- 4:30 休憩
- 4:45 ビデオとスライド映写 ハンス・ピーターセン
- 5:20 挨拶 ダニエル・ロス(『UFO—宇宙からの完全な証拠』の著者。
アメリカGAP会長)
- 5:25 花束贈呈
ピーターセン氏 ロス氏 吉開社長 久保田会長
- 5:30 終了

ご注意

- ◎総会中の写真・ビデオ撮影は可。ただしピーターセン氏の講演と、ビデオ・スライド映写時の写真類一切の著作権は日本GAPに帰属しますので、他の人は印刷物その他に使用することは出来ません。
- ◎都合により翌日の観光は行ないませんが、個人的に都内観光またはディズニーランド行きをご希望の方は下記のワールドセブントラベル社の田中宛にご相談下さい。
- ◎9月の東京月例会は予告通り9月1日に新会場の機械振興会館(東京タワーそば)で開催します。

大 夕 食 会

★日時＝総会終了後、午後6:30→9:00

★会場＝東京ホテル浦島「菊の間」(2)(立食形式。予約が必要です)

東京都中央区晴海(はるみ)2丁目5-23 ☎(03)3533-5331

三越デパート横の銀座4丁目バス停から晴海埠頭行きバスに乗り、晴海3丁目で下車。約10分。料金¥160。タクシー約10分。¥600台。

※最初に全員記念撮影を行ないますので遅れずにお集まり下さい。

★会費＝¥8,700(昼間の総会会費と合わせて大夕食会費をご納入の方には夕食会入場券をお渡ししますから、それを大夕食会受付でお見せ下さい。中高生割引はありません。小学生以下は無料)

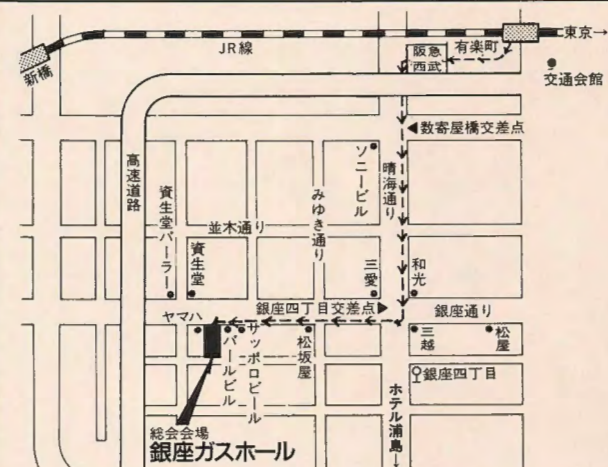
★プログラム

- 6:30 出席者全員記念撮影
- 6:45 司会者と久保田会長挨拶
- 6:50 乾杯(音頭＝ダニエル・ロス氏)
演芸(楽団「スカウトシップ」、佐藤春雄氏の民謡、坂本夫妻のアメリカ民謡、升田裕子さんのソプラノ独唱等プロ級出演者による豪華演奏。飛び入り出演はお断り)

※大夕食会出席者はきちんとした服装でご出席下さい。

※大夕食会終了後、別な料理店で2次会を開催します。

会費は¥2,000～¥3,000程度。



★申込＝大夕食会とホテルは予約が必要です。(日本GAP総会は予約不要。会場で受付)

ハガキにお名前、ご住所、電話番号、「大夕食会出席申込」、「ホテル申込(宿泊日、部屋のタイプを明記)」をご記入の上、9月14日(必着)までに下記へお送り下さい(電話申込不可)。折り返し「予約受付カード」を9月18日までににお送りいたしますので、当日必ずこのカードをご持参の上、日本GAP総会受付(総会に出席されない方は大夕食会受付)にご提示下さい。

〈ホテル〉「東京ホテル浦島」(東京都中央区晴海2丁目5-23 ☎(03)3533-5331) シングル¥7,000 ツイン¥13,000(税・サ・食事別)

〈申込先〉〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F ワールドセブントラベル社 田中 正(宛) ☎(03)3499-2461

Adamski's Claims Were True
by Daniel Ross / Translated by Hachiro Kubota

アダムスキーの主張は正しかった

★ダニエル・ロス／久保田八郎訳

ロス氏はアメリカの新進気鋭のUFO研究者。昭和六二年九月二日、UFOと宇宙哲学の研究集団「日本GAP」総会において、都内有楽町朝日ホールで長時間の講演を行ない聴衆に多大な感銘を与えた。著書に「UFOー宇宙からの完全な証拠」がある。邦訳版は中央アート出版から刊行中。以下は講演全文の収録。

まず最初に、ずっと以前、ジョージ・アダムスキーが次のように語った言葉から始めることに致したいと思います。

「これまでに異星人とのコンタクトやUFO目撃が無数に行なわれたことだろうが、それによって世界が変わることにはならないだろう。しかしただの一機でもよいから地球製の宇宙船が別な惑星に着陸して、その惑星に存在する生命や文明に関する知識を持ち帰るならば、数百万の円盤が集団で地球に着陸するよりも、もっと有益なことになるだろう。しかもそれは地球人に死ぬほどの恐怖を起こさせることもないだろう」

地球からは近隣の惑星群に小型の宇宙船を送り出して、そこに生命が存在することを発見したのですが、その知識は人々に伝えられませんでした。それで今日私はそのような事態になった理由をいくつかあげて、地球の探査機による諸発見の事実についてお話ししたいと思います。

国家が人間の発展を妨げる

地球が始まって以来、近隣の惑星群から人間そのものである宇宙旅行者達が地球へやって来ました。それは大宇宙に関する現実的、科学的、哲学的な知識の面

で地球人が発達するのを手助けするためです。しかもこの知識は、人間同士の間で同胞愛に心から関心があり、地球の諸国家間の平和に対する現実的な夢を持つととする地球人には容易に理解できるものです。

しかし戦後四〇年たつのに、なぜこのことが実現しないのでしょうか。

私達が今認めねばならないのは次の事柄です。つまり、地球上の多くの国家は、宇宙と太陽系に関する現実的、科学的、哲学的な面で地球人が発達するのを全く援助しようとしませんし、また、国家間の友愛の方向へ通じる道を社会に提供しようとしません。実際には多くの政府はこの反対のことをやっています。

私の国に関して要領よく簡単に話しましょう。

レーガン氏が六年前に大統領に就任したとき、氏は即座に地球探査の計画すべてを中止し、NASA（米航空宇宙局）の調査を核兵器、MXミサイル、スターウォーズ防衛システムの方へ変えてしまいました。そして彼は五年計画の二兆ドル軍備開発と増強を始めたのです。

私達は世界中に闘争を高め、敵意の炎を燃え立たせています。地球の善良な人々が世界のあらゆる出来事で混乱し、恐怖してショックを受けていることに気づくには、人はただ新聞を読みさえすればよいでしょう。

しかし、私は政治的、経済的な状況を論じるためにここへ来ているわけではありません。宇宙に関する真相を知ろうとするのを妨げてきたのは、こうした各国政府であるということに注目するのが結局は重要なのです。一九五〇年代と六〇年代にきわめて間近に迫ってきたかに見えた私達の輝かしい知る権利は、今や遠い夢になってしまいました。というのは私達の太陽系の生命の實在は、アメリカとソ連の宇宙開発によって否定され、疑惑視されたからです。

NASAの偽りの情報

アメリカが最初に金星と火星に探査機を送り始めたとき、大衆は宇宙について心から謙虚になり関心を持ち、惑星に関する知識を好奇の目で待ち望んだのでした。人々はUFOの目撃の背後に豊富な証拠があることに気付いていました。

しかし過去一五年間に、そのような希望はすべて失われてしまったのです。これはNASAが近隣の惑星群に予想に反する条件があり、生命が存在し得ない環境があると伝えた上、その惑星群には生命は存在し得ないと公表したからです。

その結果、人々にはもはや宇宙に関心を持たなくなり、UFOに関する報告類にもきわめて懐疑的になりました。



▲朝日ホールで講演中のロス氏。

一方、NASAは現実的な宇宙開発プロジェクトに関係しなくなり、職員は失業しないように国家防衛の契約を結んだ政府癒着の産業界へ転換せしめられたのです。したがって今のところ国の宇宙開発から得られる真相を期待することは不可能です。

しかるに私達はすでに真実を知っています。そして私達はこのいわゆる謎の現象を広く知らしめる立場にあります。

最初私は過去の宇宙開発によって、近隣の惑星である金星と火星に人間が住み、地球のような状態にあるという完全な証拠を与えられたことを立証する書物を出しました。この書は月の裏側に本当の月の環境があることも証明しています。

日本GAPの先駆的な活動

私は過去一〇年間、ジョージ・アダムスキーの宇宙に関する知識について講演し教えてきました。今日、私達が無駄な話をしたくないのなら、そして宇宙か

らの来訪の事実について真面目な人達に疑惑を起こさないようにしなければ、太陽系内の諸発見事に関するある正確な実例を提供するように用意する必要があります。これはUFOに関して私達が言っている事柄の真実を知的な人が認め得るようにするためです。

私達は自分自身を理解するだけでは充分ではありません。積極的に前進して、同胞達にこの重要な情報と宇宙に関する知識とを分かち与える必要があります。

というのは、真実を知りたがっている人や、理解をもたらし親切な言葉を求めている人が無数にいるからです。個人として私達が夢を持つことは良いことです。太陽系内のスペースピープルに関する高貴な真実を他人に伝えるために私達は奉仕しなければなりません。私は今日ここで皆さんがたに次のようにお話ししたいと思っています。皆さんがたは日本で真に活動的なGAPに参加しておられて、まことに幸せであるということです。日本GAPはその広報活動と宇宙から来る人々に関する真相の展開において、この逆境の時代に著しい業績をあげてくれました。アメリカを含むほかの国々はスペースピープルに関する知識と彼らが地球へ来る理由などについて、悲しいことに遅れています。

久保田八郎氏は日本GAPの活動を継続せしめたことによって高く評価される価値があります。これはもと創始者のジョージ・アダムスキーによって設定された精神と理念に従ったものです。久保田氏が今年のはじめにこの年次総会で私に講演をやってくれという書簡を寄せられたとき、私はこの企画の一部になることで大変名誉に感じました。

素晴らしいUFO目撃を体験する

私がこのUFOの分野で出発したときの状況を手短かにお伝えしましょう。一九七四年以前、私は実際には宇宙科学に関心はありませんでした。政府から出される宇宙開発の情報はいずれも、生命存在可能な惑星の環境については否定的でしたから、私には興味がなかったのです。

すると一九七四年八月二〇日、私がニューヨーク州の郷里に短期間滞在しておりました当時、数機の宇宙船(UFO)が夕方出現し、町の上空に静止したのです。その宇宙船群が空中をあちこちの方向に飛びながら美しい色光を放つのを数百名の人が目撃しました。私は地元のラジオ局がレギュラーの番組を中止してその出来事を連続放送したので気が付いたのです。

空中から来たこの物体群は夜の間、しばしば密集して飛びました。これらが知

的に操縦された宇宙船であることに疑問の余地はありません。

この美しいショーは三時間続きましたが、私は地球と彼らのホーム惑星との間に親密な関係があるという絶対的なフリーリングでもって印象づけられたのです。それは平安なフリーリングであり、私にとって地球人は弧立してはいないという確信めいた証拠となったのです。

その後まもなく、私はその問題に関して述べたジョージ・アダムスキーの書物のことを知りました。私は多くの古本屋を探し回って一冊の『空飛ぶ円盤は着陸した』を見つけたのです（訳注Ⅱこれは新アダムスキー全集第一巻『第2惑星からの地球訪問者』第I部に収録）。

その後私は休みなしに読み続けました。翌年は宇宙とUFOや多くの関連分野の数十冊の書物を読みました。また幸運にもアダムスキーの仕事や教えに関する完全な記述を入手できたのです。

私にはまだ多くの学ぶべきことがあることは心得ていましたが、それは心に秘められた探求事となったのです。私の関心は当然のことながらスペースビープル自身によって地球の生命の存在に気付かされてから始まりました。彼らが私の郷里の上空で例の輝くショーを演じたときからです。それ以来、空を見上げる習慣が身につくとともに、まもなく別のUFOの目撃を体験し始めました。

一九七五年六月、私はカリフォルニア州のパロマー山からほど遠からぬ空中に、低空で非常に接近して静止した母船を見たのです。できれば今日あとでこの目撃に関する詳細を説明する時間があればと思いますが、ここで簡単に申しますと、それは偶然の目撃ではなくて、スペースビープルの側で、アダムスキーの情報の背後の真相に関する疑惑を打ち消すために行なわれた無条件の啓示でした。

宇宙科学センターを設立

その当時の私の個人的生活は大抵の人と変わることなく、働いたり、その他もろもろです。しかし私はUFOの分野に関連するあらゆる事柄を追求し続けて、アダムスキーの宇宙関係情報、哲学、宇宙科学のすべてを研究しました。また国の宇宙開発計画で働いている職員が提供する情報なども研究しました。

私はアダムスキーの情報が真実であることを知りましたが、しかし宇宙開発の権威者達はまるで異なった状況を伝えるのです。しかし火星と金星に対するもっと重要な探査機がまだ企画の段階にありましたから、近い将来、政府の公表にも何かが変化するかもしれないと当時はそう思っていたのです。

約三年間の調査研究の後、私はUFOとアダムスキーの宇宙科学についておおよくに講演を始めました。私は公益宇宙科学センターを設立し、公開の場や学校等で活発に活動したのです。この当時、一九七六年にバイキング探査機が火星に着陸しましたし、一九七八年一月にはパイオニアが金星へ続いて到達しました。しかし、当然のことながらNASAから出るいわゆる政府の発見事に何も変化はなかったのです。

しかし私はすでに調子づいており、そのための準備ができていたから、検閲官が漏洩を防止する前に探査機に関する正確な意義深い証拠をつかむことに成功していました。

そのようにして実際に私は講演と討論の公開に際して、より強固な基盤の上に立っていました。なぜなら私は大衆が気付かない惑星探査に関する証拠を持っていたからです。

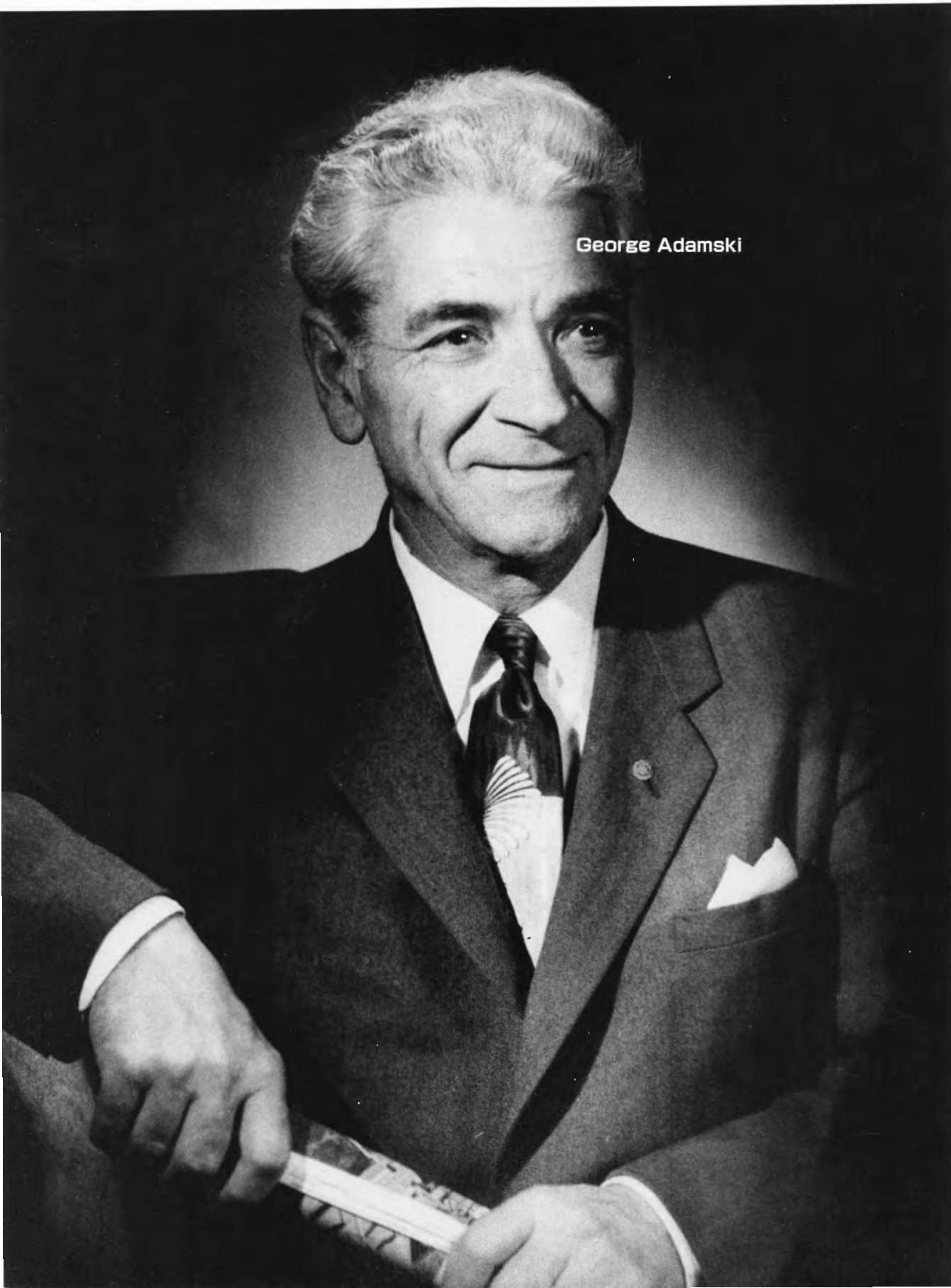
しかし近年は、科学界のひどい歪曲や、政府の流す情報に従った『生命は存在しない』という発見ニュースのために、大衆は混乱し、それらの情報の断片を組み立てることは不可能です。たしかに大衆は謎の断片を発見するのに、どこから始めればよいかわからないのです。NASAによって流される、理解の容易な、惑星に関する声明を受け入れて、UFOの存在証拠をサイエンスフィクションとして無視するほうが大衆にとってははるかに簡単です。

しかし私は一〇年以上もこの仕事をやってきましたので、パズルを組み立てる断片のすべてを持っていました。だけど私はこのUFO問題に関する新しい講演インタビュー、または正式な発表等で人の前に出るたびごとに、再度パズルを徹底的に組み立てようとはしませんでした。特に金星、火星、月などに対する断片を組み立てる必要があるときは、それはかなり大きなパズルとなります。そしてもちろん、話すときには、その時間を宇宙船(UFO)と別な惑星から来る友人達(異星人)にうんと集中させる必要があります。宇宙開発科学による諸発見の事実や数字などについて絶え間なくしゃべってはいけません。

大衆を無視するなかれ

しかしアメリカで近年に起こっている難問は何でしょうか。これはほかの国々でも同じであろうと思います。人は高貴なスペースビープルに関する何かを発表したり、人間の神性について話したり、宇宙の真理を表現するのにきわめて高度な事柄を伝えたりすることはできません。しかし、その話が金星や火星に関

George Adamski



連すると、その途端、聴衆の中の善良な人々はボカンとして宙を見つめます。彼らのハートはそれを信じたいのですけれども、マインド（心）はアメリカの宇宙開発はこれらの惑星がいかなる生命も持たないというのを疑いなく証明したと確信しています。こんなふうにしてアメリカの宇宙開発とその公式発見は大衆に伝えられたのです。

したがって私達はこのUFOの問題全体を大衆の側に釣り合わせる必要があります。人々は日常の仕事や家族の維持、生活を通じての自活等で一生懸命に働きます。彼らはこんなに疑っているかもしれませんが。これは彼らが宇宙に関して真実な物事を全然聞いていないからです。

しかしあらゆる男、女、子供のハートの中には生命や、私達が地球と呼ぶこの小さな小石の上で彼らが歩む人生の旅の目的、人間を誕生させた『父』すなわち『至上なる英知』などについて、もう少し知りたいという欲求があります。しかしこれらのことは他人からの援助なしに自分一人で学ぶことはできません。お互いの接触によって学ぶのですから、奉仕によってのみ可能となるのです。

知識は万人の生得権

この宇宙に関する知識と真相は万人の生まれながらの権利です。しかもそれは一九五二年に米カリフォルニア州デザートセンターでこの地球に与えられました。現在、この真実に対抗する多くの反対派がありますが、それは本質的に弱い対抗です。というのは人間は自分の無知を守ろうとするからにすぎません。

一方、強い意志の持ち主はけっして混乱しません。彼らは自分の決意の推進をけっして中止することなく、あらゆる障害とガラクタを排除します。

そうですね、話を始める前に、私がアメリカから来て今日ここにいますのは、私の国の宇宙開発から端を発する諸惑星の状態に関する誤りを排除するためであるということは、見たところ適切でし、ある意味では公正であると言わせてください。

もし日本が宇宙開発で有力な国であったなら、たぶんあなたがたの一人が日本の宇宙開発の誤りについて、アメリカで今日私に講演をしているかもしれません。いずれにしても、私達はこの問題の真相を把握しつづけると言えるでしょう。

火星の運河を撮影した探査機

宇宙時代が始まる以前でさえ、火星は有名な運河で知られていました。しかしその惑星の楕円軌道のために望遠鏡による確証は、一七七〇年に一度だけ地球と火星が約五六〇〇万キロに最接近したときに可能なのです。その運河は地球の南半球の天文台にある世界最大級の望遠鏡から明確に観測され撮影されるにすぎません。一九五二年、南アフリカのラモント・ハッセル天文台の観測でE・C・スライファード博士によってついに写真が撮られました。直線状のコースに続いて四〇以上の運河が撮影されましたが、運河の複雑な幾何模様のために知的生物によって建設されたことが分かりました。しかし政府はこの研究の背後にいたため、この発見に関する公表を妨げたのです。これはUFOに関する秘密の検閲の一部として必要だったのです。

一九六五年までには、アメリカ政府の宇宙開発機関でNASAと呼ばれる官僚機構が、あらゆる惑星関係の声明を完全に引き受けることになりました。宇宙探査機が最初に火星近辺を飛んだのはその年です。その探査機はマリナー4号と呼ばれましたが、数千マイルの距離で短期間接近通過をなしました。この探査機は火星表面を撮った二枚の写真を電送してきたのですが、NASAは運河は存在しないと公表したのでした。

それは客観的な声明ではなく、隠蔽（いんぺい）工作であって、大衆や科学界が火星について真剣に現実的に考えられないようにするためです。しかし多年を経過した後、NASAのジェット推進研究所の所長ウィリアム・ピカリング博士は、マリナー4号探査機は運河の直線を撮影していたのだと、数名の親しい同僚に洩らしています。

コンピューターで細部は消滅

後に打ち出された各種の探査機による惑星調査が行なわれていた当時、右と同じ証拠がどのようにして隠されたのでしょうか？

私はこの点を自著（「UFO——宇宙からの完全な証拠」）の中で広範囲に説明しました。その分析結果は少々複雑ですから、講演中に充分お話しすることは無理です。簡単に述べますと、その写真はコントラストを最小限にするためにコンピューター画像処理をしていますから、それによって運河の痕跡が見えなくなるのです。

宇宙開発の写真類は実際にはどんなものでしょうか？ 惑星の写真は実際には電波信号であり、それはNASAの巨大な受信用アンテナに送信されます。この

電波信号は多くのドットの形になっていますので、コンピューターによって解読され変換されねばなりません。これは月の写真撮影とは全く異なります。というのは月へは直接人間が行ったのですから、宇宙飛行士がカメラで撮った写真を持ち帰ることができたからです。

火星に対するその後の探査は軌道からの写真を電送することが可能ですから、電波信号による写真類が火星地表上空約一六〇〇キロという非常に高軌道から撮られました。公開された写真は白黒ですが、実際にはグレーです。細部は見られません。もし地球を回る軌道でこれと同じ高さに探査機が置かれたとして、しかも同じような解像力しかないとすれば、その白黒写真の結果、地球上の生命存在の印を示すものは写真中の一パーセントもないでしょう。なんとか認められる人工建造物は中国の万里の長城ぐらいのもので、それは大変長いからです。

火星には水がある

一九七六年、バイキング探査機によってアメリカは最初のカラー写真を受信しました。しかし写真メディアと科学界はそれらを受け取ったようには見えませんでした。なぜならその写真はどこにも発表されなかったからです。しかし私はその写真を持っています。それで今日はスライドでそれをお見せします。

この数枚の写真は、NASAがコンピュータ処理によってあらゆるものを変え始める前に一時的に入手したものです。NASAは公開する前に、誇張された配色によってバイキングの写真を偽って美麗にしたのです。その後写真はいくつか開きましたが、不気味なピンク色の空と、赤とオレンジの混ざったような地面を示しています。これは人間居住を信じる人達の考えを変えさせるためです。

驚くべきことですけれども、NASAは最初に火星の環境についてかなり明確な細部を伝えたのです。この細部はオーソドックスな学説ほどに強調されたものではありません。しかし人はその明確な証拠を吟味するには、きわめて関心の強い研究者になる必要があるでしょう。

NASAはバイキングの着陸地点には毎朝地上に霧があったと言っています。軌道から撮った写真ではその霧や霜を示しており、北方地帯では並んだクレターの窪地を示しています。はっきりと分かったのは、北極の極冠は凍った水であり、厚さは八〇〇メートルであるということです。ふわふわした雲が火星上空に浮かんているのが撮影されており、地上に明瞭な影を投げかけています。

NASAのスポークスマンが新聞記者団に語ったところによると、火星の大気



▲イタリアの天文学者スキアパレリが1877年に望遠鏡で観測してスケッチした火星の表面。彼は長いスジ模様をカナリ(運河)と呼んだので火星人の存在をめぐって学会で大論争が起こった。

圧は地表に水を存在させるほどはあるということです。ただし実際の気圧は全然公開されていません。

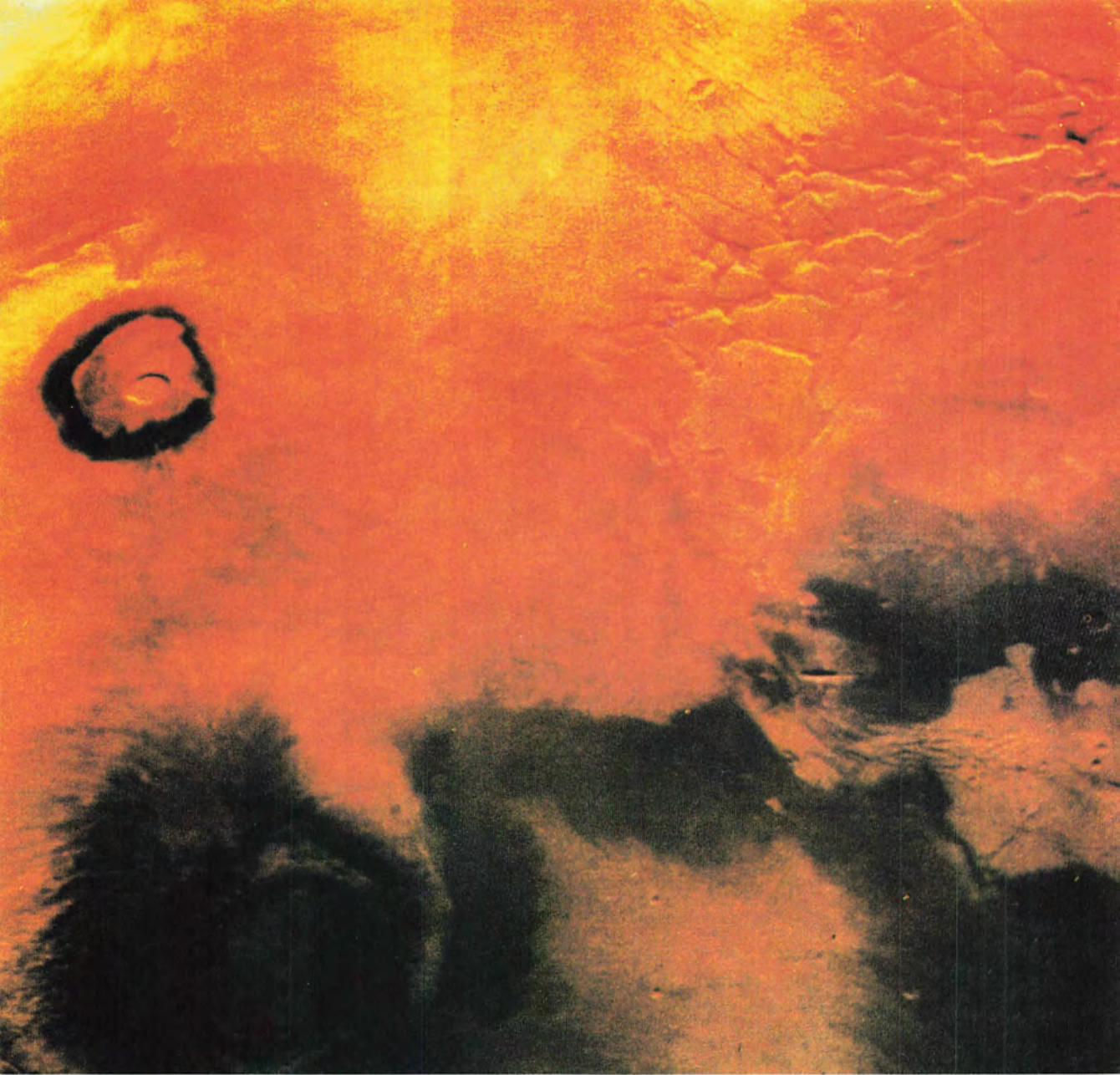
火星の地中の微生物

もしあなたがたが以上の報告のすべてを調べて、これらを自分で考えてみたのなら、それがよかったです。NASAはそれらをあなたがたにやらせたかったのです。しかしNASAはこうした事柄をおおやけに声明しませんでした。NASAはオーソドックスな態度を広めようとしたにすぎません。そして科学者に古い学説を主張させたのです。そのことは私達の学校の教科書がまだ三〇年も時代遅れである理由を示しています。

たぶんあなたがたは着陸した探査機によって行なわれた土のテストについて何かを聞かれたことと思います。また、三回にわたる試験のすべてが、地中に生物が存在することを示す有力な示唆を与えたのをご存知ですか。

オーソドックスな科学者は大変驚いたので、四回目の実験を行なうことを主張したのです。しかしそれは生命探知実験として応用されることはありませんでした。予想されたように、そのテストは有利な証拠を与えるような感度を備えていなかったのです。それでオーソドックスな科学者は火星に関する自分達の古い学説を無傷のまま保つことにしたのです。

NASAのスポークスマンは、土の実験は地中の生命を肯定も否定もしなかった、それはいまだに公然たる疑問であると、声明していました。しかしその声明は無視されました。正規の科学界は火星に生命は存在しないという偏見に満ちた意見を声を大にして叫んでいたからです。



●火星の地表

タルシス高原地帯のパヴォニス山（左）とアルシア山（左下の黒い部分）が見える。右上には複雑な大峽谷ノクティス・ラビリントゥスが展開している。バイキング2号撮影。ロス氏によれば、地表が赤く見えるのは火星が赤い惑星であることを一般人に印象づけるためにNASAが手を加えたからだという。

大衆は科学者よりも常識豊か

私達が地球で抱えているのは心理学的な難問です。人間のエゴは地球以外の惑星の極微の生命すらも認めたくはないのです。人間は自分自身の心が宇宙で最も知的なものであると考えているのです。

たぶん、NASAの高官達が少しは公平なのかもしれません。彼らはバイキング探査機がもたらした明白な証拠を少し洩らしたのですが、それが受け入れられなくて無視されたものですから、NASAはオーソドックスな態度を広めたのです。たぶん権威者達も、それこそ大衆が認め得るすべてだと結論づけたことでしょう。

しかし、私は同意しません。私はいわばコインの両側にいます。もっと前のことですが、私は原子力潜水艦に乗り組んで原子物理学と原子炉操作で働いていました。それで教育や仕事において、私は科学者、技術者、エンジニア達と接触していました。この数年間、私はUFO問題と宇宙空間の生命に関して、もっと大衆と接触しています。そして多くの点で大衆は科学者よりも常識を持っているということに気づいています。

プロの科学者は、ときとしてある種の知的な一次元の世界に自分を閉じ込めています。しかし私はもっと重要な

理由でNASAの立場に同意しません。人々はこの核兵器の建造と破壊的な戦争と敵意に対する地球人の心ない支持を、全然中止しようとはしていません。このことは一般の人々が宇宙に対する真実を聞かされ、人道主義的な理想と同胞愛にそって教育されるまでは続くでしょう。

私達はみな、きわめて重要な仕事をして、重要な時代に生きています。私達は、どこかの自称UFO研究グループのようにゲームをやっているのではありません。この文明の未来について語っているのです。

月には大気がある

月へ行ってみることにしましょう。一五年前の最後のアポロ飛行以来、ほとんどの人が月に思いを寄せていません。皆様がたのほとんどはジョージ・アダムスキの著書『驚異の宇宙船内部』(新アダムスキ全集第一巻に収録)で、月の環境に関するアダムスキの記述をよくご存知でしょう。私は望遠鏡による観測史、科学的な記録、NASAのアポロ飛行などから、その記述が正しいことを証明しています。実際、それはその書物の私の研究で最もエキサイティングな部分でした。そしてたぶん最も教育的な部分でもありました。月に関する証拠をカバーする七五ページもの記述があるからです。

完全な状況を充分に話すには数時間を要するでしょう。それは月の地図、チャート、望遠鏡による記録、科学記事、アポロによる証拠等を準備した教室の形にする必要があります。ですから今日はここでそれをやりません。私は記録された証拠類で証明されている事柄を要約しましょう。

- (1) 月には豊富な大気がある。その地表における気圧は一平方メートルにつき六ポンドである。
- (2) 月は学説で言われてきたよりもはるかに強い引力を持つ。地球のその五〇パーセント以上の値がある。
- (3) 月には水と植物がある。
- (4) 常に地球に面している側と、月の周囲軌道でしか見えない裏側とのあいだには、環境の大きな変化がある。
- (5) 月はスペーススプーブルによって占有されている。正面の側には人工的な基地があり、裏側にはもっと自然のままの基地がある。

それで今日ここでは各種の状態の一つだけをお話ししましょう。それは月の大気です。

月の大気存在の証拠をあげれば、月に対する人間の概念のすべてが即座に変わります。それは、人間が宇宙船で地球の大気を脱出して月の近くに接近するまでは見ることはできません。しかもそれは確かに発生したことなのです。

アポロ8号は地球の引力圏を離れて、私達の仲間の世界である月への旅を行なった最初の有人宇宙船でした。それでNASAの公式文書『アポロ8号——月を回る人間』の中には月の大気を示すNASAの写真が三点あります。

その誤り、すなわち見落としをやったあと、NASAはそのような写真をもはや公開しなくなりました。その後の月飛行ではカメラにフィルターを付けて塔載されました。月の空の可視スペクトルを隠すためです。だからアポロ着陸の現地写真では空が黒く見えたのです。当局は大衆に、月に大気がないと思わせたいのです。

月面で旗が揺れる

しかしその後アポロ14号で、宇宙飛行士が着陸地点に小さな旗竿を立てたあと、一陣の風が吹いて旗がめくれ上がり揺れました。NASAにとって具合の悪いことは、テレビカメラが作動しており、視聴者には旗が揺れるのが見えたのです。そこで一人の宇宙飛行士がそれを見てすぐに走り寄り、カメラをさえたのです。

ところが、公式記録ではいまだに月の環境には大気は存在しないと述べてあります。つまり真空だということです。真実の証拠は完全に異なっています。アポロ12号のとき、逆噴射ロケットによって吹き上げられた塵のために、落ち着くまでにかなりの時間がかかりました。もし真空だとすれば、すべての塵は数秒間で落下するはずです。

あなたがたはコーヒー豆の真空パックされたアルミニウムの袋を買ったことがありますか。それは煉瓦のように固いのですが、その理由はコーヒー豆を分離させる空気の分子がないからです。あなたがたが袋を開くと、空気が勢いよく入りますから、袋をどのような形にでもねじ曲げることができます。そしてコーヒー豆はもう固くパックされた状態ではありません。

お分かりでしょう。月が真空であつたとすれば、宇宙飛行士は足跡を残さないでしょう。なぜなら空気の分子がなければ、土は非常に固くパックされて、岩盤

のように硬くなるからです。

私は自分の著書の中で、月の大気のもっと豊富な証拠を持ち出しました。それをお読みになれば全体の状況が変わり始めている様子がわかりになります。穏和な温度と気候、その他です。さらに月に水と植物があるという完全な証拠も出ています。月世界は地球以外の天体に存在する生命の真実を解く最大のカギです。(ここしばらくスライドを映写)

金星人が長寿を保つ理由

最後に金星についてお話ししましょう。金星は私達の姉妹惑星で、一九五二年一月二〇日にこの地球へ来たオーソンの惑星です。私達が空中に見る宇宙船(円盤や大母船)のほとんどは金星の宇宙船です。

金星地表の状態はきわめて地球に似ています。しかし、雲が大気を包んでいますから——それが実際の天空なのですが——、そのために金星人はその惑星で長い寿命を保つのです。

さて、科学的な記録は非常に複雑です。これは宇宙科学の学者がそのようにしてきたからにすぎません。公式記録や公開された宇宙関係の諸発見を分析するためには、科学的な知識のあらゆる部分が応用されねばなりません。物理学、化学、電波天文学、天体物理学など——。そしてNASAの公表から真実を正確に引き出すには、宇宙科学研究に関係のあるものは何でも応用する必要があります。したがって私の書に述べてある事柄は少々複雑なので、ここではお話しできません。しかし私は科学的な分析から最終的な状況をお伝えしたいと思います。金星の上層大気は天空です。この雲の形成は大気のいかなる位置でも固いじゅうたんのようになっているではありません。その天空は可視光として現れている太陽の電磁スペクトルを遮断しませんが、それよりもっと有害な宇宙線を遮断します(そのため金星人は驚くべき長寿を保つのです)。

表面に最も近いのは生命を維持している対流圏で、地球の対流圏に発見されるのと同じ酸素と窒素を含んでいます。

この領域においては普通の気候という雲と風の活動が活発であり、地球に似た気候を作り出しています。地表の温度と気圧は地球のそれと同じで、地表には海があり、多くの湖もあります。自転周期は地球のそれと似ており、一日二六時間です。地球に住んでいる人間なら、だれでも金星へ行って宇宙船から降りることができるでしょう。この二つの惑星の状態はそれほどまでに類似しているのです。

▶月の裏側のツィオルコフスキー・クレター。よく「湖」と呼ばれる。アポロ13号が撮影。

アダムスキーの言葉は不滅

そろそろ終わりに近づいてきました。私達はNASAに対してそれにふさわしい名譽を与えてよいでしょう。たぶん彼らが出したパズルの断片のすべてを私達が組み合わせたのを見たら、NASAは言うでしょう。「あなたがたが、いつ、多くの事柄に気付くかと思っていました」と。

ここにいる私達は皆、ジョージ・アダムスキーの言葉が不滅であることを知っています。というのは、彼の言葉はその太陽系と宇宙の真実をあらわしているからです。



Letters

ユーコン広場



素晴らしかった天童市の大会

東京 山本益巳

山形・仙台合同支部大会は素晴らしかったですね。先生の講演はジーンと腹にしみわたりました。その内容を私自身、日常の中で倦まずたゆまず生かしていきたいと思っています。就寝前の「私は絶対に完全、私は絶対に健康」という反復思念も大いに同意します。私も以前に東京月例会でお話しましたが、就寝前に宇宙の意識様、今日も一日有難うございました。また明日もお願い致します」と思念するようにしているのです。簡単なことですが、人生は積み重ねです。自分自身を急速に変えることは難しいけれど、コツコツと積み重ねてゆけば、いつかは高い頂上に登頂できると思います。他人に期待せずに地道に自分と対峙して行く必要があります。

歓喜に満ちた天童市の日

山形県 船山栄子

五月四日五日の山形・仙台合同支部大会に参加させて頂き、ありがとうございました。狭い心の世界が少しづつ広い所へと向かって行くのが信じられるのは、アダムスキー氏の世界、GAPの世界に触れることができたからだと思います。

イエスの「あなたの敵を愛しなさい」の言葉に初めて出会ったとき、この世と全く違った世界の思想を感じ

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

じ、素晴らしい「愛」の深さを持った人だと思いました。今人間は転生を繰り返して、イエスは金星から転生してこられた人であり、アダムスキーがイエスの弟子の一人であったという因果関係を知ることができたとは何という喜びでしょう。

他人を助けるような生き方をすることが重要であるという御講演でのお話は、深く肝に銘じなければと思っております。全く生き方が曖昧で分からなかった私も、他の惑星での生き方をなんとか自分に取り入れてやってゆかねばと希望に燃えることができました。

新アダムスキー全集を読んだり、機関誌ユーコンを読んだり新たな感銘を受けます。

花や植物を愛し、心で語りかけるというナイーブな世界にとても引かれます。また、地球人としてナイーブなだけでは渡り歩くことができないことをつくづく感じます。カーツと意識の目を開いて、強い精神力を培ってゆくことが是非でも必要だと思っております。

求め続けてきた私の内部と共鳴する現実が存在するGAP。大会に参加し、夕食会、観光と、まだよく分からない者ですが、故郷に帰ってみて逆に懐かしい思いで振り返っております。

他人を助ける生き方、奉仕の生き方、この素晴らしい生き方をときどき忘れそうになるので、空を見上げながら心を満たし、するどく強い気持を加えつつ頑張ろうと思っております。

UFOを目撃してから自分が変化

横浜市 山田智子

私はUFOについては二三年前に見たような「気がする」という程度だったのですが、ユーコン誌のバックナンバーが届いた日の夕方、六時半頃、台所で夕食の仕度をしながらなにげなく窓をあけて、雲一つない夕焼け空を見ますと、変な雲のようなものがあるのを発見したのです。それは銀白色で、フチがオレンジ色の細長い雲のような形で、まるで飛行機が落ちて来るようにゆっくりと落下していました。

私はその物体が家の陰に隠れてしまふのではと思い、行く先を見届けようとして五秒ぐらいで二階に駆け上がった同じ方角を見たのですが、もうそこには雲一つない夕焼け空があるだけでした。

でも私はそのときの感じを覚えています。そしてそのときから自分の中身が変化したのが分かります。何か温かいフイリングがずっと続いているのです。現在私は職場のある人に誤解され、とても困っているのですが、そんなことも容易にクリアできそうですし、その人に愛の想念を送り続ければ、必ず誤解が解けると信じています。

GAPの会員になったばかりの私ですが、真の宇宙文明を築いてゆくことの重要性を日々痛感しています。

そしてGAPの活動について微力ながらも全力を尽くしたいと願うものです。

病気は存在しない

三重県 松口幸之助

本日は久保田先生のエッセー「意識の声」五月号をお送り頂きまして誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

私は今日午後からソフトボールの試合をひさしぶりにしました。守備はレフトでピッチャーもしまして二番を打ちました。体を動かして少し汗をかきました。気持ちのよい日でした。

私は自分の病気というものの、自分の持っている信念というものがだんだんと客観的に分かってきました。ですね。本当は病気とは存在しないのだというフイリングといえます。か、気が沈んでいても少しくさ宇宙のフイリングが高まってくる。今の私には高次元な宇宙的フイリングがときどき高まってくるというのは助けといえますが、素晴らしいことだと思います。私の体調は大きな波はなくなりました。どんなことがあっても私の病気は治るのです。少々なことではへこたれないぞという信念といえますか、確信があります。私は光り輝いて生きているのだ」というイメージをときどき起こすようにしています。

私にはたいしたカルマはありませんが、スペースビープルはGAP会員の一人一人のカルマをよく知っていると思います。私は自己の弱さをなんとか克服して光り輝いて生きてゆこうと思うこの頃です。本日はど

うもありがとうございます。

目標の達成に前進あるのみ

東京 常盤ゆかり

ユーコン一三号を有難く拝見させて頂きました。新しい記事を読むたびに、皆さんは着実に進歩しているらしやるのだからと思ひ、自分の怠惰を痛感せざるを得ません。

以前、職業のことで何をすべきか分らないので、どなたかにみてもらいたいという内容の手紙を書きましたときに、先生からは「それは自分に分らないものだ」という主旨のお返事を、秋山さんに透視して頂いたチープからは私の悪い習慣（何かをもう少しで完成させる直前にやめてしまうこと）について教えて頂きました。

今思い返してみると、何をすべきかが分らなかつたわけではなく、したいことがあるのに必死になって逃げ道を探しているうちに迷ってしまったのだと思います。その後、自分の目標とする仕事に多少は関係のある仕事に、気がついたら就いていました。

目標を達成するには、一瞬やめようかと思ってしまうほどのべきことが沢山ありますので、ときどき弱気になってしまっていますが、しかし避けてしまったら後悔の念で苦しむばかりだと思ひます。日本GAPのますますの発展と先生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

五月の東京月例会ではすばらしいご講義をお聞かせ下さり、誠にありがとうございました。今回は先生のお言葉が私の中で響いているという感じが、エネルギーに満ちています。

本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛で送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.113

平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
オーラ透視力開発法——遠藤昭則
壁面の奇跡——永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
私のUFO目撃体験——平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

No.112

平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだったノ——ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)——G.アダムスキー
〈写真〉金星の不思議なスジ模様——
青森県に頻発するUFO出現事件——
UFO-宇宙からの完全な証拠⑭——ダニエル・ロス

No.111

平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態——G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレパシクな不思議人生——郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑬——ダニエル・ロス

No.110

平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井 裕
アメリカGAP発足ノ(完)——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑫——ダニエル・ロス

No.109

平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続——G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現ノ——
デザートセンター円盤着陸事件②——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足ノ——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪——ダニエル・ロス

No.108

平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山真人
潜在意識としてのDNA——N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美美子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
ロイヤ、来て助けてくれノ——久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.107

平成元年10月25日発行 ¥900

テレパシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はベルーでUFOを見た——富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)——向井 裕
超能力開発の基礎レッスン——斉藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106

平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②——向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
ヒーリングとテレパシー——遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察——N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨——ダニエル・ロス

No.105

平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件——久保田八郎/篠芳史/坂本真一・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①——向井 裕
過去生透視法とその実例②——遠藤昭則
輝く星々の彼方へ——斉藤庄一
長野県に巨大UFO出現!——博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧——ダニエル・ロス

No.104

平成元年1月25日発行 ¥900

UFO問題と世界の運命——久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助——アリス・ボマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見ノ——安藤澄雄/久保田八郎
過去生透視法とその実例——遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦——ダニエル・ロス
GAP活動の原理——ダニエル・ロス

No.103

昭和63年10月25日発行 ¥900

アダムスキーの体験は真実だったノ——アリス・ボマロイ
我らの惑星に愛と希望を——久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現——伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め——富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥——ダニエル・ロス

No.102

昭和63年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私——後藤泰二
仙台市上空にUFO長時間出現——遠藤昭則
富士山周辺でテレパシーに応えるUFO群——長沼宏志
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす——田中 正
良い想念であなたの環境は良くなる——
UFO-宇宙からの完全な証拠⑤——ダニエル・ロス

No.101

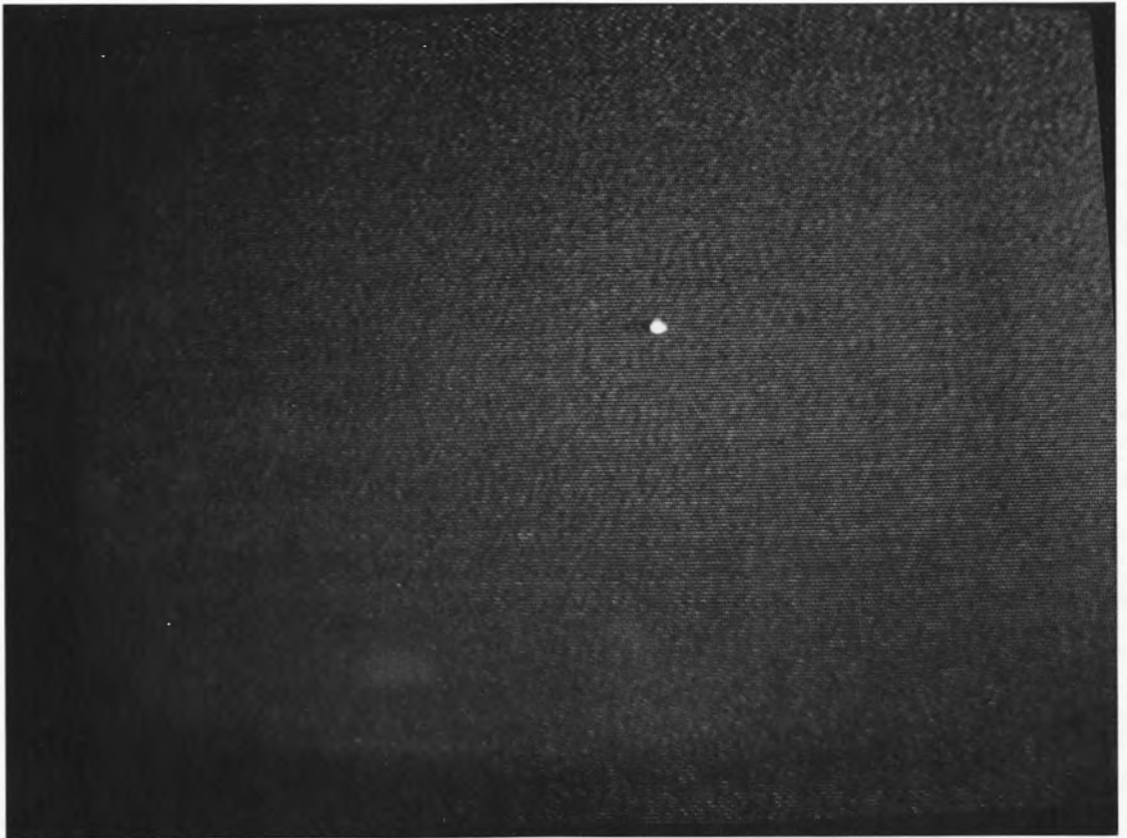
昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙的家族のUFO目撃の日々——坂本茂子
精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー
円盤の窓から手を振る「異星人」——斉藤庄一
長野県に出現したUFOの大量——博田文喜
頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.100

昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎
富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則
私はこうして超能力を開発した——坂本正廣
アメリカの不思議な土地——水野和彦
UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス



▲本年5月25日、全国ネットワーク・テレパシーコールUFO観測会で、8時6分頃に出
現したUFOを、伊東芳和氏（東京）が見事8mmビデオカメラでキャッチした。

英文版「UFO contactee」No.7

— 7月末刊行予定 —

B5/12頁/コート紙使用/
¥500 (送料¥175/3冊まで¥250)

世界のUFO研究会で注目の的になっている日本GAP発行英文版は、各国UFO研究家や団体が絶賛。UFO問題は国境を越えた宇宙的な要素を帯びていますから、英文による国際版が情報伝達に重要。No.7は春川正一氏の連載記事「A Young Japanese Man Visits Other Planets」、久保田会長が昨年10月、デンマークで行なった講演全文、アダムスキーの質疑応答、その他を写真と共に掲載。久保田八郎、その他が執筆の記事を米人学者が校閲。流麗な英文は英語学習用にも最適です。ご注文は振替が低額切手でどうぞ。

—日本GAP—

編集後記

★五月二五日のUFO観測会は一応成功だったと言えます。不発に終わった支部もあるようですが、これは不運にも大体に悪天候が原因です。雨天や曇りの日にはUFOが見られないのが普通です。

★「北海道上空の物凄い光景」は文章で表現するのが困難なほどに壮絶きわまりない現象でした。スペースビールの存在をこれほどに痛感させる出来事はありません。

★「奇跡を起こす想念の力」も人間に内在する偉大な力をあらためて実感させます。気高く生きる二人の少女の実態を報じる記事でおわりのとおり、こうした理想主義的なビジョンを持つのが本誌の特徴です。

★前号まで連載したハンス・ピーターセン氏の談話は都合により打ち切ります。次号には総会における同氏の講演全文を掲載しますのでご期待下さい。

★東京月例会は九月より会場を東京タワーのそばの機械振興会館に変更します。本号29頁の案内を参照の上、お間違いなきようご注意ください。

★九月二日には盛大に総会を開催致します。37頁の予告をご覧の上、多数の方々のご来場をお待ちしています。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの不得手な方は面談でも結構です。

★本誌は多数のボランティアによる全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

(K)

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
UFO contactee 114号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒130東京都江戸川区本一色1-12-151
電話 03-3651-0958
振替 東京4135912
一九九一年七月二五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円・送料27円)
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

——全面改訂・改訳 全10巻——

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 ①104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三度来してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊！

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバシル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

冠大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2400円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

※上記の各書籍は同じ価格で日本GAPでも扱います。代金後払いにも応じますからハガキで日本GAP宛ご注文下さい。久保田八郎署名捺印入りの本をお送りします。

A テレパシー能力開発用

ESPカード

このカードはアメリカのデューク大学で研究開発された超能力開発練習用として最適のものです。5種類の図形カードが各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。ポケットに入れて携帯に便利。使用説明書付き。

¥900 送料¥120(2~5個¥175)



F 日本GAP能力増進テープ

毎月開催される日本GAP東京月例研究会セミナーから、久保田会長の解説講義と遠藤講師のテレパシー開発指導などをカセットテープに録音したもの。絶大な信念と勇気がわき起こり、宇宙的カルマ形成に役立ちます。

テープ① 1991年度は久保田会長による新アダムスキー全集第2巻『超能力開発法』の解説講義。近況報告。収録100分前後。
テープ② 遠藤講師のテレパシー開発指導。質疑応答。収録90分前後。



①¥1300 送料¥175
②¥1000 送料¥175

①②共ご注文の場合は送料¥250
★上記カセットテープの注文に限り下記へお願いします。(〇年〇月分と明記下さい) 前年迄の編集内容と異なります。

日本GAPでは取扱いません

◆申込先◆

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 ☎03-3653-9387
振替/東京0-162644

G 日本GAPビデオ



今年から日本GAPのイベントをビデオにして頒布することになりました。各巻VHS、画像は鮮明です。

『東京月例会セミナー』¥4000

久保田会長解説講義と遠藤講師の超能力開発指導。全1巻120分。(毎月内容が変わります)

『1990年度日本GAP総会』上下各¥3000

(上) 原永倉氏の講演

(下) 久保田八郎会長の講演

『デンマークGAP大会』上下各¥3000

(上) 久保田八郎会長の講演(英語)、その他。

(英文テキスト、日本語訳文付き)

(下) デンマーク探訪記

※送料=1本¥360・2本¥510。

日本GAPでは取扱いません

◆申込先◆

〒162 東京都新宿区富久町36-18
喜久マンション103
伊東芳和 ☎03-3351-9526
振替/東京4-13811

F・G以外の品のご注文方法

住所・氏名・電話番号・商品番号・商品名・種類・個数等を明記の上、郵便振替または現金書留で日本GAP宛お申し込み下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。品物を

B

① オールソン肖像写真



② シンボルマーク



①は新アダムスキー全集『第2惑星からの地球訪問者』に出てくる金星人オールソンの肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチに基づいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵のキャビネ判写真。10.5cm×17cm

②は金星のシンボルマーク。中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。手札判。9.3cm×8.8cm

①¥1000 送料¥120

②¥500 送料¥62

①②共ご注文の場合は送料¥120

C



……GAP特製…… テレホンカード

すでに3種類のテレホンカードを出した日本GAPが放つ第4弾。

アダムスキーの肖像を入れた上品なデザインのカード。

①②③は品切れ絶版。

1枚¥1500

送料10枚まで¥62

D



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザインのバッジ。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射して輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジどめ式。女性用は安全ピン式。ご注文のさいは、いずれかを明記して下さい。

1個¥2000

送料4個まで¥120

実物径17mm。

E

〈新製品〉GAPキーホルダー

多数の方の要望に応じて製作したGAPオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲をWITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)の金文字が取り巻く優美なデザイン。常時携帯すれば宇宙的フ



イーリングを失いせん。メダル部分は径32mm、全長90mm。

1個¥1900

送料¥120

お送りするときに専用振替用紙を同封しておきますから現品致儀後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替送金は当方へ届くまでに約1週間かかります。(この欄の商品はすべて消費税は無関係です)

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP ☎03-3651-0958 振替・東京4-35912

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※8月までは12:30より開始。 ※7月=21日(第3日曜日) 8月からは第1日曜日。	上野公園内「東京文化会館」4F 大会議室。 ☎03-3828-2111。JR上野駅「公園口」改札口の真向かい。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※9月より会場を変更。詳細は29頁参照。 港区芝公園「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。	会 場 費 ¥1000 セミナー 受 講 料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による体験講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=「超能力開発法」 3:10→5:00 遠藤講師によるテレパシー開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※7月のみ会場をJR新潟駅前の「新潟ステーションホテル」会議室に変更。 ※9月は第5日曜日の29日に変更。	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」 ☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※今年6月より会場を変更。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7〜10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※9月のみ第2日曜日の8日に変更。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
青森支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	具市川市栄巣野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=比嘉政広 ☎09893-3-2889	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※9月は西伊豆で移動月例会を開催。詳細は右の連絡先へ照会のこと。 ※10月は第2日曜日の13日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎048-866-7048	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR 高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上

マインドパワー・潜在能力を開発

「マインドパワーの開発」「充実した人生」これらを簡単に現実のものにしてくれる驚くべきテープがアメリカからやってきました。アメリカの著名な心理学者S・ハルバーン博士の開発した「サブリミナル・プログラム」がそれ。なにせ美しいBGM音楽を聴き流しているだけで確実な効果があるというのですから、これを利用しない手はありません。



あのハルバーン博士があなたのために制作

「マインドパワーの開発」「充実した人生」……これらを現実のものにしたい。これはどんな人でも多少少なからず持っている共通の願望でしょう。ところがこの事をいとも簡単に実現してしまうテープがアメリカからやってきたのです。それがアメリカでは知らない人はいない、有名な心理学者ハルバーン・ハルバーン博士の開発した「サブリミナル・プログラム」です。米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異的なペースでテープを聴き、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆつりとくつろいでくる静かな音楽だけです。

(日本の曲でいえば、喜多郎の音楽にイメージが似ています。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある)しかし、実はこの音楽に、ハルバーン博士が開発した他に誰のでもない高度な音響テクノロジーを駆使してある。心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえない周波数に変換されて入っているのです。(音響的に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセーの波長を潜在脳へ運び、植えつけてしまう)この音楽に交って入っている「耳に聴こえない心理学的メッセー」が、ただテープの音楽を聴いているだけで、潜在能力が開発される。充実した人生へ歩み始める。という現象を引き起こす秘密なのです。『本をじっくりと読むに熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまう』このアメリカの奇蹟という科学的プログラムがついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。

商品お申込みの方へ案内書請求の方に試聴用テープを無料進呈!

1 マインドパワー・潜在能力を開発

あなたの心と体をゆつたりともみほぐし、不安緊張や心身の疲れを取り除いてくれる神秘的なα波BGM音楽に、あなたの意識を拡大し、精神力「マインドパワー」や秘められた潜在能力を自然に開発する「サブリミナル・メッセー」を同調させたのが、このMDシリーズです。会社から帰ってその日の疲れを癒したい時、日常生活のわずらわしさから解放された時、静かなBGM音楽を流して気分転換をしたい時……



MDシリーズのお届けするテーマの内容は、●完全なる安心と意識の拡大●大いなる自信と出だし●無限大の心●宇宙意識の目撃●人間性・人格の向上●愛と慈悲のエネルギー●精神力の強化●偉大な潜在能力の開発●第六感の開発●自由自在な思考力●無限の知恵の獲得(このシリーズのサブリミナルテープのベース音楽には、ハルバーン博士の友人である、ヤン・ス・の宇宙音楽をはじめ素晴らしい瞑想音楽が使われています)

●スティーヴン・ハルバーン博士のプロフィール●

音楽・音・言葉の潜在意識の作用の研究で世界的にその名を知られる心理学者博士。学者であると同時に、瞑想音楽の神様としても米国はもとろフロリダ州にその名を知られ、世界的なファンを数多く持っている。博士の音楽は鑑賞用の音楽としても高く評価されているが、博士の長年の研究でエッセンスが凝縮した音楽の、その効果も医学・心理学・教育関係者の間で高い評価を受けている。いろいろな分野で博士の音楽を取り入れている。カイザー・バーマン・病院をはじめ全米一流の医療機関では、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え素晴らしい効果を上げている。



2 現状を打破し充実した人生を

「今のままではいけない!」「もっと充実した人生を送るために何かをしなくては……」そんな心の中は感じているだけだけれど、現状を打破する第一歩を踏み出すキッカケをつかめずに毎日情性に引きずられて何となく過してしまっているという方に適切なのがHLシリーズです。現状から抜け出し新しい人生に向けて第一歩を踏み出す動機づけと、毎日がワクワクするような胸のときめきを覚える充実した人生を送るために必要な能力や行動力を自然に身につけられるよう、魂にひびきわたる美しい音楽にまぎれたサブリミナル・メッセーが、あなたの潜在意識にやさしく語りかけます。就業前や、ちょっとBGM音楽でも流そうかな?と思った時にこのHLシリーズを聴いてBGM音楽としてお楽しみ下さい。



HLシリーズのお届けするテーマの内容は、●現状を打破する●目標計画づくりの習慣●情性からの脱却●最高の人生を考える●自分の可能性を試す●すぐ実行する習慣●必要な読書・勉強の実行●毎日ベストを尽くす●フロエーションをめぐらす●向上意欲の強化●充実した人生を生きて●大いなる未来へはばたく(このシリーズにはビノ・ス・プログラムは付いていません。各テープともA面B面を通してオートリパースでお使いになれます)※このHLシリーズには、充実した人生計画シート、充実人生コンセプトシートが付いています。

今なら無料試聴でき特別価格で購入できます

●MDシリーズ ●HLシリーズは一年間の会員制の頒布会方式でお届けします。お申込み後、毎月各テーマ別のテープを巻いていき、毎月お支払いは毎月300円です。第一回目および送料(送料300円)。第一回目および送料以降もテープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。又、途中退会も自由です。●今回ご紹介したシリーズ以外にも、高速学習セット、魅力的な性格シリーズ等のシリーズがございます。詳しい案内書をご希望の方は、お電話あるいはおハガキで案内書希望とお申込み下さい。(受付24時間 日・祝日も受付中)



今お申込みの方へ案内書請求の方に先着500名 サブリミナルテープ1本を無料プレゼント中!!

今、お申込みの方へ案内書請求の方に先着500名、ハルバーン博士制作の心身をつらつら、大脳の活性化にもとよい、アメリカで人気のサブリミナルテープをプレゼントしています。

〒100 東京都港区南青山1-26-4
アイカライティ社 314係
電話 03(347)9556
電話 03(347)9556
(受付24時間 日・祝日も受付中)

先着500名様限り、下記までお電話・おハガキで!!

超高速英語学習

英会話
テープ
(C-30)

無料進呈

サジェストロニクス・ラーニング



●BGM感覚で、聴き流しているだけで、自然に英語が身につくという、ブルガリア出身の「バルザコフ博士」の手になる超高速英語学習テープ『サジェストロニクスラーニングテープ』がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの第1回目のテープ(デジタル録音・C-30)を、この広告をご覧の方500名様に下記のシステムにて無料で差し上げます。今すぐお電話又は、おハガキでお申込み下さい。

BGMとして楽しんでるだけで
『自然に英語を口ずさみ始める』

『短期間に英会話をマスターしたい』『ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい』『楽しく聴けて、しかも飽きのこないテープがほしい!』
そんな方にぜひお勧めします。



I.バルザコフ博士

の専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハモニーをかし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。『歌の歌詞を憶えるように自然に頭へ入ってゆく』『何度聴いても飽きがこない』『BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける』というのがこのテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

今回無料でお届けするのは、サジェストロニクスラーニング日常英会話シリーズ(1)『ジョンとエイミーのお茶漬け日記』の序章テープ。『空港で』『喫茶店で』等々の場面でジョンとエイミーのカップルの会話を通して、日常英会話のエッセンスが効果的に学べるテープです。

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓を受けた加速教育ナレーション

の専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハモニーをかし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。『歌の歌詞を憶えるように自然に頭へ入ってゆく』『何度聴いても飽きがこない』『BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける』というのがこのテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

今回無料でお届けするのは、サジェストロニクスラーニング日常英会話シリーズ(1)『ジョンとエイミーのお茶漬け日記』の序章テープ。『空港で』『喫茶店で』等々の場面でジョンとエイミーのカップルの会話を通して、日常英会話のエッセンスが効果的に学べるテープです。

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓を受けた加速教育ナレーション

超高速英語学習
「序章テープ希望」

- 住所
- 氏名
- 年令
- 職業
- 電話番号

41

郵便はがき

〒107

東京都港区南青山
1-26-4
アメリカンライブラリー社
1315係

■『超高速英語学習』序章テープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「序章テープ希望」と左記まで、おハガキまたはお電話でお申込み下さい。(序章テープの返品

の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

注意=序章テープのお申込みは16才以上の方に限らせていただきます。

お電話でのお申込みは

フリーダイヤル
0120-363-002
通話料無料

0120-363-002

(受付時間AM8:00~PM24:00 日・祝日も受付中)